ＩＳＳＮ 0918-9904

# 鈴鹿市中ノ川中流域の考古資料

研究紀要　第15－2号

２００６（平成18）年３月

三重県埋蔵文化財センター

# 序

この研究紀要では、「鈴鹿市中ノ川中流域の考古資料」と題しまして、鈴鹿市三宅町・長法寺町地内を中心とした考古資料を特集しました。中ノ川中流域は、昭和60年度から平成２年度にかけて、県営圃場整備事業が継続的に実施され、数多くの遺跡が調査対象となってきました。昭和50年代後半から60年代にかけては、県下全域で圃場整備事業が実施され、当該事業に伴う遺跡の発掘調査もピークの時期でした。しかしその結果、発掘調査そのものに比重がかかり、調査資料の公表に関しては後手に回っていたことは否めません。その結果、三重県を語るうえで重要な資料が、ほとんど公開されることのないままとなったものも少なくありません。

今後はこの反省をもとに、公表が充分でなかった資料を逐次公表し、県民のみなさまをはじめとした各方面で有効活用されるよう務めたいと思います。ぜひとも皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2006年３月

三重県埋蔵文化財センター
所長　吉水康夫

# 例　言

1　本書は、県営圃場整備事業（合川・下之庄地区）に伴い、昭和60年度から63年度にかけて緊急発掘調査を実施した、鈴鹿市長法寺町・三宅町に所在する遺跡群の発掘調査成果をまとまたものである。
2　本書で掲載する遺跡と調査年度および発掘調査現地担当は以下のとおりである。
・寺門遺跡（昭和60年度）中川善夫
・長法寺西垣内遺跡（昭和62年度）仁保晋作
・加和良神社遺跡第１次調査（昭和62年度）仁保晋作
・桑名垣内遺跡第１次調査（昭和62年度）新田剛
・加和良神社遺跡第２次調査（昭和63年度）服部芳人・堀田隆長
・桑名垣内遺跡第２次調査（昭和63年度）服部芳人・堀田隆長
・加和良古墳群第１・２号墳（昭和63年度）服部芳人・中嶋千年・堀田隆長
・徳居門田遺跡（昭和63年度）服部芳人・堀田隆長
3　報告書作成にあたっては、以下の各氏から有益なご教示等を頂いた（所属は当時）。
新田剛（鈴鹿市役所）、藤原秀樹（鈴鹿市考古博物館）、服部芳人（四日市市教育委員会）
4　本報告の基となる記録類および出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターで保管している。
5　当報告書の作成業務は支援研究グループおよび情報普及グループが行った。報告文の執筆は伊藤裕偉・大川操が、遺物の写真撮影は田中久生が行った。本書の編集は伊藤が行った。

# 凡　例

＜地図類＞
1　本書で使用した地図類は、国土地理院発行の1/25,000地形図、鈴鹿市都市計画図（1976年）である。
2　これら地図類は、国土調査法の日本測地系による座標第Ⅵ系（旧国土座標）で表現されている。
3　発掘調査に関する座標も、旧国土座標第Ⅵ系で示している。挿図の方位は全て座標北で示している。なお、磁針方位は西偏６°40′、真北方位は西偏０°17′34″（平成10年）である。
＜遺構類＞
4　土層図は、層の区分を実線で、調査区壁面および採録深度に相当する部分を一点鎖線で表現している。また、遺構面や層位の大区分となる層については、他の土層線よりも太い線で表現した。
5　土層図の色調と土質は、調査担当者の記載をそのまま用いた。
6　当報告書での遺構は、それぞれの遺跡単位で通番としている。
7　遺構図のうち、砂目のスクリーントーンで示した部分は、焼土の範囲である。
8　遺構等の断面図で、平面図の相当位置に矢印があるものは、立面図となっている。
9　遺構番号の頭には、見た目の性格によって、以下の略記号を付けている。
ＳＡ …… 柱列　　ＳＢ …… 掘立柱建物　　ＳＤ …… 溝　　ＳＥ …… 井戸　　ＳＨ …… 竪穴住居
ＳＫ …… 土坑　　ＳＸ …… 墓、古墳周溝　　ＳＺ …… 落ち込みなど　　ｐｉｔ …… ピット、柱穴
＜遺物類＞
10　当報告での遺物実測図類は実物の1/4を基本とし、それ以外の縮尺は、その都度指示している。
11　当報告書での用語は、「つき」は「杯」、「わん」は「椀」に統一している。

# 本文目次


Ⅰ　中ノ川流域の発掘調査とその経過 …… 伊藤 ‥（1）
Ⅱ　中ノ川中流域の地形と歴史的環境 …… 伊藤 ‥（2）
Ⅲ　寺門遺跡　～川面の古墳時代集落～ …… 伊藤 ‥（5）
Ⅳ　長法寺西垣内遺跡・長法寺１号墳　～古墳と中世鍛冶集落～ …… 伊藤 ‥（12）
Ⅴ　桑名垣内遺跡　～規則的に配された古代建物群～ …… 伊藤 ‥（25）
Ⅵ　加和良神社遺跡・加和良３号墳　～古墳と古代・中世集落～ …… 伊藤 ‥（34）
Ⅶ　加和良１・２号墳　～馬具と直弧文の後期古墳～ …… 伊藤・大川 ‥（44）
Ⅷ　徳居門田遺跡　～酒井神社北麓の遺跡～ …… 伊藤 ‥（58）
Ⅸ　中ノ川流域の遺跡動向　～まとめに代えて～ …… 伊藤 ‥（59）


# 挿図一覧


第Ⅱ－１図　中ノ川流域を中心とした遺跡位置図
第Ⅱ－２図　調査区位置図および周辺地形図
第Ⅲ－１図　寺門遺跡調査区平面図
第Ⅲ－２図　寺門遺跡調査区土層
第Ⅲ－３図　寺門遺跡竪穴住居ＳＨ１実測図
第Ⅲ－４図　寺門遺跡竪穴住居ＳＨ５実測図
第Ⅲ－５図　寺門遺跡竪穴住居ＳＨ６実測図
第Ⅲ－６図　寺門遺跡出土遺物（1）
第Ⅲ－７図　寺門遺跡出土遺物（2）
第Ⅲ－８図　寺門遺跡出土遺物（3）
第Ⅳ－１図　長法寺西垣内遺跡平面図（1）
第Ⅳ－２図　長法寺西垣内遺跡平面図（2）
第Ⅳ－３図　長法寺西垣内遺跡平面図（3）
第Ⅳ－４図　長法寺西垣内遺跡平面図（4）
第Ⅳ－５図　長法寺１号墳出土遺物（1）
第Ⅳ－６図　長法寺１号墳出土遺物（2）
第Ⅳ－７図　長法寺西垣内遺跡出土遺物（1）
第Ⅳ－８図　長法寺西垣内遺跡出土遺物（2）
第Ⅳ－９図　長法寺西垣内遺跡出土遺物（3）
第Ⅳ－10図　長法寺西垣内遺跡出土遺物（4）
第Ⅴ－１図　桑名垣内遺跡Ａ地区（西部）平面図
第Ⅴ－２図　桑名垣内遺跡Ａ地区（東部）平面図
第Ⅴ－３図　桑名垣内遺跡Ａ地区（西部）詳細図
第Ⅴ－４図　桑名垣内遺跡Ｂ地区平面図
第Ⅴ－５図　桑名垣内遺跡出土遺物
第Ⅴ－６図　桑名垣内遺跡Ａ地区遺構変遷図
第Ⅵ－１図　加和良神社遺跡（第１次）平面図
第Ⅵ－２図　加和良神社遺跡（第２次）平面図（1）
第Ⅵ－３図　加和良神社遺跡（第２次）平面図（2）
第Ⅵ－４図　加和良神社遺跡（第２次）平面図（3）
第Ⅵ－５図　加和良神社遺跡出土遺物（1）
第Ⅵ－６図　加和良神社遺跡出土遺物（2）
第Ⅵ－７図　加和良神社遺跡土器組成
第Ⅶ－１図　加和良１・２号墳墳丘測量図および断面図
第Ⅶ－２図　加和良１号墳埋葬施設１実測図
第Ⅶ－３図　加和良１号墳埋葬施設２～４平面・立面図
第Ⅶ－４図　加和良２号墳埋葬施設１・２実測図
第Ⅶ－５図　加和良１号墳出土遺物（1）馬具類
第Ⅶ－６図　加和良１号墳出土遺物（2）馬具・小刀・土器
第Ⅶ－７図　加和良１号墳出土遺物（3）鉄鏃ほか
第Ⅶ－８図　加和良１号墳出土遺物（4）玉類
第Ⅶ－９図　加和良１・２号墳出土遺物
第Ⅶ－10図　加和良２号墳出土遺物・玉類
第Ⅷ－１図　徳居門田遺跡関係図
第Ⅸ－１図　中ノ川中流域の遺跡変遷
第Ⅸ－２図　中ノ川中流域における古代・中世遺跡の変遷


# 表一覧


第Ⅰ－１表　中ノ川中流域調査遺跡の経過
第Ⅳ－１表　長法寺西垣内遺跡遺構一覧
第Ⅳ－２表　長法寺西垣内遺跡掘立柱建物・柱列一覧
第Ⅴ－１表　桑名垣内遺跡掘立柱建物・柱列一覧
第Ⅴ－２表　桑名垣内遺跡遺構一覧
第Ⅵ－１表　加和良神社遺跡遺構一覧
第Ⅵ－２表　加和良神社遺跡掘立柱建物・柱列一覧
第Ⅵ－３表　加和良神社遺跡（第２次）出土古代末～中世土器計測集計
第Ⅶ－１表　加和良１号墳出土鉄製品観察表
第Ⅶ－２表　加和良１・２号墳出土玉類観察表


# 写真図版一覧


写真図版１　寺門遺跡
写真図版２　長法寺西垣内遺跡
写真図版３　桑名垣内遺跡
写真図版４　加和良神社遺跡
写真図版５　加和良古墳群　１号墳
写真図版６　加和良古墳群　１・２号墳
写真図版７　加和良古墳群　１号墳出土遺物

# Ⅰ　中ノ川流域の発掘調査とその経過

中ノ川は、鈴鹿市南部から亀山市南部にかけて流れる中規模河川である。この地域では、昭和60年度を皮切りに平成２年度までの６ヶ年にわたり、県営圃場整備事業が実施されている。それに伴い、数多くの遺跡が発掘調査されてきた。その他にも、河川改修工事や道路整備事業に伴う発掘調査、あるいは鈴鹿市教育委員会による発掘調査が実施されている。これらの調査遺跡を累積すると、平成17年度までに16遺跡約20,000㎡の発掘調査が実施されてきたこととなる（第Ⅰ－１表）。

今回ここで報告するのは、県営圃場整備事業にかかる発掘調査のうち、これまでに資料化が不充分であった９遺跡で、発掘調査の件数としては８件分である。ただし、今回の報告は紙幅の都合もあり、必ずしも充分とは言えない。それでも、それぞれの状況を知るのに必要な情報は最低限盛り込んだ。今後は、これらの資料を総合的に用いることにより、考古学から見た中ノ川流域の地域史像を、より明確にするための努力が必要である。

**第Ⅰ－１表　中ノ川中流域調査遺跡の経過**　※「三重県教育委員会」を「県教委」、「三重県埋蔵文化財センター」を「県セ」と略記した。

| 調査年度 | 調査遺跡 | 調査面積(㎡) | 報告書 発行所 | 報告書 発行年 | 報告書 書名 |
|---|---|---|---|---|---|
| 1982 | 三宅西条城跡 | 300 | 県教委 | 1983 | 『三宅西条城跡発掘調査報告』 |
| 1985 | 寺門遺跡 | 1400 | 県セ | 2006 | 『鈴鹿市中ノ川中流域の考古資料』(研究紀要第15-2号) |
| 1986 | 橋門遺跡(第1次) | 3520 | 県教委 | 1989 | 『昭和61年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』Ⅰ |
| 1987 | 桑名垣内遺跡(第1次) | 1000 | 県セ | 2006 | 『鈴鹿市中ノ川中流域の考古資料』(研究紀要第15-2号) |
| | 長法寺西垣内遺跡※1・長法寺1号墳 | 4000 | 県セ | 2006 | 『鈴鹿市中ノ川中流域の考古資料』(研究紀要第15-2号) |
| | 加和良神社遺跡(第1次) | 490 | 県セ | 2006 | 『鈴鹿市中ノ川中流域の考古資料』(研究紀要第15-2号) |
| 1988 | 桑名垣内遺跡(第2次) | 1400 | 県セ | 2006 | 『鈴鹿市中ノ川中流域の考古資料』(研究紀要第15-2号) |
| | 加和良神社遺跡(第2次)・加和良3号墳 | 1980 | 県セ | 2006 | 『鈴鹿市中ノ川中流域の考古資料』(研究紀要第15-2号) |
| | 加和良1・2号墳 | 600 | 県セ | 2006 | 『鈴鹿市中ノ川中流域の考古資料』(研究紀要第15-2号) |
| | 徳居門田遺跡※2 | 230 | 県セ | 2006 | 『鈴鹿市中ノ川中流域の考古資料』(研究紀要第15-2号) |
| 1989 | 敷伝遺跡(第1次) | 1900 | 県セ | 1990 | 『平成元年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』第1分冊 |
| | 口北台遺跡 | 130 | 県セ | 1990 | 『平成元年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』第1分冊 |
| | 西条遺跡 | 290 | 県セ | 1990 | 『平成元年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』第1分冊 |
| 1990 | 橋門遺跡(第2次)・長法寺4号墳 | 1200 | 県セ | 1991 | 『平成2年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』第1分冊 |
| | 別所遺跡 | 200 | 県セ | 1991 | 『平成2年度農業基盤整備事業地域埋蔵文化財発掘調査報告』第1分冊 |
| 1995 | 敷伝遺跡(第2次) | 400 | 県セ | 1996 | 『敷伝遺跡(第2次)発掘調査報告』 |
| 1997 | 長法寺遺跡(第1次) | 535 | 市教委 | 1998 | 『鈴鹿市埋蔵文化財調査年報』Ⅴ |
| 2004 | 長法寺遺跡(第2次) | | 市教委 | 2005 | 『長法寺遺跡－第2次発掘調査－』(現地説明会資料) |

※１　遺跡名称は「西垣内遺跡」であるが、同名の遺跡が県内に存在するため、ここでは「長法寺西垣内遺跡」とする。
※２　遺跡名称は「門田遺跡」であるが、同名の遺跡が県内に存在するため、ここでは「徳居門田遺跡」とする。

# Ⅱ　中ノ川中流域の地形と歴史的環境

## 1　地形的特質

ここで取り扱う中ノ川中流域は、三重県北勢地域の鈴鹿市南部にあたる。中ノ川は鈴鹿山系南端部にあたる錫杖ヶ岳（標高約677m）を主水源とする中規模河川である。中ノ川流域の北には鈴鹿川が、南には安濃川がそれぞれ比較的広い沖積平野を形成している。

中ノ川中流域は、亀山市三寺町から同市下庄町にかけての上部域、鈴鹿市三宅町・長法寺町付近の中部域、鈴鹿市徳居町から同市越知町にかけての下部域の、3地域に細分することができる。本書で取り扱う遺跡は、主に中流中部域に所在している。

当該地域の地形的特徴は、中ノ川流域に向かって伸びる多くの低丘陵が見られることである。後述する遺跡の多くがこの低丘陵を利用している。河川寄りの一帯には小規模な氾濫平野が形成されている。

## 2　歴史的特徴

中ノ川流域の考古学的成果には、鈴鹿市教育委員会が作成した『中ノ川流域の考古学』がある[1]。当資料は展示会パンフレットとして作成された関係上、大部のものではないが、簡潔に分かり易くまとめられている。ここでは、この成果も大いに参照して当地の状況を概観する。

中ノ川中流域では、旧石器・縄文時代の状況はよくわからない。今回報告する加和良神社遺跡で縄文時代中期の小規模な集落が営まれていたことが推察できるに留まる。

弥生時代では、長法寺遺跡で中期の方形周溝墓群が検出されている[2]。また、中ノ川よりも南部の丘陵にあたる三宅西条城跡の調査に伴って、中期の竪穴住居が検出されている[3]。さらに、今回報告する寺門遺跡からも、中期の土器が出土している。これらの状況から、当地の弥生時代中期集落は、丘陵部や平地部に小規模なものが散在する状況であったと考えられる。

弥生時代後期後半から古墳時代前期では、今回報告する寺門遺跡の集落が明確となっている。それ以外の状況は不明であるが、平地部で一定の居住域が形成されはじめる時期として評価できよう。

当該地域に遺跡が増加するのは、古墳時代後期からである。この時期の当該地域を特徴付けるのは、窯跡群と古墳群である。中ノ川中流南岸部を中心に形成されている徳居窯跡群は、散在的ながら現在40基ほどが確認されており、伊勢国内屈指の須恵器生産地となっている。ここでは須恵器とともに埴輪も併焼されたと考えられ、当地近隣の古墳に供給されていると考えられている。

古墳群としては、今回報告する加和良古墳群・長法寺古墳群などがあり、中ノ川に派生する低丘陵上に形成されている。

古墳時代後期から奈良時代にかけての時期には、本書に掲載したように、比較的多くの遺跡が確認できる。この時期は、中ノ川中流上部域が鈴鹿郡、中・下部域が奄芸郡に相当する。『和名類従抄』によれば庵芸郡には奄芸・田井・塩屋・服部・黒田・窪田の計6郷が記載されている[4]。邨岡良弼の『日本地理志料』では、中流中・下部域を黒田郷内と比定している[5]。中流下部域の中ノ川南岸部に位置する郡山遺跡群では、奈良時代前後の規格的に配列された建物群が検出されており、地名の「郡山」から奄芸郡衙の可能性が考えられる[6]。中流中部域は「三宅」の地名があり、古代初期には天皇家直轄領である「屯倉」が存在していた可能性が考えられる。

中世では、中流上部域には中御門家領昼生荘および神宮領（後に建国寺領）昼生御厨[7]が存在していた。中流中部域に想定されている荘園は無いが、今回報告する長法寺西垣内遺跡・加和良神社遺跡・桑名垣内遺跡のほか、敷伝遺跡[8]など中世前期を中心とした数多くの遺跡が存在している。

中流中部域には、中世城館として長法寺城跡と三宅西条城跡がある。長法寺城跡は方形単郭の小規模なもので、在地の小領主層か、あるいは村落単位で

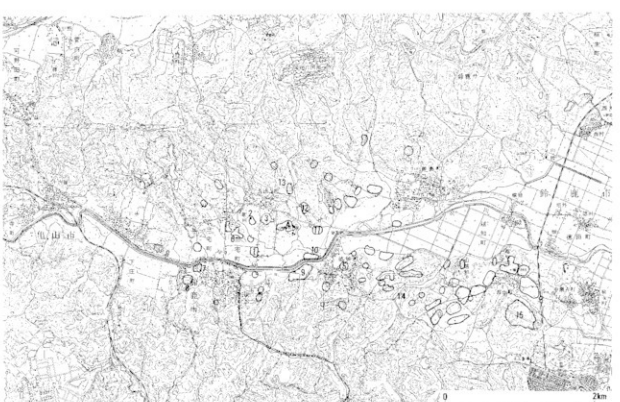
造成された城郭と考えられる。発掘調査が行われた三宅西条城跡からは16世紀後半頃の遺物とともに、石組施設や階段状遺構などが検出されている(3)。

なお、中ノ川下流域にある伊那冨神社は、古代以来の伝統を持つ神社であり、当該期の地域形成にとって重要な意味を有していたと考えられる。

以上、中ノ川中流域を中心とした歴史的状況を概観してきた。鈴鹿川・安濃川という大規模河川に挟まれているため、中ノ川流域はあまり目立たない存在となっている。しかし、古代に奄芸郡として独自に変成されたことが示すように、ここの地域展開には独自のものが観察できる。　　（伊藤）

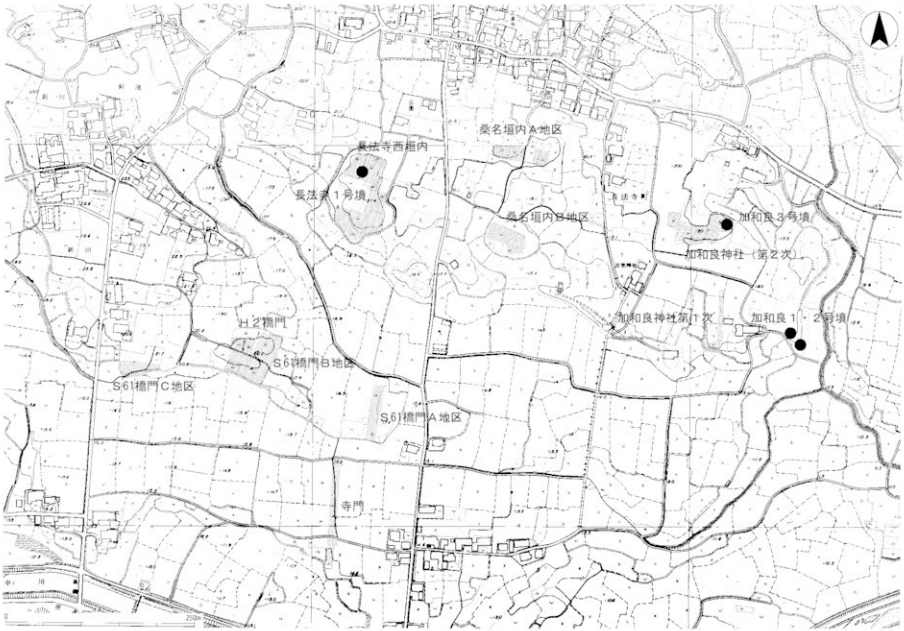
＜註＞

(1)鈴鹿市教育委員会『中ノ川流域の考古学』第３回鈴鹿市埋蔵文化財展図録　1993年）
(2)平成17年度鈴鹿市考古博物館調査。
(3)三重県教育委員会『三宅西条城跡発掘調査報告』(1983年)
(4)京都大学文学部国語国文学研究室編『諸本集成和名類従抄』本文編　臨川書店　1968年）
(5)邨岡良弼『日本地理志料』（京都大学文学部国語国文学研究室編『諸本集成和名類従抄』外編　臨川書店　1966年）
(6)仲見秀雄ほか『鈴鹿市史』第１巻（1980年）
(7)阿部猛・佐藤和彦編『日本荘園大辞典』(東京堂出版　1997年)
(8)三重県埋蔵文化財センター『敷伝遺跡（第２次）発掘調査報告』(1996年）ほか
(9)前掲註(3)文献




第Ⅱ－１図　中ノ川流域を中心とした遺跡位置図（１：50,000）（国土地理院発行「鈴鹿」・「亀山」・「白子」・「椋本」より）

１．寺門遺跡　２．長法寺西垣内遺跡・長法寺古墳群　３．桑名垣内遺跡　４．加和良神社遺跡・加和良古墳群
５．徳居門田遺跡　６．橋門遺跡　７．西条遺跡　８．三宅西条城跡　９．別所遺跡　10．敷伝遺跡
11．口北台遺跡　12．長法寺遺跡　13．長法寺城跡　14．徳居窯跡群　15．郡山遺跡




第Ⅱ－２図　調査区位置図および周辺地形図（１：5,000）（鈴鹿市都市計画図　1971年より）

# Ⅲ　寺門遺跡 ～川面の古墳時代集落～

## 1　調査の経過

寺門遺跡は鈴鹿市長法寺町字寺門に所在する遺跡である。昭和60年度県営圃場整備事業（合川・下之庄地区）に伴って発掘調査が実施された。調査は、昭和60年５月27日から開始し、同年７月26日に終了した。最終的な調査面積は1,400㎡であった。

## 2　調査区の立地と基本層位

寺門遺跡は、中ノ川に向かって南に傾斜する沖積地に立地する。現況は水田である。標高は、調査区北端部で約15.2m、南端部で約14.2mであり、約130mの調査区内で現況１mほどの高低差がある。

つぎに、調査区の基本層位を見る（第Ⅲ－２図）。調査区内では、調査時の地表面から20～30㎝ほどの間が耕作土・床土で、その下に灰色・暗灰褐色系土が20～30㎝ほど堆積している。これが遺物包含層に相当する層と考えられるが、その含有量は少ない。調査区中央部から北部にかけての遺構検出面は褐色系砂質土で、調査区中央部では標高約13.6m、地表面から約60㎝で検出されている。この層上が、遺構検出面となっており、後述のように、古墳時代・中世前期・近世の遺構が確認されている。

ただし、調査区南端部では、標高約12.2mの地点から古墳時代前期前半の土器がまとまって出土している（ＳＺ10、第Ⅲ－１・２図）。このことは、古墳時代前期頃の当遺跡では、中ノ川寄りは現況以上に急峻な落ち込み地形を呈していたことを示唆している。そのため、調査区中央付近では上記３時期の遺構面が同一層上で検出されたものの、調査区南部ではそれぞれの遺構面が異なっており、とくに古墳時代前期頃の遺構面は、トレンチ確認で止まったＳＺ10程度の深さにまで及んでいた可能性が高い。

## 3　検出した遺構

発掘調査の結果確認された遺構は、弥生時代後期～古墳時代前期・中世前期・近世のもので、出土遺物には弥生時代中期のものも見られる。

### a　弥生時代後期～古墳時代の遺構

**竪穴住居ＳＨ１**（第Ⅲ－３図）　東西約5.4m、南北約5.2mのほぼ正方形を呈する竪穴住居である。遺構検出面からの深さは約15㎝である。遺構埋土上層部から炭化材が検出されており、焼失家屋と考えられる。主柱穴と考えられるピットは１基のみ確認されている。炉や貯蔵穴は見られない。遺構埋土内から古墳時代前期後半頃のまとまった土器類が出土している。

**竪穴住居ＳＨ２**　方形の竪穴住居と考えられるが、南・西辺が確認されたに止まり、規模は不明である。遺構検出面からの深さは約20㎝である。重複関係から、ＳＨ１よりも古い遺構である。南辺の中央部に貯蔵穴と考えられるピットがある。埋土内からは、弥生時代後期後半頃の土器が少量出土している。

**竪穴住居ＳＨ３**　ＳＨ１と重複して確認された。東西約5.4m、南北約5.2mのほぼ正方形を呈する竪穴住居である。遺構検出面からの深さは約10㎝で、主柱穴や炉・貯蔵穴は認識されなかった。遺物は少ないが、ＳＨ１の直前頃に相当する遺構であろう。

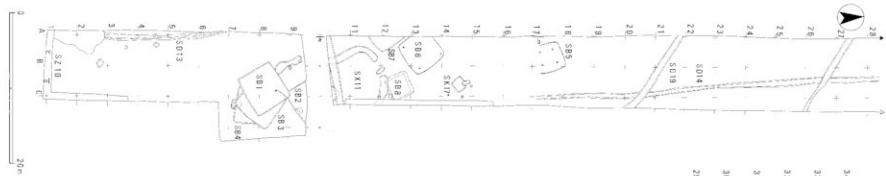
**竪穴住居ＳＨ４**　ＳＨ１・３と重複して確認された。東西約4.9mの方形を呈する竪穴住居である。主柱穴や炉・貯蔵穴は明確に認識されなかった。重複関係からＳＨ３よりも古い。大きくは古墳時代前期頃の遺構と見てよいであろう。

**竪穴住居ＳＨ５**（第Ⅲ－４図）　東西軸約3.7m、南北軸約3.8mの規模である。遺構検出面からの深さは約10㎝である。方形の竪穴住居で、各辺や隅は丸みを帯びている。主柱穴は４箇所確認された。炉と考えられる焼土が北辺近くで検出されている。

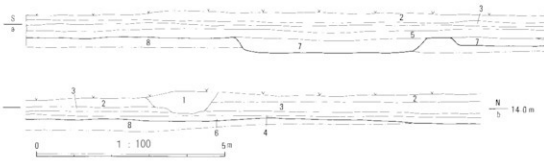
遺構外縁部を中心に土器類が出土している。遺物は、古墳時代前期末から中期にかけてのものである。

**竪穴住居ＳＨ６**（第Ⅲ－５図）　東西約4.7m、南北4.9mのほぼ正方形を呈する竪穴住居である。検出面からの深さは約20㎝である。プランは隅丸で、各辺もＳＨ５と同様少し膨らむ。主柱穴は隅付近に

第Ⅲ－1図　寺門通跡調査区　平面図（1：500）

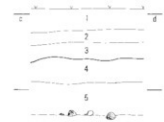



第Ⅲ－2図　寺門通跡調査区土層




調査区西壁土層

1．排水溝埋土（現代）
2．暗灰色土（表土）
3．黄褐色土（床土）
4．灰褐色土
5．暗灰褐色土
6．黄褐色土
7．褐色土（竪穴住居埋土）
8．暗褐色土




調査区南壁土層

1．表土
2．褐色土
3．黄褐色土
4．灰色土、鉄分含む
5．灰色土

3箇所確認されており、調査区外に及んでいるものも含め4本で構成されていたと考えられる。

出土遺物は遺構外縁部に見られ、原位置を保っているものがある。遺物は古墳時代前期初頭頃のもので、良好である。

**竪穴住居ＳＨ7**　方形の竪穴住居と考えられるが、北・東辺が確認されたに止まり、規模は不明。検出面からの深さは約15㎝である。出土遺物が少なく、正確な所属時期は不明であるが、古墳時代前期の範疇と考えられる。

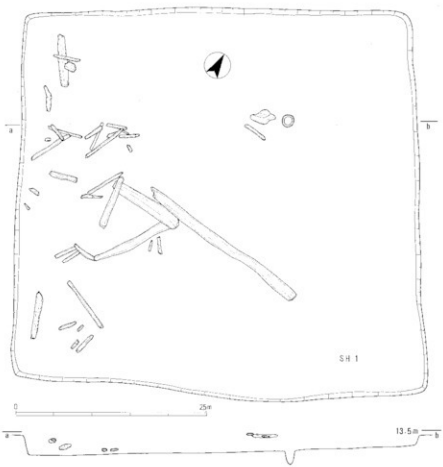
**竪穴住居ＳＨ8**　一辺約3.1mの方形を呈している。明確な施設は無いが、一応竪穴住居として認識する。遺構検出面からの深さは約20㎝である。遺構の中央部分の埋土内から、古墳時代前期初頭頃の土器がまとまって出土している。

**竪穴住居ＳＨ9**　北西隅部分のみであるが、竪穴住居と考えられる。検出面からの深さは約15㎝である。

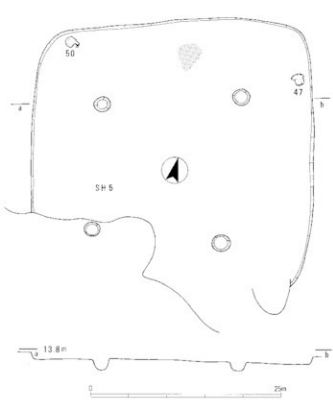
正確な時期を示す出土遺物は無いが、周辺の状況から、古墳時代前期の遺構と考えておく。

**落ち込みＳＺ10**（第Ⅲ－2図）　調査区南端部に設定されたトレンチ内から、古墳時代前期初頭頃の土器類がまとまって出土している。出土遺物は土師器鉢類が中心で、なかにはベンガラの付着したものが見られるため、何らかの工房に伴う遺構である可能性もある。

**周溝ＳＸ11**　北側に陸橋部を持つ方形周溝墓と考えられる。遺構の規模は、南北5m以上、東西約7mと考えられる。遺構検出面からの深さは約40㎝である。遺構埋土内からは、古




第Ⅲ－3図　寺門遺跡竪穴住居ＳＨ1実測図（1：50）




第Ⅲ－4図　寺門遺跡竪穴住居ＳＨ5実測図（1：50）

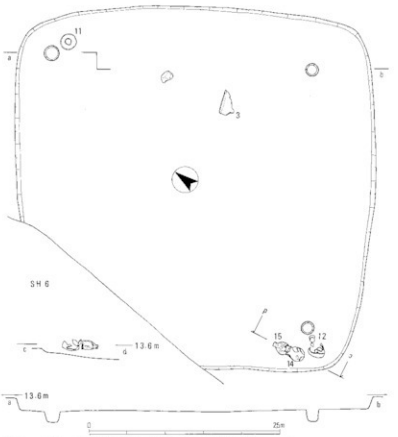
墳時代前期初頭頃の土器が出土している。

**溝ＳＤ12**　重複関係から、ＳＨ１よりも古い時期の遺構である。不整形な溝状遺構であり、検出面からの深さは10㎝程度である。前述のＳＸ11と同様、方形周溝墓の溝である可能性もある。出土遺物には、古墳時代前期前半のものが見られる。

**ｂ　中世以降の遺構**

**溝ＳＤ13**　幅約50㎝、深さ約20㎝の溝で、やや弧を描きながら走る遺構である。埋土内からは近世の陶器が出土した。

**溝ＳＤ14**　幅40～60㎝、遺構検出面からの深さ約10㎝の浅い溝である。現況の地割に合致している。埋土内から13世紀前半頃の陶器椀が出土しているが、遺構の時期はそれよりも新しい可能性が高い。




第Ⅲ－５図　寺門遺跡竪穴住居ＳＨ６実測図（１：50）

## 4　出土した遺物

**ａ　弥生時代中・後期の遺物**

１は細頸壺で、頸部には櫛描横線文が施されている。中期中葉頃のものである。２は高杯で、いわゆる「ワイングラス形」であり、後期のもの。３～７は甕。３はＳＨ６の床面から出土したものであるが、遺構の時期とはかけ離れるため、ここに収めた。口縁部に刺突文を施すもので、中期前半に相当する。４～６は中期後半頃の甕。４の外面には櫛描横線文が施されている。７は受口状口縁を呈するもので、口縁部の内外には波状文が見られる。

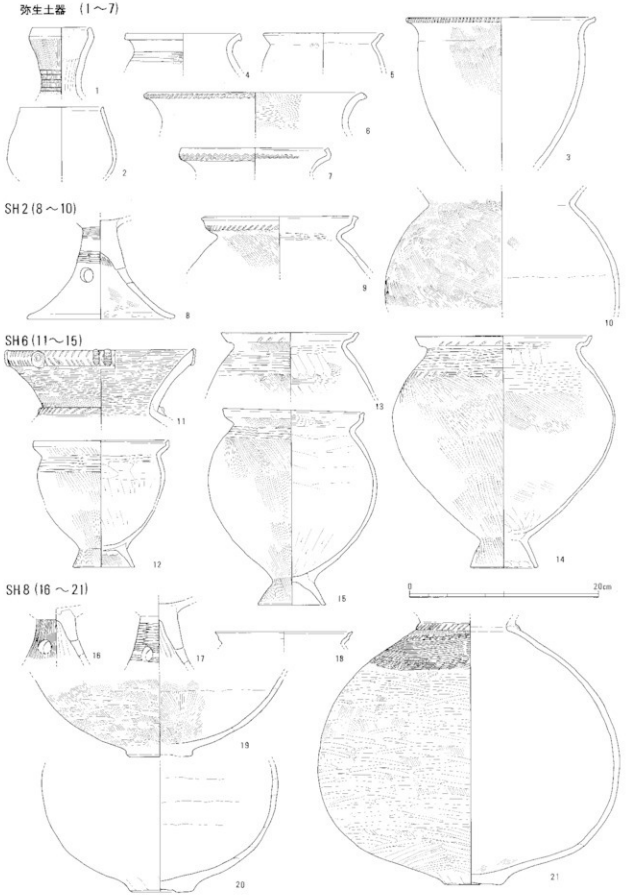
**ｂ　弥生時代後期末～古墳時代の遺物**

**竪穴住居ＳＨ２出土土器**（８～10）　８は高杯の脚部。脚部外面に櫛描横線文が２単位施される。９は受口状口縁の甕で、口縁部外面には刺突文が施されている。10は、口縁部を欠損するものの、口縁部が「く」の字形を呈する甕と考えられる。これらは、弥生時代後期末頃のものと考えられる。

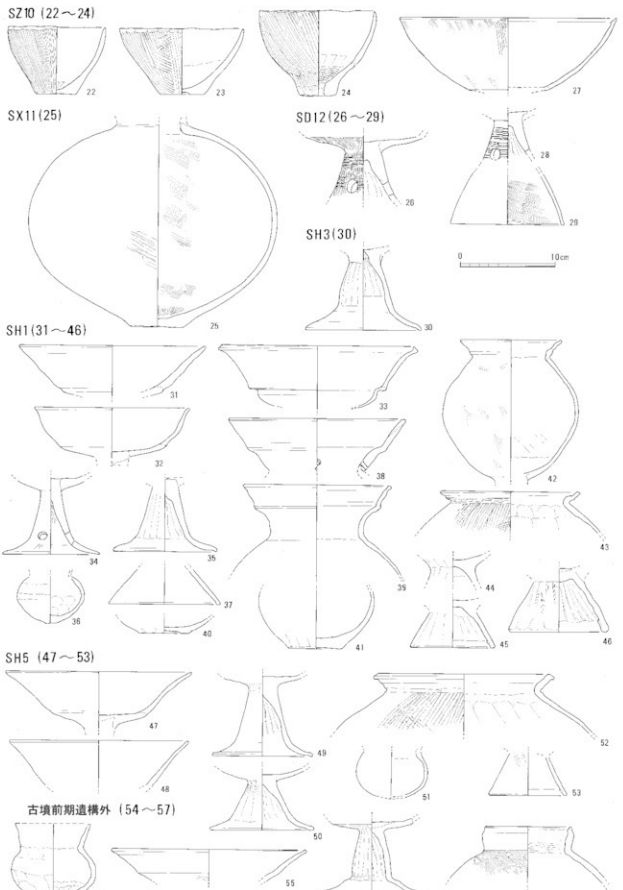
**竪穴住居ＳＨ６出土土器**（11～15）　11は壺。口縁部外面には、刺突による綾杉文を施した後、棒状浮文２個を４方向に、その間に円形浮文を４方向に施すという手の込んだ施文を行っている。12～14は受口状口縁を呈する甕で、13のみ不明ながら、いずれも脚台部が取り付くものと考えられる。12は口縁部と脚台部とが接合しないものの、同一個体と考えられる。13・14は、口縁部と頸下部にそれぞれ刺突文が施されるもので、15は、形態はこれらと同様だが刺突文が省略されている。これらは、古墳時代前期初頭頃のものと考えられる。

**竪穴住居ＳＨ８出土土器**（16～21）　16・17は高杯の脚柱部。18はＳ字状口縁を呈する台付甕（以下、「Ｓ字甕」と呼称）の口縁部片で、赤塚次郎氏の分類によるＢ類に相当する。19～21は壺。21は頸部に突帯を持ち、突帯からその下部にかけて刺突文と直線文とを組み合わせた施文が見られる。これらは、古墳時代前期前半頃に相当するものである。

**落ち込みＳＺ10出土土器**（22～24）　いずれも鉢である。体部はハケメで調整されており、24は下部に擬口縁を有する。24は、当初は甕として製作された




第Ⅲ－６図　寺門遺跡出土遺物（１）（１：４）




第Ⅲ－７図　寺門遺跡出土遺物（２）（１：４）

が、底部に穿たれた孔を塞いで鉢としたものである。体部のハケメは、S字甕のB類と類似した調整方法であるため、古墳時代前期前半頃のものと考えてよいであろう。

**周溝ＳＸ11出土土器**（25）　25は壺。弥生時代後期末から古墳時代前期初頭のものであろう。

**溝ＳＤ12出土土器**（26～29）　いずれも高杯である。27～29は同一個体と考えられるが、断定はできない。古墳時代前期初頭頃のものである。

**竪穴住居ＳＨ１出土土器**（31～46）　31～33は高杯の杯部。31は直線的に開くもので、前代からの伝統を受け継ぐ形態である。32は椀形高杯の祖形となるもので、杯上部はわずかに内彎する。33は椀形の杯下部に屈折して外反する杯上部が付く、やや特殊な形態のものである。34・35は高杯の脚部で、31ないしは32のような杯部が伴うと考えられる。36は小形壺、37は器台と考えられる。

38～41は壺。38・39は二重口縁壺で、頸部が丸みを帯びて開くものである。38の頸部には４方向の焼成後穿孔が見られる。このような穿孔は、堀田遺跡（松阪市）にも類例がある。[2]

42～46はＳ字甕。42は小形のもの。43は口縁部で、頸部には棒状工具による押し引きが見られる。44～46は脚台部。赤塚氏による分類ではＤ類の古い方に相当する特徴を持つ。これらの土器類は、古墳時代前期後半のものと考えられる。

**竪穴住居ＳＨ５出土土器**（47～53）　47・48は高杯の杯部。いずれも直線的に開く口縁部である。49・50は高杯の脚部。50の脚柱外面にはＳ字甕の脚台部と同様の調整手法が見られる。[3] 51は小形壺。52・53はＳ字甕で、赤塚氏による分類ではＤ類の新しい方に相当する。これらは、古墳時代前期後半の末期から中期初頭頃のものと考えられる。

**遺構外出土土器**（54～57）　いずれも前期後半頃を中心とした時期と考えられる。ただし、57は類例が少なく、正確な時期は不明である。

**ｃ　中世以降の遺物**

58～71には、遺構出土遺物も含め、中世以降の遺物を図示した。11世紀前半頃の灰釉陶器（60・61）や13世紀代の陶器椀（山茶椀）があるが、遺構に伴う中世の遺物は無い。59はＳＤ13出土の陶器小皿で、18世紀頃のものと考えられる。

## 5　まとめと検討

弥生時代後期末から古墳時代前期後半頃の竪穴住居群や方形周溝墓の形成が確認された。この時期が寺門遺跡の中心時期といえる。古墳時代前期後半頃の集落跡は、近隣では地蔵僧道跡[4]や山城遺跡[5]（いずれも亀山市）が知られる程度で少ない。当遺跡の内容が判明したことは、当該時期の研究深化に大きく寄与するものといえる。

出土遺物では、竪穴住居出土資料を中心に良好なものが多い。今後は、これらの資料をもとに、中ノ川流域の古墳時代土器全体を考察することが可能となろう。[6]

その他では、ベンガラの付着した鉢（24）が注目できる。この遺物から、当遺跡ではベンガラを用いた工芸が行われていたものと推察できる。　（伊藤）

＜註＞

(1)赤塚次郎「廻間式土器」（『廻間遺跡』（財）愛知県埋蔵文化財センター　1990年）

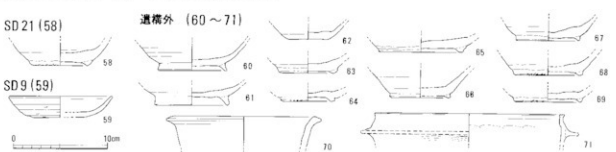
(2)三重県埋蔵文化財センター『堀田　第３～５次調査』(2004年)

(3)伊藤裕偉「伊勢における古墳時代前期後半の土師器に関する覚書」（『研究紀要』第14号　三重県埋蔵文化財センター　2005年）

(4)亀山市教育委員会『地蔵僧遺跡発掘調査報告』(1978年)

(5)三重県埋蔵文化財センター『北瀬古遺跡・山城遺跡』(1994年)

(6)このことについては、伊藤裕偉「古墳時代前・中期における伊勢の土器相」（『研究紀要』第15－１号　三重県埋蔵文化財センター　2006年）も参照されたい。




第Ⅲ－８図　寺門遺跡出土遺物（３）（１：４）

# Ⅳ　長法寺西垣内遺跡・長法寺１号墳
## ～古墳と中世鍛冶集落～

### １　調査の経過

長法寺西垣内遺跡(1)および長法寺１号墳は、鈴鹿市長法寺町字西垣内に所在する遺跡である。県営圃場整備事業（合川・下之庄地区）に伴い、昭和62年９月から昭和63年１月にかけて発掘調査が実施された。最終的な調査面積は4,000㎡である。

### ２　調査区の立地と基本層位

長法寺西垣内遺跡は、中ノ川北岸部の低丘陵上に立地する。同一丘陵沿いの東部には桑名垣内遺跡、谷を隔てた南側の別丘陵上には橋門遺跡がある。長法寺古墳群は、長法寺西垣内遺跡と橋門遺跡が所在する低丘陵上に形成されている。遺跡の標高は、圃場整備前の状態で21.4mほどである。

地形を微細に見ると、遺跡の南半部は小規模な谷が巡っている。したがって、遺跡は低地部に突き出た半島状の様相を呈している。今回の発掘調査では、中央部を除くその大部分が調査されたことになる。

遺構は、表土下約30～40cmで検出されている。遺構検出面の高さは、南部で20.6m、北部で21.0mである。

### ３　検出した遺構

長法寺西垣内遺跡で検出した遺構の詳細は、第Ⅳ－１・２表に示した。以下では時期別の概要を記す。

**a　長法寺１号墳**

長法寺１号墳は、調査前から墳丘の一部が残存していた。調査の結果、その周囲から内径で約22mの周溝（ＳＸ26）が確認された。出土した須恵器から、６世紀初頭頃の築造と考えられる。調査区内各所から墳輪が出土しており、いずれもこの古墳に伴うものと考えられる。なお、周溝埋土内からは中世の遺物も出土している。

**b　長法寺西垣内遺跡**

長法寺西垣内遺跡では、中世から近世にかけての遺構が数多く検出されている。その中心となるのは掘立柱建物・井戸・土坑・区画溝などである。少量の中世前期（鎌倉時代前期）の遺構が見られるが、多くは中世後期（15世紀後半から16世紀初頭頃）のものである。

掘立柱建物は15棟、柱列は19条検出された。柱列としたものは多くが掘立柱建物で、検出時に構成されるピットが明確にならなかったものが多いと考えている。小規模で側柱のものが多い。

井戸は４基ある。ただし、これは残された記録から判断可能なものに限っており、あと数基ほど井戸の可能性がある遺構が見られる。

土坑は、調査区全域にわたって確認されている方形土坑が特徴的である。この遺構では、ＳＫ９・11のように多量の鉄滓を含むものが見られる。調査区南西部では、連続して形成された方形土坑と、それに接続するかのように開削された溝（ＳＤ37）がある。これらの遺構は、出土遺物の状況から見て鍛造にかかる遺構群と考えられる。

区画溝では、調査区北部に見られるＳＤ27が最も大規模である。断面形は箱堀状を基本とし、一部薬研堀状の部分が見られる。埋土内からは中世後期の土器類が出土しており、当該時期の屋敷地を画した溝かと考えられる。

### ４　出土した遺物

出土遺物には、長法寺１号墳に伴うと考えられる古墳時代の遺物と、中世前期以降の集落および鍛冶関連の遺物が見られる。

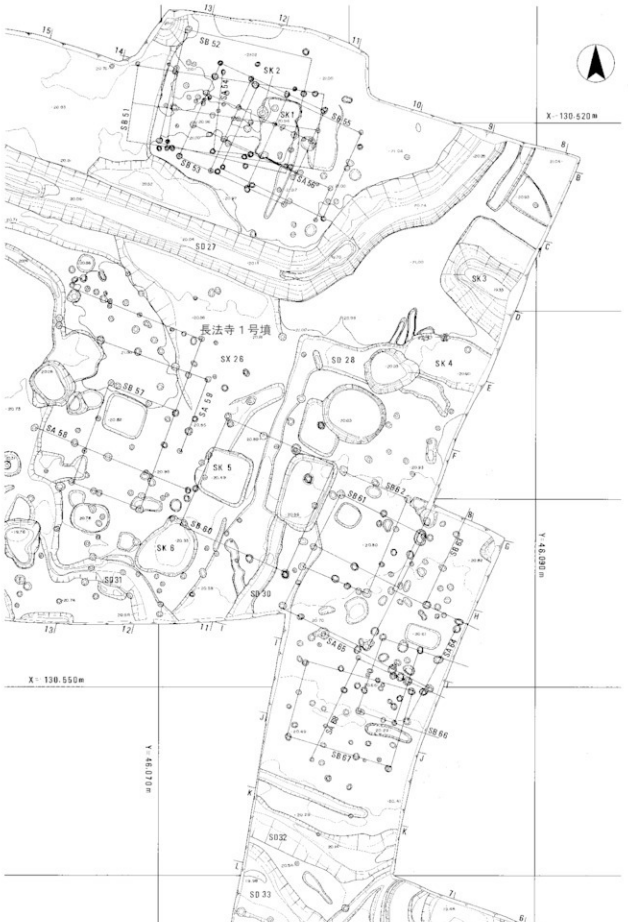
**a　長法寺１号墳関連遺物**

残された記録から、長法寺１号墳関連と特定できるのは46の須恵器のみである。円筒埴輪類を中心とした他の遺物が長法寺１号墳周溝（ＳＸ26）出土かどうかは、残された記録からは断定できない。

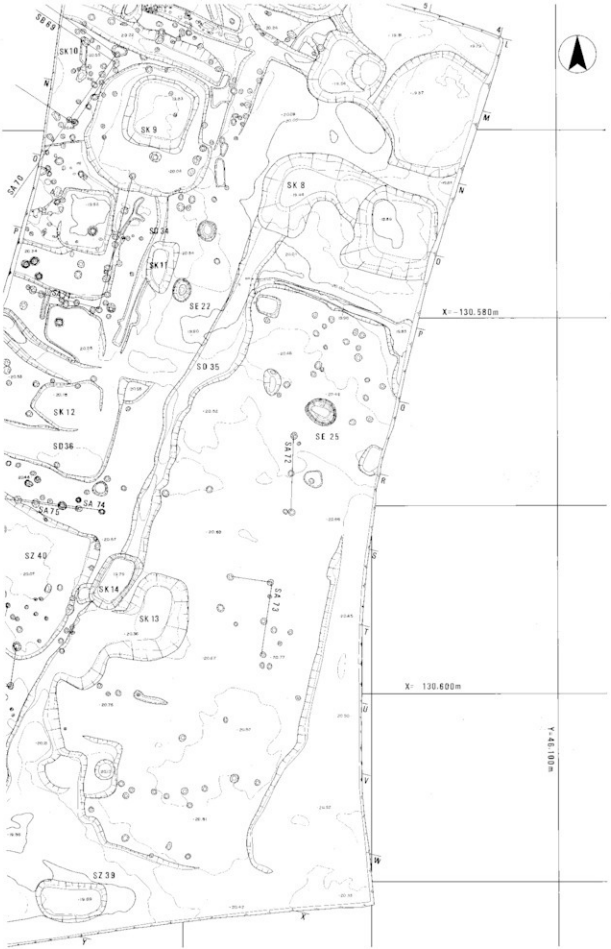
**円筒埴輪**（１～24）　焼成の状況から、須恵器のような硬質の焼き上がりのもの（須恵質、１～11）、やや焼成の甘い須恵質（半須恵質、12～16）、軟質で土師器類の焼成に近いもの（土師質、17～24）が

図郭配置図（1：1,000）

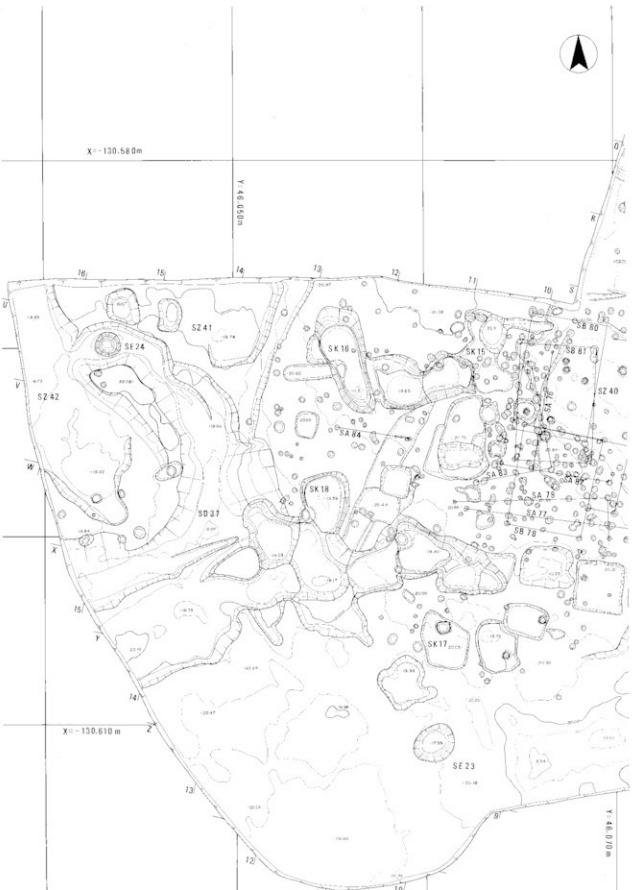
第Ⅳ－1図　長法寺西垣内遺跡 平面図（1）（1：200）




第Ⅳ－２図　長法寺西垣内遺跡 平面図（２）（１：200）




第Ⅳ－３図　長法寺西垣内遺跡 平面図（３）（１：200）




第Ⅳ－４図　長法寺西垣内遺跡 平面図（４）（１：200）

## 第Ⅳ－１表　長法寺西垣内遺跡遺構一覧

| 遺構番号 | 性 格 | 時 期 | グリッド | 調査時遺構名 | 特徴・形状・計測数値など |
|---|---|---|---|---|---|
| SK 1 | 土坑 | 中世前期？ | B11 | SK2 | 山茶椀5型式以降 |
| SK 2 | 土坑 | 中世前期？ | B12 | SK1 | 山茶椀5型式 |
| SK 3 | 井戸？ | 中世後期 | C8 | SX1 | |
| SK 4 | 土坑 | 中世後期 | D7 | SX1 | |
| SK 5 | 方形土坑 | 近世 | G11 | SX1 | 桟瓦 |
| SK 6 | 方形土坑 | 中世前期～ | H12 | SK1 | |
| SK 7 | 土坑 | 近世 | H14 | 長方形土坑 | |
| SK 8 | 土坑 | 中世後期 | N5 | SX2 | |
| SK 9 | 方形土坑 | 中世後期 | N8 | SX1 | 中北勢系羽釜、鉄滓多量、 |
| | | | N9 | SX1 | |
| SK 10 | 小土坑 | | M9 | SX6 | |
| SK 11 | 土坑 | 中世後期 | P7 | SX1 | 鉄滓多量 |
| SK 12 | 土坑 | 中世後期 | R8 | SK1・赤褐色土坑 | 埴輪多い、中北勢系羽釜 |
| SK 13 | 方形土坑 | 中世後期 | T6 | SX1 | 南伊勢系羽釜、4b |
| SK 14 | 方形土坑 | 中世後期 | T7 | SK1 | |
| SK 15 | 土坑 | 古墳～ | T10 | SK1 | |
| SK 16 | 土坑 | 中世後期 | T12 | SK1 | 常滑10型式 |
| SK 17 | 方形土坑 | 中世後期 | | SX15 | |
| SK 18 | 方形土坑 | 中世後期 | V12 | SK1 | 中北勢系羽釜 |
| SK 19 | | 中世後期 | P8 | SK1 | 正確な位置不明 |
| SK 20 | | 中世後期 | E9 | SK1 | 正確な位置不明、古瀬戸 |
| SK 21 | | 中世Ⅰ～ | B11 | SK1 | 正確な位置不明 |
| SE 22 | 井戸 | 中世後期 | P7 | SE1 | |
| SE 23 | 井戸 | 中世Ⅳa | Z10 | SE1 | 鉄滓 |
| SE 24 | 井戸 | 中世Ⅳa | U15 | SE1 | 中北勢系羽釜 |
| SE 25 | 井戸 | 中世後期 | Q5 | SE1・2 | 鉄滓 |
| SX 26 | 周溝（長法寺1号墳） | 古墳後期～ | E13 | 周溝埋土 | 直径約22m、周溝幅約6m、墳丘の残骸残る。須恵器・円筒埴輪・形象埴輪あり。 山茶椀5型式頃の遺物混入。 |
| | | | I14 | SD1 | |
| SD 27 | 区画溝 | 中世Ⅳ | D13・E17 | 大溝 | 深さ約80cm。断面箱堀・薬研堀。 |
| SD 28 | 溝 | 中世Ⅲa | D9 | SD1 | |
| SD 29 | 溝 | 中世後期 | H9 | SD1 | 消滅、南伊勢系鍋3b～4b |
| SD 30 | 溝 | 中世Ⅰb | H10 | SD1 | 山茶椀5型式 |
| | | | G10 | SD1 | |
| SD 31 | 溝 | 中世～近世 | H12 | SD1（新） | 桟瓦含む |
| SD 32 | 溝 | 中世 | K8・9 | SD1 | |
| SD 33 | 溝 | 中世Ⅲb～Ⅳ | L8 | 石溝SD | 常滑10型式 |
| | | | L9 | SD1 | |
| SD 34 | 溝 | 中世Ⅳa | O8 | SD1 | 中北勢系羽釜 |
| SD 35 | 溝 | 中世Ⅳ | R6 | SD1 | |
| | | | P6 | SD1南北溝 | 鉄滓、瓦 |
| | | | S7 | SD1 | 山茶椀5型式 |
| SD 36 | 溝 | 中世Ⅳ | R8 | SD1 | 埴輪多い |
| SD 37 | 溝 | 中世Ⅱ～ | V13 | SK1・落ち込み | 落ち込み状、土取坑か？ |
| SZ 38 | 落ち込み | 中世Ⅱ～ | H15 | 落ち込み | |
| SZ 39 | 落ち込み | 中世Ⅲ～ | W6 | 南落ち込み | |
| SZ 40 | 落ち込み | 中世Ⅱ～Ⅳ | T8 | SK1 | |
| | | | T9 | 落ち込み | |
| SZ 41 | 落ち込み | 中世Ⅲ～Ⅳ | T13 | 落ち込み | SD37と一連か？ |
| | | | U13 | 落ち込み | |
| SZ 42 | 落ち込み | 中世Ⅳ | T16 | SX1 | SD37と一連か？ |

## 第Ⅳ－２表　長法寺西垣内遺跡掘立柱建物・柱列一覧

| 過去遺構名 | グリット | ピット番号 | ピット遺物の時期 | 建物時期 | 規模（東西間・m×南北間・m） | 主軸 | 方位(N基準) | 備 考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＳＢ５１ | B11～13 | | | 不明 | 5？(10.1)× 2(4.0) | 東西 | N７° E | |
| ＳＢ５２ | B11～13 | | | 中世Ⅱｂ期？ | 3？(7.1)× 3(6.2) | 東西 | N13° E | ＳＫ１が南東隅土坑になるか？ |
| ＳＢ５３ | B11～12 | | | 不明 | 3(6.2)× 3(5.6) | 東西 | N24° E | |
| ＳＡ５４ | Ｂ１２ | | | 不明 | 1(2.0)以上× 2(4.3) | 東西 | N６° E | |
| ＳＢ５５ | B10～12 | | | 不明 | 3(6.1)× 3(4.8) | 東西 | N24° E | |
| ＳＡ５６ | B11～12 | | | 不明 | 3(5.9)× 1？(1.8) | 東西 | N24° E | |
| ＳＢ５７ | E～G11～13 | | | 不明 | 4(7.5)× 5(9.6) | 南北 | N20° E | 西側不明瞭 |
| ＳＡ５８ | G11～13 | | | 15世紀後半 | 4(8.8) | 東西 | N22° E | |
| ＳＡ５９ | E11～13 | | | 不明 | 4(8.4)× 2(4.2) | 東西 | N20° E | |
| ＳＢ６０ | F９～H10 | | | 不明 | 3(6.2)× 3(6.3) | 南北 | N23° E | |
| ＳＢ６１ | G・H８～９ | | | 不明 | 2(5.0)× 4(6.8) | 南北 | N26° E | |
| ＳＢ６２ | F～H９・10 | | | 不明 | 2(3.8)× 3(5.6) | 南北 | N22° E | |
| ＳＢ６３ | G・H７・８ | | | 不明 | 2(3.9)以上× 2(4.0)以上 | 南北 | N25° E | 西側に庇 |
| ＳＡ６４ | H・Ｉ８ | | | 不明 | 3(5.7) | 南北 | N27° E | |
| ＳＡ６５ | H・Ｉ７～８ | | | 不明 | 4(6.4) | 東西 | N27° E | |
| ＳＢ６６ | H・Ｉ７～８ | | | 不明 | 1(2.0)以上× 2(4.1) | 東西 | N18° E | |
| ＳＢ６７ | Ｉ・Ｊ８～９ | | | 不明 | 3(5.8)× 2(4.0) | 東西 | N15° E | |
| ＳＡ６８ | Ｉ・Ｊ８～９ | | | 不明 | 2(4.0)以上× 3(5.9) | 南北 | N24° E | |
| ＳＢ６９ | M・N９～10 | | | 不明 | 1(2.0)以上× 2(3.9) | 東西 | N35° E | |
| ＳＡ７０ | M・N９～10 | | | 不明 | 1(2.1)以上× 3(6.4)以上 | 南北 | N36° E | |
| ＳＡ７１ | O・P８～９ | | | 不明 | 2(3.7)× 4(7.4) | 南北 | N15° E | |
| ＳＡ７２ | Q・R５ | | | 15世紀後半 | 2(4.0) | 南北 | N２° E | |
| ＳＡ７３ | S・T５ | | | 不明 | 1(2.2)× 2(3.8) | 南北 | N８° E | |
| ＳＡ７４ | S８～９ | | | 不明 | 2(4.4) | 東西 | N８° E | |
| ＳＡ７５ | S８～９ | | | 不明 | 2(4.5) | 東西 | N８° E | |
| ＳＡ７６ | T・U９～10 | | | 不明 | 3(6.4) | 南北 | N９° E | ＳA82と同一か |
| ＳＡ７７ | V８～10 | | | 不明 | 4(8.9)× 1 (2.2) | 東西 | N７° E | |
| ＳＢ７８ | T～V９・10 | | | 不明 | 2(4.0)× 3(5.4)<br>西庇 1(1.4)× 2(3.6) | 南北 | N11° E | |
| ＳＡ７９ | U・V９・10 | | | 不明 | 4(8.0)× 1(2.1) | 東西 | N１° W | |
| ＳＢ８０ | S～U９・10 | | | 不明 | 2(4.0)× 3(6.2) | 南北 | N９° E | |
| ＳＢ８１ | S～U９・10 | | | 不明 | 2(4.0)× 3(6.2) | 南北 | N３° E | |
| ＳＡ８２ | U９・10 | | | 不明 | 3(6.0) | 東西 | N９° E | ＳＡ７６と同一か |
| ＳＡ８３ | U・V９・10 | | | 不明 | 2(4.0)× 3(5.7) | 南北 | N９° W | |
| ＳＡ８４ | V11・12 | | | 不明 | 2(3.8) | 東西 | N９° E | |

ある。いずれにも、底部に淡輪技法が見られる（11・15・24）。須恵質の外面調整は、[5]タテハケのちＣ種ヨコハケが施されている。半須恵質のものでは、12・13の内外面にベンガラの塗布が見られる。外面調整は須恵質と同様である。土師質のものは、外面に継続するＢ種ヨコハケが見られる（20～23）。

**形象埴輪**（25～44）　人物（25～32）、家（33）、盾（34）、馬（35～44）がある。いずれも土師質のもの。

25は女性の髪。26は指の部分で手に何かを持っている。27は武人の手で、籠手をはめているように見える。30・31は人物の腰の部分か。34は線刻で三角や半円形を描く。

35～44は、同一個体と考えられる馬。35は臆と耳の部分と考えられ、臆を下ろした表現と考えられる。36は杏葉の鈴部分。37・38は辻金具、39～43は鞍の部分にあたる。これらは、著名な石薬師東63号墳の馬形埴輪[6]と極めてよく類似している。

**周溝ＳＸ26出土遺物**（46～48）　1号墳の周溝にあたる。46は須恵器杯蓋で、田辺昭三氏による陶邑編年[7]のＴＫ47型式に併行するものであろう。

**ｂ　長法寺西垣内遺跡出土の遺物**

出土遺物の傾向を記しておく。

**土師器類**　中世前期では、南伊勢系鍋（63・65）のほか、中北勢系の土師器皿類（56・57）などがある。中世後期では、南伊勢系鍋（64・94・106・135など）、南伊勢系羽釜（100）、中北勢系羽釜（76・133・134・171など）、中北勢系皿類（121・124）などがある。171は鈴鹿川流域下流部に特徴的な器形である。土師器の量は、全体に少ない[8]。

**陶器類**　尾張産を中心とした陶器椀類（山茶椀、50・52・80・108・115など）は、藤澤良祐氏による編年[9]の第４型式から第９型式あたりまでのものが見られる。古瀬戸製品（72・97など）は少ない。

常滑産の甕類（59・86・87など）や鉢（85・139～144）は多く、とくに中世後期の鉢の出土が目立つ。他には、信楽産擂鉢もある（104・137・138）。

**貿易陶磁器**　青磁椀（54・69・90・113・117・166など）、白磁椀皿類（68・70・102・163・164など）、染付椀（96）などがある。量は少ない。117の青磁椀は、良好なものは県内では少ない。90は内面見込みに馬のスタンプ文を施したもので、これも珍しい。107・117などは、熱を受けて釉が変色している。

**石製品類**　この遺跡では、砥石の出土がやや多い印象を受ける（55・112・119・123・176）。いずれも小形で、仕上砥に相当するものが多い。128は滑石製石鍋で、中世前期のもの。他には石臼（177）や一石五輪塔の空風輪（178）などもある。

**その他**　輪の羽口の良好なものが見られる（51・174・175）。また、47kgもの椀形鉄滓が出土している。

## 5　まとめと検討

今回の調査で、長法寺１号墳は６世紀初頭頃の築造であり、長法寺西垣内遺跡は中世前期から後期にかけての遺跡であることが確認された。

長法寺１号墳の埴輪は、すでに鈴木敏則氏が紹介している[2]。鈴木分類ではⅡｃ類・Ⅱｄ類、すなわち、基部と口縁部のヨコハケが省略される段階とされる。今回の観察では、須恵質・半須恵質にはＣ種ヨコハケが、土師質にはＢ種ヨコハケが見られた。ハケと焼成手法とは相互に関係がありそうである。

中世の当遺跡は、最治関連遺跡と評価できる。詳細が不明な点が残念であるが、方形土坑と鍛冶とは大きく関係しそうである。35棟ほど見られた掘立柱建物や柱列には、工房が含まれていると考えられる。また、出土遺物中に常滑産練鉢が多いことも注目である。触媒となる石灰などを研磨する容器として常滑産練鉢が選択されたものと推測できる。[10]　（伊藤）

＜註＞

(1)当遺跡の名称は「西垣内遺跡」であるが、県内他市町にも同名の遺跡があるため、ここでは「長法寺西垣内遺跡」とする。

(2)埴輪の外面調整は、川西宏幸「円筒埴輪総論」（『考古学雑誌』64-2　1978年）に拠る。

(3)三重県埋蔵文化財センター『石薬師東遺跡・石薬師東古墳群発掘調査報告』（2000年）

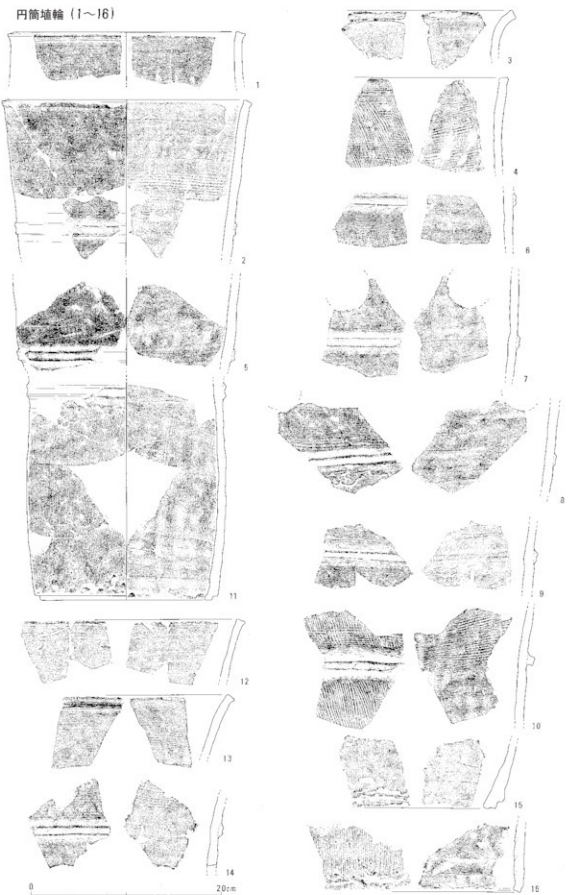
(4)田辺昭三『須恵器大成』（角川書店　1981年）

(5)中世の時期区分は、伊藤裕偉「中世後期における伊勢・志摩地域の土器相」（『関東・東海における中世土器（煮炊具）の最近における研究成果』静岡大学　2005年）の南伊勢地域の区分による。

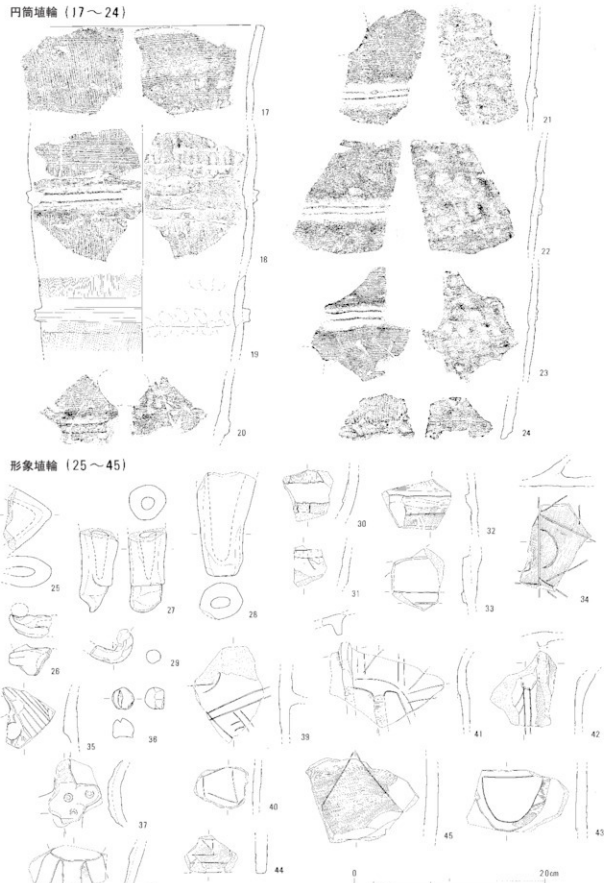
(6)藤澤良祐「山茶碗研究の現状と課題」（『研究紀要』第３号三重県埋蔵文化財センター　1994年）

(7)鈴木敏則「伊勢の淡輪円筒埴輪」（『Miehistory』vol. 3三重歴史文化研究会　1991年）

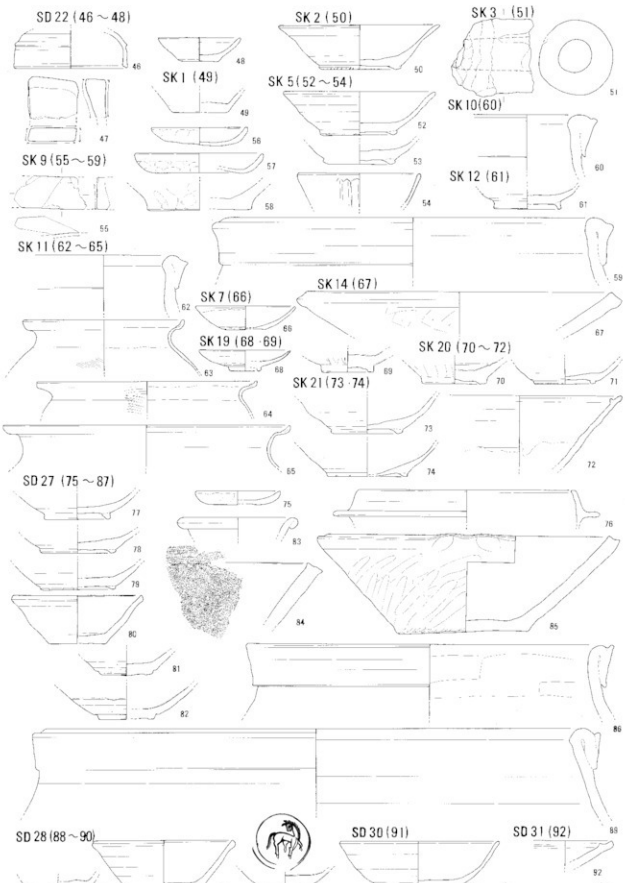
(8)このような練鉢の使い方があることについては、中野晴久氏（常滑市歴史民俗資料館）から御教示頂いた。



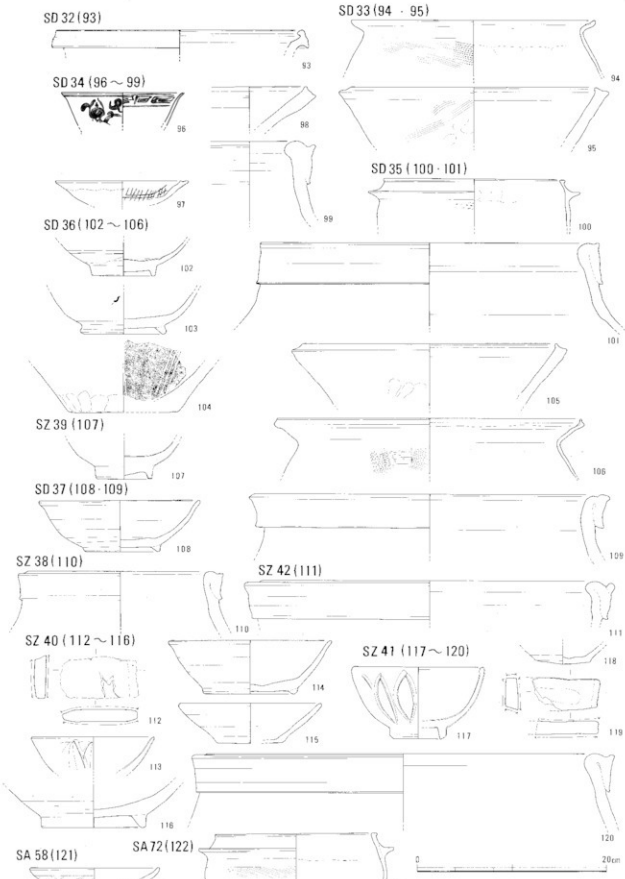

第Ⅳ－５図　長法寺１号墳出土遺物（１）（１：４）



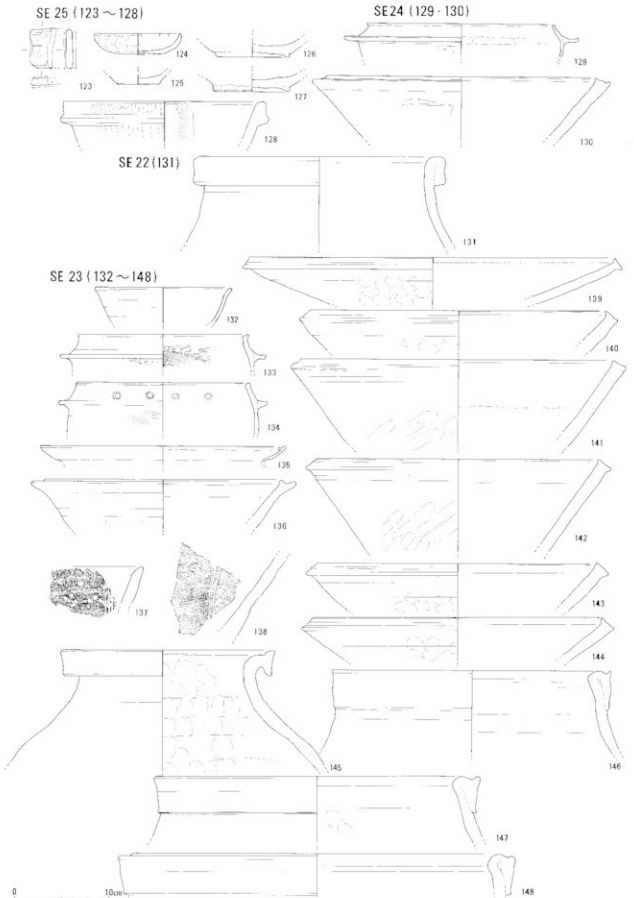

第Ⅳ－６図　長法寺１号墳出土遺物（２）（１：４）



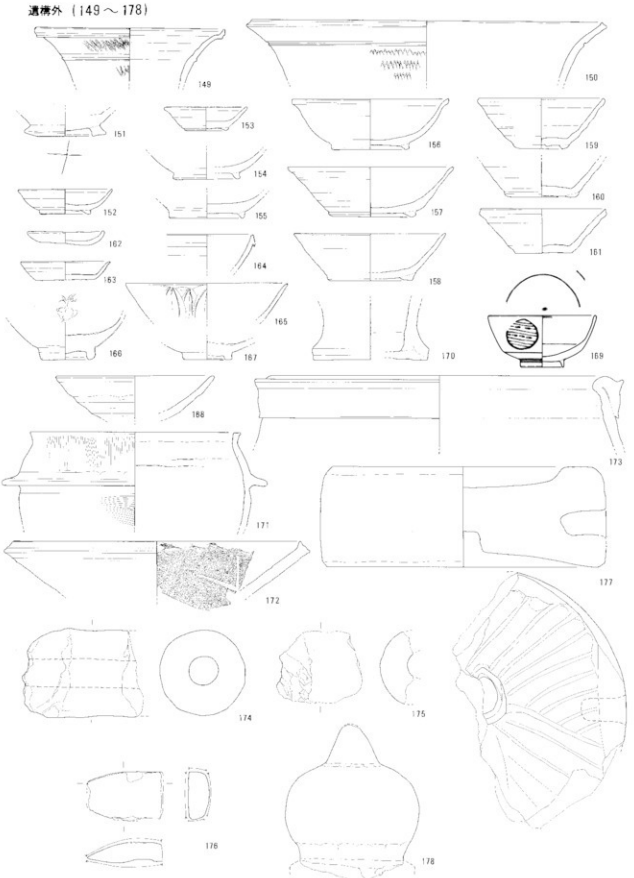

第Ⅳ－７図　長法寺西垣内遺跡出土遺物（１）（１：４）




第Ⅳ－８図　長法寺西垣内遺跡出土遺物（２）（１：４）




第Ⅳ－９図　長法寺西垣内遺跡出土遺物（３）（１：４）




第Ⅳ－10図　長法寺西垣内遺跡出土遺物（4）（1：4）

# Ⅴ　桑名垣内遺跡 ～規則的に配された古代建物群～

## 1　調査の経過

桑名垣内遺跡は、鈴鹿市長法寺町字桑名垣内に所在する遺跡である。県営圃場整備事業（合川・下之庄地区）に伴い、昭和62年度（第１次）・昭和63年度の２ヶ年にわたって調査がなされた。第１次調査は昭和62年11月から同年12月にかけて実施され、最終調査面積は1,000㎡である。第２次調査は昭和63年５月16日から同年６月４日にかけて実施され、最終調査面積は1,400㎡である。

発掘調査区は、大きく北部と南部に分かれており、北部をＡ地区、南部をＢ地区と呼称している。

## 2　調査区の立地と基本層位

桑名垣内遺跡は、中ノ川に向かって南に派生する丘陵尾根上に立地している。標高は北部で約21m、南部で約19mであり、圃場整備前の水田面からは約2.5mの比高差があった。

調査区の基本層位は、現況表土層約20㎝を除去するとそのまま基盤層である黄褐色系粘質土層に達する単純なものである。基盤層は基本的に地質学上で言う洪積台地に相当し、その最上面に形成された粘土層が基盤となっている。そのため、当遺跡には基本的に遺物包含層が形成されていない。

## 3　検出した遺構

発掘調査の結果確認された遺構には、奈良・平安時代と中世のものがある。ただし、出土遺物には古墳時代後期の良好なものも含まれている。

以下、各地区ごとに主立った遺構の状況を見る。なお、遺構の詳細は後掲の遺構一覧表に記載したので、ここでは各地区の状況を記す。

### a　Ａ地区の遺構

Ａ地区では、古墳時代から中世にかけての遺構が確認された。

**古墳時代の遺構**　古墳時代の遺構は、小規模な土坑が見られるに止まる。土坑ＳＫ51からは、後期の土器類が出土している。また、出土遺物は微量であるが、ＳＨ57は隅丸方形を呈する遺構であり、当該時期の竪穴住居と推測する。

**掘立柱建物・柱列群**　Ａ地区では、掘立柱建物が20棟、柱列が８条確認でき、その大半が第１次調査区側にある。

Ａ地区の掘立柱建物群は、以下のような主軸方位による区分が可能である。

①真北から１・２度程度の振れ幅に収まる一群。
②真北から10度ほど西に振れる一群。
③真北から７度ほど東に振れる一群。
④真北から14度ほど東に振れる一群。

このうち、①群は東西・南北の長大な柱列を伴い、ＳＢ１・２・３がそれぞれ規格的に配置される状況を呈するものである。ピットから出土した土器類を見る限り、平安時代でも前期の９世紀前半頃の建物群と考えられる。

②群は、棟方向を揃えるＳＢ10・12や、少し離れた位置にあるＳＢ13などとともに、やはり規格的な配置をするものが見られる。ただし、ＳＢ10・12付近には上記以外にも同方向の建物が見られ、比較的長期にわたって形成されているものと考えられる。②群の建物のなかで最も新しいＳＢ22が中世前期初頭に相当するので、②群全体としては①群の直後から中世前期初頭にかけて形成されたと考えられる。

③群は、直径30㎝程度の小規模なピットで構成される一群である。ＳＢ23・24・27といくつかの柱列が揃うことで、規格性を有している。所属時期の明確なものは少ないが、中世前期初頭の12世紀代頃の遺構群と想定できる。

④群に相当するのはＳＢ28の１棟のみである。所属時期は明確ではないが、ピットの規模が30㎝内外と小さいことから、中世前期以降の建物と推測できる。なお、④群とほぼ同じ方位を採る遺構に、調査区内をめぐる溝がある。溝の埋土内からは、中世前期の遺物が出土している。実際にはそれよりも新しい、耕地の開墾などに伴うものと考えられる。

第Ⅴ－１図　桑名垣内遺跡Ａ地区（西部）平面図（１：200）

b　B地区の遺構

B地区では、飛鳥・奈良時代から中世にかけての遺構が検出された。

**竪穴住居**　飛鳥・奈良時代の遺構としては、竪穴住居がある。調査区南東部で確認したSH55・56は、平面形が長方形を呈している。いすれの遺構からも出土遺物は少ない。

**掘立柱建物・柱列**　B地区でも多くの掘立柱建物や柱列が確認できるが、A地区ほど良好な規格性は見られない。所属時期も明確に把握できないものが多い。SA42からは13世紀代に相当する土器が出土している。

## 4　出土した遺物

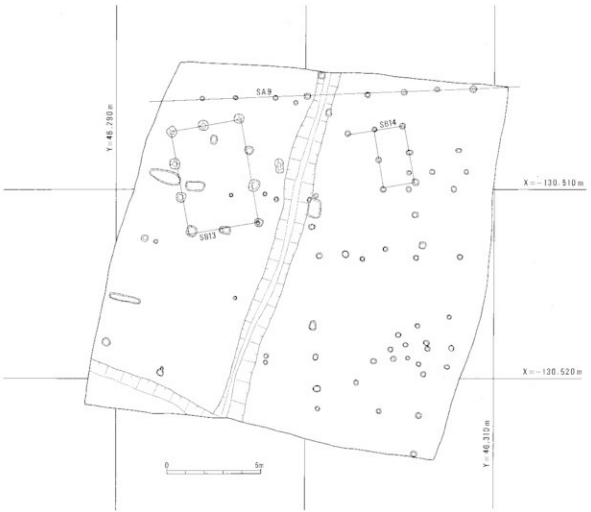
桑名垣内遺跡の出土遺物は、全体的に極めて少ない。以下、それぞれの概要を述べる。

a　A地区出土遺物

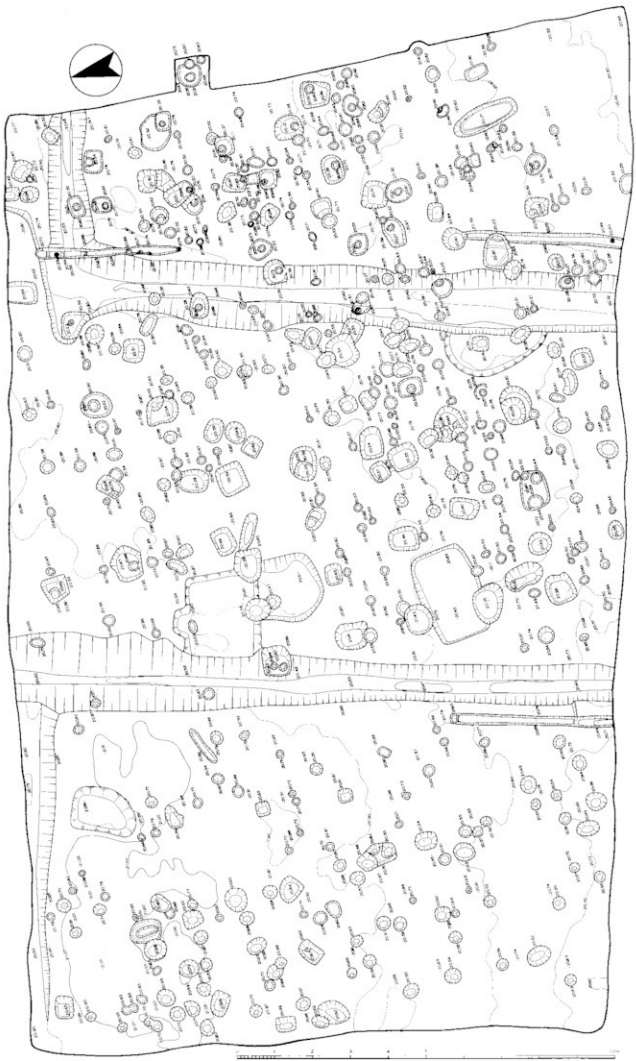
1～6は古墳時代後期の遺物。1～3はSK51出土で、6世紀中葉頃の土師器類である。4～6は遺構外出土の須恵器類で、杯類は田辺昭三氏による陶邑編年（以下、「田辺編年」[1]）のTK10型式併行、6の壺はTK23型式に併行するものと考えられる。

7～11は、飛鳥～奈良時代の遺物。SK52出土土器は、奈良時代前半頃に相当するものであろう。

12～16・19は平安時代の遺物。12はSB2の柱穴から出土した土師器甕で、斎宮跡ではⅡ期以降に出現するものであるため、概ね9世紀頃のものと考えて大過ない[2]。13はSB3出土の灰釉陶器椀、14はSA7出土の灰釉陶器皿で、いずれも斎藤孝正氏による猿投窯編年（以下「斎藤編年」[3]）の黒笹90号窯式1型式に相当する。15はSB20出土の土師器甕で、奈良時代以降の形態である。16は黒色土器椀で、内面のみ黒化されている。斎宮編年では、第Ⅱ期第3段階以降によく見られる。19は灰釉陶器の把手付瓶で、斎藤編年の黒笹90号窯式から折戸53号窯式併行期に見られる形態である。




第Ⅴ－2図　桑名垣内遺跡A地区（東部）平面図（1：200）　※昭和63年度調査区



第Ⅴ－３図　桑名垣内遺跡Ａ地区（西部）詳細図（１：100）　－28－

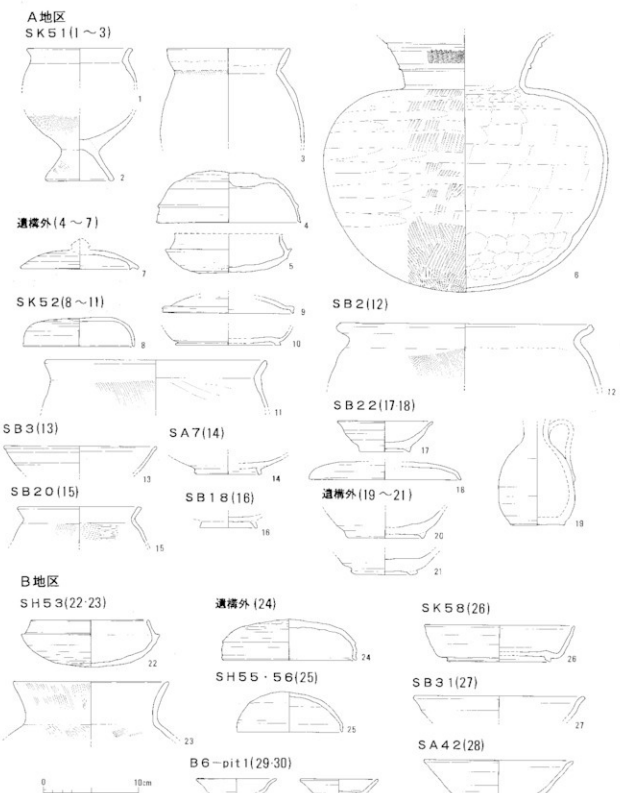
第Ⅴ－４図　桑名垣内遺跡Ｂ地区 平面図（１：200）

## 第Ⅴ－１表　桑名垣内遺跡掘立柱建物・柱列一覧

| 遺構番号 | 地区 | 次数 | グリット | ピット番号 | ピット遺物の時期 | 建物時期 | 規模（東西尾・m×南北尾・m） | 主軸 | 方位（磁北） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＳＢ１ | Ａ | １次 | Ｄ１ | ＳＫ２ | | 平安前期？ | 5（10.9）×　2？（4.2） | 東西 | Ｎ０° | |
| | | | Ｅ１ | ＳＫ２・６ | 須恵器片（奈良？） | | | | | |
| | | | Ｃ２ | ＳＫ１ | 黒色土器Ａ類 | | | | | |
| ＳＢ２ | Ａ | １次 | Ｃ３ | ＳＫ１・２ | | 平安前期 | 2（5.0）×　4（7.7） | 南北 | Ｎ０° | |
| | | | Ｃ４ | ＳＫ１ | | | | | | |
| | | | Ｄ３ | ＳＫ３ | | | | | | |
| | | | Ｅ２ | ＳＫ１ | | | | | | |
| | | | Ｅ３ | ＳＫ１・２ | 土師器皿（平安前期） | | | | | |
| ＳＢ３ | Ａ | １・２次 | Ｇ２ | ＳＫ３ | 灰釉陶器Ｋ14－Ｋ90 | 平安前期 | 3（6.0）×　2（4.1） | 東西 | Ｎ０° | |
| | | | Ｇ３ | ＳＫ１ | | | | | | |
| ＳＡ４ | Ａ | １次 | Ｄ４ | ＳＫ１（重複） | 平安前期 | 平安前期 | 3（6.8） | 東西 | Ｎ０° | |
| | | | Ｅ４ | ＳＫ３・７ | 灰釉陶器Ｋ90～ | | | | | |
| | | | Ｆ４ | ＳＫ１ | | | | | | |
| ＳＢ５ | Ａ | １次 | | | | | 2（3.5）以上×　3（4.2） | 東西 | Ｎ１° Ｗ | |
| ＳＢ６ | Ａ | １次 | Ｂ３ | ＳＫ１ | | | 2（3.6）×　3（3.6） | 南北 | Ｎ１° Ｗ | 総柱建物 |
| ＳＡ７ | Ａ | １次 | | | | | 3（6.0） | 南北 | Ｎ１° Ｗ | |
| ＳＡ８ | Ａ | ２次 | | | | | 4（8.6）×　2（3.8） | 南北 | Ｎ１° Ｗ | 掘立柱建物か？ |
| ＳＡ９ | Ａ | ２次 | Ｉ２ | ｐｔ３ | | | 7（14.4）以上 | 東西 | Ｎ２° Ｗ | |
| | | | Ｋ１ | ｐｔ１ | | | | | | |
| ＳＢ１０ | Ａ | １次 | Ｄ１ | ＳＫ１ | | | 1（2.0）以上×　3（6.1） | 東西 | Ｎ７° Ｅ | |
| | | | Ｅ２ | ＳＫ４ | 須恵器片（奈良） | | | | | |
| ＳＢ１１ | Ａ | １次 | Ｄ４ | ＳＫ１（重複） | 平安以降 | 平安以降 | 3（6.0）×　2（4.0） | 東西 | Ｎ９０° Ｗ | |
| | | | Ｅ４ | ＳＫ４（重複） | 平安前期？ | | | | | |
| ＳＢ１２ | Ａ | １・２次 | Ｇ１ | ＳＫ２ | 須恵器片 | 平安前期？ | 3（5.2）×　2（4.1） | 東西 | Ｎ９０° Ｗ | 製塩土器が出土した ピットよりも新 |
| ＳＢ１３ | Ａ | ２次 | Ｈ３ | ｐｔ１ | | | 2（3.7）×　3（5.5） | 南北 | Ｎ９０° Ｗ | |
| | | | Ｉ２ | ｐｔ１・２ | | | | | | |
| | | | Ｉ３ | ｐｔ１・２・３ | | | | | | |
| | | | Ｊ３ | ｐｔ１ | | | | | | |
| ＳＢ１４ | Ａ | ２次 | | | | | 2（3.0）×　2（3.1） | 南北 | Ｎ９０° Ｗ | 総柱建物か？ |
| ＳＡ１５ | Ａ | １次 | | | | | 1（2.0）×　4.7（8.0） | 南北 | Ｎ９０° Ｗ | |
| ＳＢ１６ | Ａ | １次 | Ｅ２ | ＳＫ３ | | | 2（5.0）×　4（8.0） | 南北 | Ｎ７° Ｗ | |
| ＳＢ１７ | Ａ | １次 | Ｅ３ | ＳＫ４ | | 平安以降 | 2（3.1）×　3（5.0） | 南北 | Ｎ９０° Ｗ | |
| | | | Ｅ４ | ＳＫ４（重複） | 平安前期？ | | | | | |
| ＳＢ１８ | Ａ | １次 | Ｆ２ | ＳＫ３ | 黒色土器Ａ類（平安前期） | 平安前期 | 3（6.9）×　2（3.9） | 東西 | Ｎ７° Ｗ | |
| | | | Ｆ３ | ＳＫ２ | | | | | | |
| | | | Ｇ２ | ＳＫ５ | 製塩土器（奈良末～） | | | | | |
| ＳＢ１９ | Ａ | １次 | | | | | 2（3.1）以上×　2（2.6） | 東西 | Ｎ３° Ｗ | |
| ＳＢ２０ | Ａ | １次 | Ｅ１ | ＳＫ１・３ | | | 2（3.0）×　2（3.6） | 南北 | Ｎ１° Ｅ | |
| | | | Ｆ１ | ＳＫ１ | 土師器皿（奈良末～） | | | | | |
| ＳＡ２１ | Ａ | １次 | Ｅ１ | ＳＫ４ | 須恵器片（平安以降） | 平安 | 4（8.4）×　3（6.1） | 南北 | Ｎ４° Ｅ | |
| ＳＢ２２ | Ａ | １次 | Ｅ３ | ＳＫ３ | 山茶椀４型式 | 中世Ⅰｂ | 4（8.1）×　2（4.2） | 東西 | Ｎ７° Ｗ | |
| ＳＢ２３ | Ａ | １次 | Ｅ１ | ＳＫ５ | | 平安以降 | 3（6.2）×　3（6.6） | 南北 | Ｎ７° Ｅ | |
| | | | Ｅ３ | ＳＫ３ | 灰釉陶器Ｋ90～ | | | | | |
| ＳＢ２４ | Ａ | １次 | Ｅ４ | ＳＫ６ | 平安前期～ | 平安以降 | 2（4.2）×　3（5.7） | 南北 | Ｎ８° Ｅ | |
| ＳＡ２５ | Ａ | １次 | | | | | 2（3.8） | 東西 | Ｎ６° Ｅ | |
| ＳＡ２６ | Ａ | １次 | | | | | 2（4.0） | 東西 | Ｎ７° Ｅ | |
| ＳＢ２７ | Ａ | １次 | | | | | 2（4.4）×　2（4.6） | 南北 | Ｎ７° Ｅ | |
| ＳＢ２８ | Ａ | １次 | | | | | 3（5.6）以上×　2（4.4）以上 | 南北 | Ｎ１４° Ｅ | |
| ＳＢ３１ | Ｂ | １次 | Ｄ１０ | ＳＫ２ | | 平安後期 | 3（6.0）×　1（2.0） | 東西 | Ｎ１５° Ｅ | |
| | | | Ｅ１１ | ＳＫ１ | 灰釉陶器・山茶椀３型式 | | | | | |
| ＳＡ３２ | Ｂ | １次 | Ｃ１３ | ＳＫ１ | 須恵器片 | | 2（5.6） | 東西 | Ｎ１２° Ｅ | |
| ＳＢ３３ | Ｂ | １次 | | | | | 2（3.9）×　3（6.1） | 東西 | Ｎ９° Ｅ | |
| ＳＡ３４ | Ｂ | １次 | | | | | 2（5.4）×　2（3.9） | 東西 | Ｎ１２° Ｅ | |
| ＳＡ３５ | Ｂ | １次 | | | | | 3（6.0） | 東西 | Ｎ７° Ｅ | |
| ＳＢ３６ | Ｂ | １次 | | | | | 2（4.5）×　2（4.2） | 東西 | Ｎ５° Ｅ | |
| ＳＢ３７ | Ｂ | １次 | | | | | 3（5.8）×　2（3.8） | 東西 | Ｎ５° Ｅ | ＳＢ３６の建て替え？ |
| ＳＡ３８ | Ｂ | １次 | | | | | 2（4.4） | 東西 | Ｎ５° Ｅ | |
| ＳＢ３９ | Ｂ | １次 | | | | | 2（3.9）×　2（4.2） | 南北 | Ｎ６° Ｅ | |
| ＳＡ４０ | Ｂ | １次 | | | | | 1（5.8）×　2（4.3） | 南北 | Ｎ９° Ｅ | |
| ＳＢ４１ | Ｂ | １次 | | | | | 2（4.4）×　2（4.0） | 東西 | Ｎ２１° Ｅ | |
| ＳＡ４２ | Ｂ | １次 | Ｈ１１ | ＳＫ１ | 山茶椀５型式 | 中世Ⅱａ | 6（12.9）以上×　2（5.0） | 東西 | Ｎ０° | |
| ＳＡ４３ | Ｂ | １次 | Ｆ１１ | ＳＫ１ | | | 5（10.2） | 南北 | Ｎ５° Ｗ | |
| | | | Ｆ１２ | ＳＫ１ | | | | | | |
| ＳＢ４４ | Ｂ | １・２次 | Ｂ３ | ｐｔ１ | | | 3（6.2）×　2（4.6） | 東西 | Ｎ４° Ｅ | |
| ＳＡ４５ | Ｂ | ２次 | | | | | 1（2.0）×　2（4.2） | 南北 | Ｎ１° Ｗ | |
| ＳＢ４６ | Ｂ | ２次 | | | | | 2（4.3）×　3（5.8） | 南北 | Ｎ０° | |
| ＳＡ４７ | Ｂ | ２次 | | | | | 4（6.3） | 東西 | Ｎ０° | |
| ＳＡ４８ | Ｂ | ２次 | | | | | 3（6.5） | 東西 | Ｎ０° | |

## 第Ⅴ－２表　桑名垣内遺跡遺構一覧

| 遺構番号 | 性　格 | 時　期 | 地区 | 次数 | 調査時遺構名 | 特徴・形状・計測数値など |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ＳＫ５１ | 土坑 | 古墳後期 | Ａ | １次 | Ｄ３－ＳＫ１ | |
| ＳＫ５２ | 土坑 | 弥生前後 | Ａ | １次 | Ｄ２－ＳＫ１ | |
| ＳＨ５３ | 竪穴住居 | 古墳後期？ | Ｂ | １次 | Ｃ１１－ＳＨ | 方形　3.2m×2.8m以上　中央北寄りに焼土 |
| ＳＨ５４ | 竪穴住居 | 不明 | Ｂ | １次 | | 方形　東壁寄りに焼土 |
| ＳＨ５５ | 竪穴住居 | 奈良～弥良？ | Ｂ | ２次 | Ｃ６－ＳＢ１ | 方形　4.4m×4.1m　壁溝巡あり　ＳＨ５６より古。 |
| ＳＨ５６ | 竪穴住居 | 奈良～弥良？ | Ｂ | ２次 | Ｃ６－ＳＢ１ | 方形　3.9m×4.6m　壁溝巡あり　ＳＨ５５より新。 |
| ＳＨ５７ | 竪穴住居 | 古墳後期？ | Ａ | ２次 | Ｃ２－ＳＢ１ | 隅丸方形　3.4m×2.1m以上 |
| ＳＫ５８ | 土坑 | 弥良 | Ｂ | ２次 | Ｅ１－焼土 | 竪穴住居か？ |




第Ⅴ－５図　桑名垣内遺跡出土遺物（１：４）

17～21は平安時代末から鎌倉時代初頭にかけての遺構から出土した遺物。17は陶器小椀で、藤澤良祐氏による山茶椀編年（以下、「藤澤編年」[4]）の尾張型第４型式に相当する。18は須恵器蓋で、混入と考えられる。20・21は渥美産の陶器椀。

b　B地区出土遺物

22～24は古墳時代の遺物。22・24の須恵器は、田辺編年のＴＫ10型式に併行する。

25・26は飛鳥・奈良時代の遺物。25は須恵器蓋で７世紀中葉頃、26は須恵器杯で８世紀前半代のものであろう。

27～30は平安時代後期から鎌倉時代初頭の遺物。27はＳＢ31出土の陶器椀で、藤澤編年の尾張型第３型式に併行するものであろう。28はＳＡ42出土の陶器椀で、藤澤編年の第５型式に相当する。29・30は、藤澤編年の尾張型第５型式に併行する陶器小皿である。

## 5　調査のまとめ

桑名垣内遺跡では、古墳時代後期から中世にかけての遺構・遺物が見られた。なかでも遺跡の中心となる時期は、平安時代前半期頃である。

建物群は、主軸方位によって①～④群に区分できた（第Ⅴ－６図）。このうち、主軸を真北に向ける①群は平安時代前期（９世紀中葉）頃、真北から西へ10度ほど振れる③群は平安時代中期から中世初頭（９世紀末から12世紀中葉）頃と考えられる。この２群は、いずれも掘立柱建物と掘立柱塀（柱列）が企画的に配列されたと考えられるものである。

この形態から見て、単なる地域土豪層の造作によるものとは考えにくく、中央権力が介在した何らかの役所施設と見るのが妥当のように思われる。当遺跡の性格として、遺跡の状況からは、郡衙関連施設（当地では桑芸郡衙）の可能性を考える必要がある。また、「三宅町」の名から、古代ミヤケ制との関係も想定される。桑名垣内遺跡の性格としては、大きくはこの２点から考える必要がある。

まずは桑芸郡衙の可能性を見よう。桑芸郡衙については、当遺跡の下流約４kmにある郡山遺跡群（鈴鹿市郡山町）が考えられている[5]。「コホリヤマ」という地名と遺跡内容から見て、郡山遺跡群（とくに末野Ｂ遺跡[6]）が桑芸郡衙である可能性は高いであろう。桑名垣内遺跡は桑芸郡の西端にあたるため、位置的に見れば桑芸郡衙と考えるのは苦しい。ただし、末野Ｂ遺跡の中心時期は奈良時代のようであり、平安時代の状況が明確ではない。そのため、当初は末野Ｂ遺跡にあった桑芸郡衙が桑名垣内遺跡に移動したという可能性も完全には否定できない。郡山遺跡群に関する報告は途上であり、正式な報告を待って再検討する必要がある。

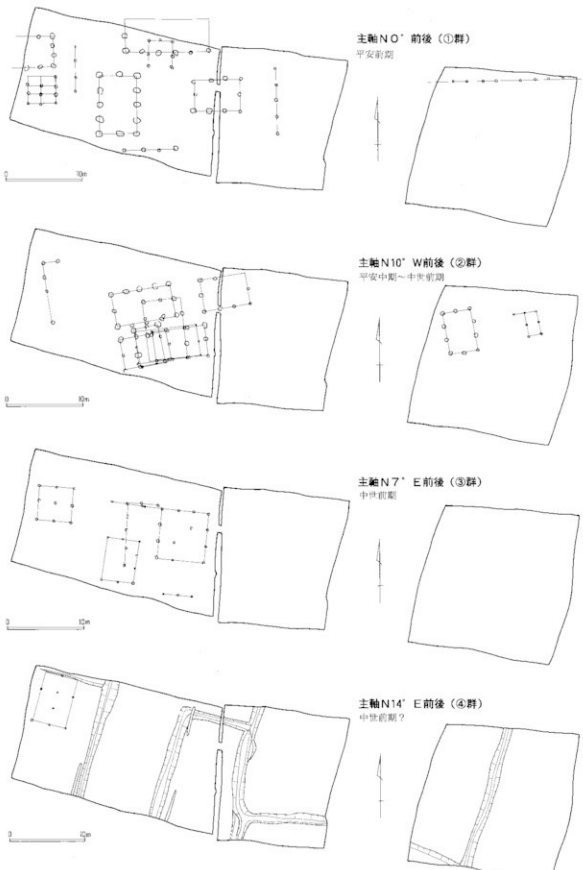
つぎに、ミヤケとの関連である。桑名垣内遺跡の所在する地は鈴鹿市三宅町であり、古代ミヤケの遺称と認識されている。ミヤケは「大化前代における天皇もしくは朝廷の直轄領」とされ、狭義に見れば「一般的には貢納奉仕の拠点たる官衙を示す[7]」とされている。ミヤケが７世紀前半以前のものと限定されるのであれば、桑名垣内遺跡をミヤケとの関連で把握するのは妥当ではない。しかし、全国各地にミヤケの遺称が残っている状況からは、制度上の問題はともかく、実態としてのミヤケは７世紀後半以降も残っていたのではないだろうか。

平野邦雄氏の説明によれば、郡家や正倉も、「ミヤケ」と訓読されるという。「ミヤケ」には公的施設という意味合いが含まれているものと考えられる。桑名垣内遺跡は、実態としてのミヤケの存在を示す可能性も考えるべきであろう。

いずれにしても、桑名垣内遺跡で検出した遺構の性格は、公的施設としての側面が濃厚と考えられる。今後の検討深化が待たれる非常に重要な遺跡といえよう。　（伊藤）

＜註＞

(1)田辺昭三『須恵器大成』（角川書店　1981年）
(2)斎宮歴史博物館『斎宮跡発掘調査報告』Ⅰ（2001年）
(3)斎藤孝正『日本の美術』409　～越州窯青磁と緑釉・灰釉陶器～（至文堂　2000年）
(4)藤澤良祐「山茶碗研究の現状と課題」（『研究紀要』第３号　三重県埋蔵文化財センター　1994年）
(5)仲見秀雄ほか『鈴鹿市史』第１巻（1980年）
(6)鈴鹿市遺跡調査会『末野Ｂ遺跡調査概要』（1978年）、同『末野Ｃ遺跡調査概要』（1979年）、および註(5)文献による。
(7)『国史大辞典』（吉川弘文館）所収、「みやけ」（平野邦雄氏執筆）
(8)仁藤敦史「古代王権とミヤケ制」（『考古学ジャーナル』533　2005年）




第Ⅴ－６図　桑名垣内遺跡Ａ地区遺構変遷図（１：500）

# Ⅵ　加和良神社遺跡・加和良３号墳
## ～古墳と古代・中世集落～

### 1　調査の経過

加和良神社遺跡および加和良３号墳は、鈴鹿市三宅町字西条に所在する。県営圃場整備事業（合川・下之庄地区）に伴い２回にわたる調査を行った。第１次調査は昭和62年12月15日から12月24日にかけて、第２次調査は昭和63年６月６日から８月３日にかけて実施された。最終的な調査面積は、第１次調査が490㎡、第２次調査が1,980㎡である。

### 2　調査区の立地と基本層位

加和良神社遺跡は、中ノ川北岸部に位置する低丘陵上に立地する。遺跡の西部には三宅神社が鎮座する。遺跡の西部は桑名垣内遺跡である。遺跡の東部には狭い谷が入り込み、南北２箇所の低丘陵を形成している。第１次調査区は南部丘陵、第２次調査区は北部丘陵にあたる。

第１次調査区の記録から層位の状況を見る。第１次調査区は標高17.0～17.6ｍで、北部ほど高い。遺構の基盤となる層は黄褐色粘質土で、地表下30～40㎝ほどで達する。表土と基盤層の間には灰褐色系土が堆積し、含有量の少ない遺物包含層に相当する。

### 3　検出した遺構

検出遺構の詳細は、第Ⅵ－１・２表に示した。[1] 以下では、次数ごとに時期別の概要を記す。

#### a　第１次調査区の遺構

第１次調査区の遺構には、掘立柱建物18棟、柱列６棟のほか、土坑・落ち込みがある。

**縄文時代**　後期の土器を伴う土坑が１基検出されている（ＳＫ25）。縄文時代に相当する遺構はこれのみで詳細は分からない。

**古墳時代**　後期頃と考えられる遺物が少量ながら出土している。その場所は掘立柱建物ＳＢ３・４・５付近に集中しているため、この付近にこの時期のた建物が存在する可能性もある。

**奈良時代**　この時期の遺構には、掘立柱建物がある。出土遺物から見て、ＳＢ５はこの時期の建物と認識できるし、重複関係からこの建物よりも新しいＳＢ４もこの頃の遺構とみてよいであろう。この時期の建物主軸は真北から東偏約15度内外である。

**中世**　平安時代末から鎌倉時代前半の中世前期に相当する時期が中心である。この時期の遺構には掘立柱建物・柱列がある。柱列としたものは、実際には掘立柱建物の一部と考えられるものが多い。ＳＢ11・13・18などは12世紀前半頃、ＳＢ10・12・ＳＡ20などは13世紀後半頃のものと考えられる。

#### b　第２次調査区の遺構

第２次調査区の遺構には、古墳３基、竪穴住居４棟、掘立柱建物10棟のほか、土坑・溝などがある。

**古墳時代**　周溝ＳＸ31は、古墳の周溝に相当すると考えられる。加和良３号墳とする。同じ時期の遺構であるＳＤ32・33は、やや歪な形態であるが、小形の方墳の可能性もある。これらは、後述の加和良１・２号墳よりもやや先行し、６世紀前半頃に相当すると考えられる。

**飛鳥・奈良時代**　確実にこの時期の遺構と言えるのは竪穴住居ＳＨ35～37で、竪穴住居ＳＨ34もこの時期のものと思われる。ＳＨ34は、この時期の遺構としては珍しく排水溝を伴うものである。

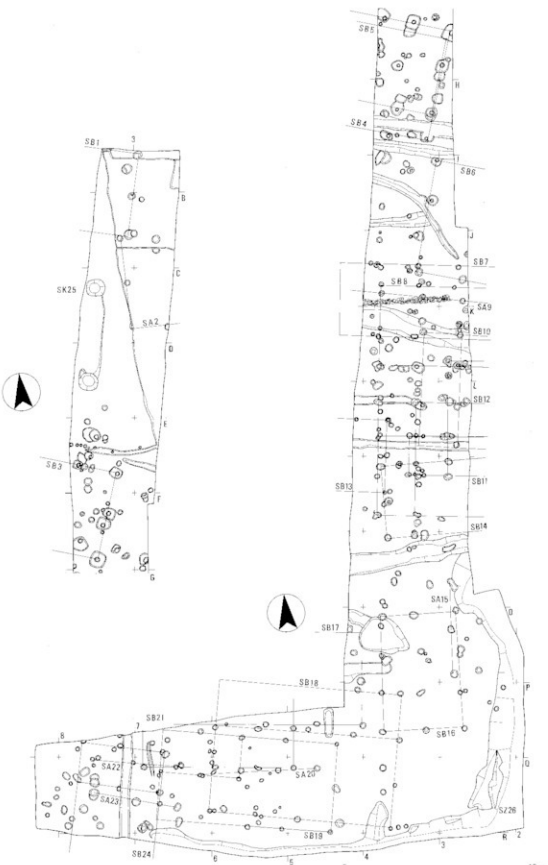
**平安時代**　掘立柱建物ＳＢ50は、平安時代後期頃に相当すると考えられる。他にも、ＳＢ46・47・51・52・54・55などは、形態から見てこの時期の遺構である可能性がある。

**中世**　中世前期初頭頃の遺構に、掘立柱建物ＳＢ49がある。ＳＢ53も同じ頃のものと推察される。これらよりもやや新しい遺構に土坑ＳＫ38・39があり、13世紀初頭頃と考えられる。

### 4　出土した遺物

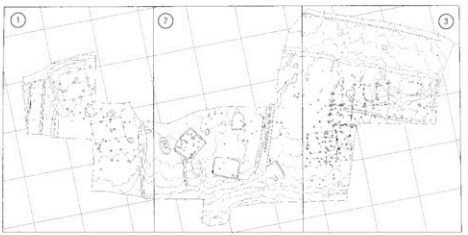
#### a　第１次調査区の出土遺物

１～４は土坑ＳＫ25から出土した土器類で、縄文時代後期に相当する。小片のため詳細が不明であるが、磨消縄文と沈線が観察できる。



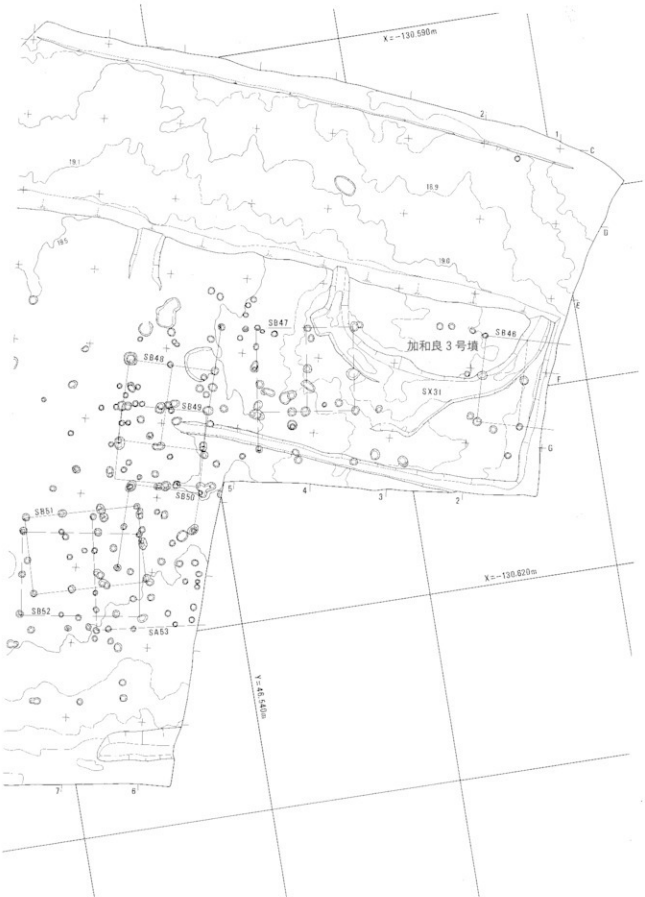

第Ⅵ－１図　加和良神社遺跡（第１次）平面図（１：200）

第Ⅵ－２図　加和良神社遺跡（第２次）平面図（１）（１：200）




図郭配置図（1：800）

第Ⅵ－３図　加和良神社遺跡（第２次）平面図（２）（１：200）



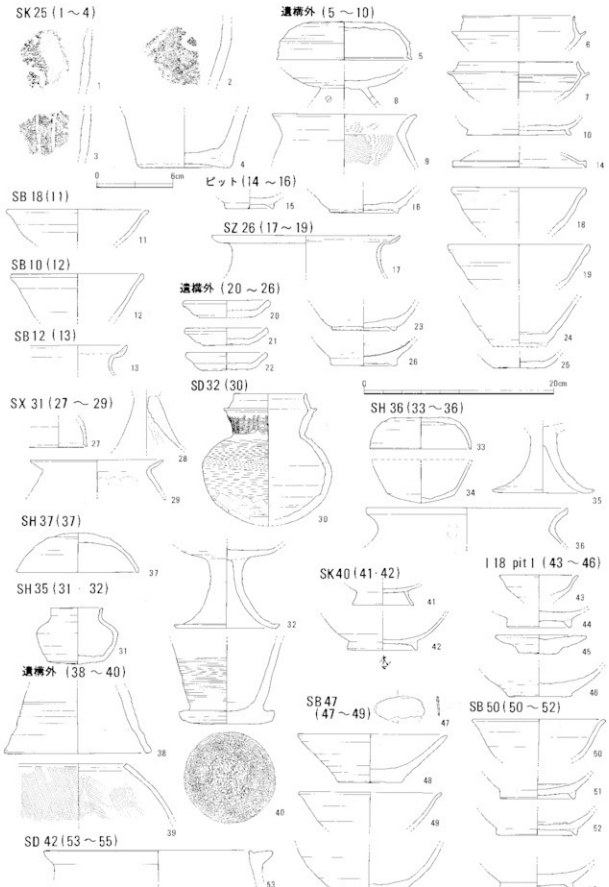

第Ⅵ－４図　加和良神社遺跡（第２次）平面図（３）（１：200）

## 第Ⅵ－１表　加和良神社遺跡遺構一覧

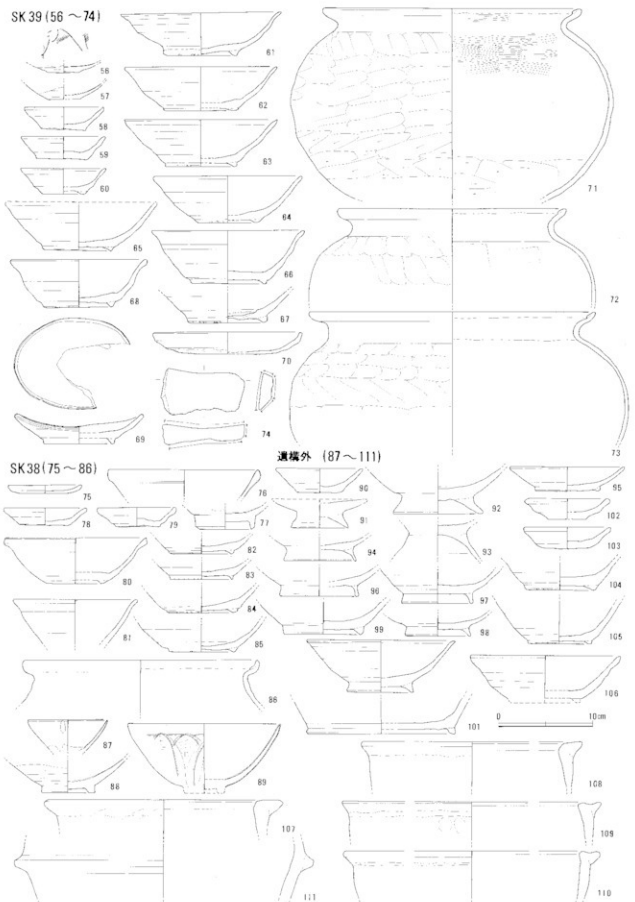
| 遺構番号 | 性　格 | 時　期 | 次数 | グリッド | 調査時遺構名 | 特徴・形状・計測数値など |
|---|---|---|---|---|---|---|
| ＳＫ 25 | 土坑 | 縄文後期 | 1次 | C 4 | S K 1 | |
| ＳＺ 26 | 落ち込み | １３世紀後半～ | 1次 | O 3 | おちこみ | 地境の落ち込みか？ |
| | | | | Q 3 | おちこみ | |
| ＳＸ 31 | 古墳（加和良３号墳） | 古墳後期 | 2次 | F 2 | S K | 加和良神社３号墳　一辺約１０ｍの方墳　須恵器ＴＫ１０型式前後　６世紀代 |
| | | | | F 3 | S D | |
| ＳＤ 32 | 溝 | 古墳後期 | 2次 | E 8 | S D 1 | 古墳周溝の可能性あり　６世紀代 |
| | | | | D 8 | S K 1 | |
| ＳＤ 33 | 溝 | 古墳後期 | 2次 | F 9 | S K 1 | 古墳周溝の可能性あり　ＳD３２と接続　６世紀代 |
| ＳＨ 34 | 竪穴住居 | 飛鳥～奈良？ | 2次 | J 9 | S B 1 | |
| ＳＨ 35 | 竪穴住居 | 飛鳥～奈良 | 2次 | J 1 1 | S B 1 | 須恵器・土師器甑あり |
| ＳＨ 36 | 竪穴住居 | 飛鳥～奈良？ | 2次 | H 1 3・1 4 | S B 1 | ＳＨ５７と重複。前後関係不明。 |
| ＳＨ 37 | 竪穴住居 | 飛鳥～奈良？ | 2次 | I 1 3・1 4 | S B 1 | ＳＨ５６と重複。前後関係不明。 |
| ＳＫ 38 | 土坑 | 13世紀中葉 | 2次 | G 1 1 | S K 1 | |
| ＳＫ 39 | 土坑 | １３世紀前葉 | 2次 | J 1 3 | S K 1 | |
| ＳＫ 40 | 土坑 | １１世紀後半 | 2次 | H 1 5・I 1 5 | S K 1 | |
| ＳＤ 41 | 溝 | 13世紀中葉？ | 2次 | I 9 | S D 1 | |
| ＳＤ 42 | 溝 | １３世紀中葉？ | 2次 | I 1 0 | S D 1 | |
| ＳＤ 43 | 溝 | | 2次 | G 1 6 | S D 1 | |
| ＳＤ 44 | 溝 | １２世紀後半～ | 2次 | F 2 0 | S D 1 | |
| ＳＫ 45 | 土坑 | １３世紀前半 | 2次 | H 1 2 | S K 1 | |

## 第Ⅵ－２表　加和良神社遺跡掘立柱建物・柱列一覧

| 調査遺構名 | 次数 | グリッド | ピット番号 | ピット遺物の時期 | 建物時期 | 規模（東西間・m×南北間・m） | 主軸 | 方位（N基準） | 備　考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ＳＢ１ | 1次 | | | | | 1？(1.8)× 2(4.4) | 東西 | N13° E | |
| ＳＡ２ | 1次 | C 4 | 2， | | | 1？(1.8)× 2(4.8) | 南北 | N 0 ° | |
| ＳＢ３ | 1次 | E 4 | 柱穴1，3 | 奈良時代須恵器 | 奈良後期 | 1(2.0)以上× 2(4.8) | 東西 | N16° E | 妻柱が２本？ |
| | | F 4 | 柱穴1，2，5 | 5･･･奈良後半製塩土器 | | | | | |
| | | G 3 | 柱穴4，5 | | | | | | |
| ＳＢ４ | 1次 | G 4 | 柱穴1，2 | 古墳時代後期～ | 古墳後期？ | 2以上(3.4)× 3(5.9) | 南北？ | N14° E | |
| | | G 3 | 柱穴6， | 古墳時代後期～ | | | | | |
| ＳＢ５ | 1次 | G 4 | 柱穴3， | 須恵器片 | 奈良 | 1(1.8)以上× 2(4.1) | 東西 | N14° E | |
| | | H 4 | 柱穴1，3 | 須恵器片（奈良？） | | | | | |
| ＳＢ６ | 1次 | | | | | 1(2.2)以上× 3(6.2) | 南北？ | N16° E | |
| ＳＢ７ | 1次 | J 3 | 1， | 山茶椀片 | 中世Ⅱ期 | 2(4.3)以上× 2？(3.9) | 東西 | N 7 ° E | |
| ＳＢ８ | 1次 | K 4 | 2， | 須恵器壺片 | 中世Ⅰ期 | 2(3.9)以上× 2(4.3) | 東西 | N 6 ° E | |
| ＳＡ９ | 1次 | | | | | 2(4.4) | 東西 | N12° E | |
| ＳＢ１０ | 1次 | M 4 | 4， | 山茶椀８型式 | 中世Ⅱｂ期 | 1(1.9)以上× 3(6.0) | 南北？ | N 7 ° E | |
| ＳＢ１１ | 1次 | L 4 | 2， | 山茶椀５型式 | 中世Ⅱａ期 | 1(2.0)以上× 3(6.1) | 南北？ | N 7 ° E | |
| ＳＢ１２ | 1次 | M 4 | 5， | | 中世Ⅱｂ期 | 2(4.1)以上× 3(6.0) | 東西？ | N 6 ° E | |
| | | L 4 | 3， | 南伊勢系鍋２ａ | | | | | |
| ＳＢ１３ | 1次 | M 4 | 1，3 | 土師器小皿 | 中世Ⅱａ期 | 1(1.7)× 2(3.9) | 東西 | N 8 ° E | |
| ＳＢ１４ | 1次 | | | | | 2(3.6)以上× 2(3.8) | 東西 | N 3 ° E | |
| ＳＡ１５ | 1次 | P 4 | 1， | | 不明 | 2 (5.0) | 南北 | N 4 ° E | |
| ＳＢ１６ | 1次 | | | | | 2(4.3)× 3(6.2) | 南北 | N 6 ° E | |
| ＳＢ１７ | 1次 | P 5 | 1， | 土師質土器高台 | 中世Ⅰ期 | 3(7.2)× 1 (2.2)以上 | 東西 | N 5 ° E | |
| ＳＢ１８ | 1次 | Q 7 | 2， | 山茶椀５型式 | 中世Ⅱａ期 | 4(9.6)× 3(7.2) | 東西 | N10° E | |
| ＳＢ１９ | 1次 | Q 6 | 1， | 灰釉末～山茶椀初期 | 中世Ⅰ期 | 4(9.1)× 2(4.8) | 東西 | N10° E | |
| ＳＡ２０ | 1次 | Q 7 | 1， | 南伊勢系鍋１ｂ | 中世Ⅱｂ期 | 3(6.1) | 東西 | N 2 ° E | |
| ＳＢ２１ | 1次 | | | | | 4(8.0)× 1(2.0)以上 | 東西 | N 6 ° E | |
| ＳＡ２２ | 1次 | | | | | 2(4.1) | 東西 | N12° E | |
| ＳＡ２３ | 1次 | P 8 | 2， | | | 2(4.6) | 東西 | N13° E | |
| ＳＢ２４ | 1次 | Q 8 | Z 2 | 古瀬戸中期？壺片 | 中世Ⅲ期 | 2(4.5)× 2(4.2)以上 | 南北 | N13° E | |
| ＳＢ４６ | 2次 | F 1 | 1， | | | 1(2.2)以上× 2(4.6) | 東西？ | N13° E | |
| ＳＢ４７ | 2次 | F 4 | 1，6，7 | | | 2 (5.0)× 2(4.6) | 東西 | N10° E | |
| | | E 4 | 3， | | | | | | |
| ＳＢ４８ | 2次 | F 5 | 1，5，7 | | | 2(4.5)× 3(6.8) | 南北 | N13° E | |
| | | G 5 | 1，2， | | | | | | |
| ＳＢ４９ | 2次 | G 5 | 2，3， | | 中世Ⅰａ期 | 2(4.5)× 2(4.2) | 東西 | N12° E | |
| | | F 6 | 1， | 土師質土器椀、陶器椀 | | | | | |
| ＳＢ５０ | 2次 | G 6 | 2， | | 平安後期 | 2(3.8)× 2(4.5) | 南北 | N16° E | |
| | | H 6 | 1， | 緑釉陶器一括 | | | | | |
| ＳＢ５１ | 2次 | H 6 | 2， | | 奈良～平安 | 3(6.0)× 2(4.1) | 東西 | N 3 ° E | |
| | | I 6 | 1，4 | | | | | | |
| ＳＢ５２ | 2次 | | | | | 3(6.2)× 2(4.5) | 東西 | N10° E | |
| ＳＡ５３ | 2次 | H 6 | 1， | | 平安後期？ | 2(4.0)× 3(6.1) | 南北？ | N 6 ° E | |
| ＳＢ５４ | 2次 | G 1 7 | 1， | | 平安前期？ | 3(6.4)× 2(4.3) | 東西 | N 2 ° W | |
| | | H 1 7 | 1，3， | | | | | | |
| | | H 1 8 | 1，2， | | | | | | |
| | | I 1 8 | 3， | | | | | | |
| ＳＢ５５ | 2次 | | | | | 3(5.9)× 3(5.6) | 東西 | N 1 ° W | |




第Ⅵ－５図　加和良神社遺跡出土遺物（１）（１～４は１：３、他は１：４）




第Ⅵ－６図　加和良神社遺跡出土遺物（２）（１：４）

古墳時代後期頃のものには、須恵器類がある（5～8）。奈良時代頃のものには、須恵器や甕がある（9・10・14）。

中世では、土師器類・陶器類がある(11～13、15～26)。陶器類は13世紀中葉頃のものが中心である。

b　第２次調査区の出土遺物

27～30は、加和良３号墳およびＳＤ32から出土した土器類。27は田辺昭三氏による陶邑編年[2]のＴＫ10型式頃に併行するものと考えられるが、それ以外はやや古く、６世紀でも初頭頃のものと考えられる。

31～37は竪穴住居ＳＨ35・36・37出土で、おおむね飛鳥・奈良時代頃。32は須恵器高杯で、竪穴住居からの出土は珍しい。38～40は遺構外および他時期の遺構に混入していたもの。38は須恵器器台で、加和良３号墳に伴っていたものか。39は天地逆で、丸底風となる甑かも知れない。40は須恵器擂鉢。

41～55は平安時代後期に相当する遺物。50～52はＳＢ50を構成するピットから出土した緑釉陶器。土器では、ほかに灰釉陶器・土師器・土師質土器がある。53・107～110は清郷形甕で、当遺跡では比較的多く出土している。47は鉄製品で用途は不明。

56～74は土坑ＳＫ39出土遺物。56・57のような白磁小皿も伴う。58～69の陶器椀類は、藤澤良祐氏による山茶椀編年[3]の尾張型第５型式に相当する。69は椀を楕円形に整形し直し、硯としたもの。稀少品である。70は土師器皿で、中北勢地域の様相を持つ。71～73は南伊勢地域産の甕と鍋である。

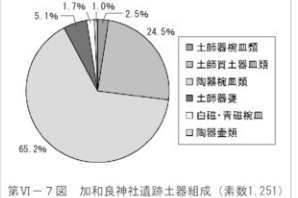
75～86は土坑ＳＫ38出土遺物。78～85の陶器類は、藤澤山茶椀編年の尾張型第６型式に相当する。

87～111は遺構外出土遺物のうち、平安時代後期以降のものをまとめた。87～89は白磁・青磁。111は土師器羽釜と考えられるが、近隣では類例が無い。

なお、第２次調査区出土の平安時代後期以降の土器類については、第Ⅵ－３表に口縁部・底部残存度を基準とした計測をまとめた。

## 5　まとめと検討

当遺跡では、縄文時代後期以降の遺跡が確認された。なかでも、加和良古墳群が形成される古墳時代後期、竪穴住居から掘立柱建物へと変遷する飛鳥・奈良時代、掘立柱建物による集落が形成される平安時代後期から中世前期の３時期が中心である。



第Ⅵ－７図　加和良神社遺跡土器組成（素数1,251）

加和良古墳群は長法寺古墳群と一連の古墳群と考えられ、両者は一体で把握する必要がある。加和良３号墳は周溝のみが確認されたが、墳輪を有していないことは大きな特徴と考えることもできる。

飛鳥・奈良時代の集落は、隣接する桑名垣内遺跡と一体で考えるべきであろう。桑名垣内遺跡も同様であるが、遺構の多さに比べてこの時期の出土遺物は極端に少ない。

平安時代後期から中世前期にかけては、緑釉陶器がまとまって出土したことや、陶器硯の存在が特筆できる。何らかの有力者の存在が想定される。また、平安時代後期には清郷形甕が煮沸用土器の主体的器種になっている状況が観察できることも興味深い。

この時期の土器組成では、陶器椀類が突出して多いことが特徴である（第Ⅵ－７図）。これは、同じ時期の北勢地域の状況に近く、南勢地域の状況とは異なる[4]。中ノ川流域が北勢地域の一角であることをデータ上で示せたものと考える。　　（伊藤）

＜註＞

(1)中世の時期区分は、伊藤裕偉「中世後期における伊勢・志摩地域の土器相」（『関東・東海における中世土器（煮炊具）の最近における研究成果』静岡大学　2005年）の、南伊勢地域の区分に拠る。

(2)田辺昭三『須恵器大成』（角川書店　1981年）

(3)藤澤良祐氏による山茶椀編年は、次の文献を主に参照した。藤澤「山茶碗研究の現状と課題」（『研究紀要』第３号　三重県埋蔵文化財センター　1994年）

(4)伊藤裕偉「第133次調査」（『史跡斎宮跡平成13年度発掘調査概報』斎宮歴史博物館　2003年）

## 第Ⅵ－３表　加和良神社遺跡（第２次）出土古代末～中世土器計測集計

| グリッド | 遺構他 | 土師器 | | | | | | 土師質土器(ロクロ土師器) | | | | | 緑釉陶器・灰釉陶器・山茶椀 | | | | | | | | | | | 青磁 | 白磁 | | | | 陶器 | その他 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 坏高台 | 高坏 | 羽釜 | 鍋 | 甕 | 小皿 | 椀 | 皿 | | 小皿 | | 緑釉椀 | | 灰釉椀 | | 灰釉小椀・皿 | | 山茶椀 | | 山皿 | | 鉢 | 碗 | 碗 | | 小皿 | | 壺 | |
| | | 口径 | 口径 | 鍔 | 口径 | 口径 | 口径 | 底部 | 口径 | 底部 | 口径 | 底部 | 口径 | 底部 | 口径 | 底部 | 口径 | 底部 | 口径 | 底部 | 口径 | 底部 | 底部 | 口径 | 口径 | 底部 | 口径 | 底部 | 底部 | |
| E5 | ピット＊ | | | | | | | | | 12 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| E5 | 包含層 | | | | | | | | | | | | | | | 12 | | | | | | | | | | | | | | |
| F1 | 包含層＊ | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| F2 | 包含層＊ | 1 | | | | | | | | 12 | | 12 | | | | | | | | 16 | | | | | | | | | | |
| F3 | 包含層 | | 1 | | | | | 12 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| F3 | 包含層＊ | | | | | | | | 1 | 1 | | 13 | | | 1 | | | | | 7 | | | | | | | | | | |
| F4 | ピット＊ | | 1 | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | |
| F4 | 包含層＊ | | | | | | | | | 2 | | 12 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| F5 | ピット＊ | 1 | | | | | | | | 10 | | 6 | | | 1 | 2 | | | 2 | 4 | | | | | | | | | | |
| F5 | 包含層 | | 1 | | | | | | | | | 4 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | |
| F5 | 包含層＊ | 3 | | | | | | | | 19 | | 25 | | | 4 | 2 | | | | 1 | 2 | 9 | 2 | | | | | | | |
| F6 | SB18 | | | | | | | | 1 | 12 | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| F6 | ピット＊ | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| F7 | 包含層＊ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | |
| F20 | SD44＊ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | | | | | | | | | | |
| G2 | ピット＊ | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | |
| G3 | ピット＊ | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| G1 | 包含層＊ | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| G5 | ピット＊ | | 1 | | | | | | | | 1 | 21 | | | 1 | 3 | | | | 3 | | | | | | | | | | |
| G5 | 包含層 | | | | | | | | | | | | | | 2 | 4 | | | | | | | | | | | | | | |
| G6 | ピット＊ | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| G6 | 包含層 | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 12 | | | 1 | 12 | | | | | | | | |
| G8 | 包含層 | | 1 | | | | | | | | | | | | 4 | 1 | 2 | | | | | | | | | | | | | |
| G11 | SK38 | 2 | | | | | 6 | | | | | | | | | | | | 4 | 15 | 16 | 16 | | | | 2 | | | | |
| G11 | SK38＊ | 2 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | 24 | 124 | | 21 | 2 | | 1 | | | | 3 | |
| G22 | 包含層＊ | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | 4 | 3 | 3 | | | | | | | | |
| H5 | ピット＊ | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | |
| H6 | pit1 | | | | | | | | | | | | 1 | 12 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| H6 | 包含層＊ | | 1 | | | | | | | 10 | 3 | 11 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | |
| H9 | 包含層＊ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 12 | | | | | | | | | | |
| H12 | SK45＊ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | | | | |
| H12 | 包含層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | |
| H13 | 包含層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | | | | | | | | | | |
| H13 | 包含層＊ | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | 1 | 7 | | | | | | | | |
| H14 | 包含層 | | | | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| H14 | 包含層＊ | 1 | | | | | | | | | | 12 | | | | | | | | 9 | | 6 | | | | | | | | |
| H18 | 包含層 | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| H18 | 包含層＊ | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| I5 | ピット＊ | | | | | | | | | | | | | | 3 | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| I5 | 包含層 | | 1 | | | | | | | | | | | | | 4 | | | | | | | | | | | | | | |
| I5 | 包含層＊ | | | | | | | | | 12 | | | | | 2 | 2 | | | | 3 | | | | | | | | | | |
| I6 | ピット＊ | | | | | | | | | | | 12 | | | 1 | 1 | 2 | | | | | | | | | | | | | |
| I6 | 包含層 | | 1 | | | | | 11 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| I6 | 包含層＊ | | | | | | | | | | | 7 | | | 3 | 3 | | | | | | | | | | | | | | |
| I9 | SD41＊ | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 19 | | | | | | | | | 3 | |
| I10 | SD42 | | 1 | | | | | | | | | | | | | 6 | | | | 6 | | | | | | | | | | |
| I10 | SD12＊ | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | 60 | | | 8 | | | | | | 3 | |
| I11 | 包含層＊ | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | 13 | 3 | 6 | | | | | | | 2 | 白磁四耳壺片 |
| I12 | 包含層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 12 | 12 | | | | | | | | |
| I13 | 包含層＊ | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 2 | | | | | 1 | | | | | |
| I14 | 包含層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 9 | | | | | | | | | | |
| I11 | 包含層＊ | 1 | | | | | | | | | | | | | 2 | | | | | | 2 | | | | | | | | | |
| I15 | SX40 | | | | 6 | | | | | | | | | | | 8 | | | | | | | | | | | | | | |
| I15 | SK10＊ | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | | | | | | | | | | |
| I16 | 包含層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 12 | 5 | 12 | | | | | | | | |
| I16 | 包含層＊ | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | | 4 | | | | | 1 | | | | | |
| I17 | ピット＊ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | |
| I18 | pit1 | | | | | | | | | 12 | 4 | 12 | | | 8 | | 5 | | | | | | | | | | | | | |
| I18 | pit1＊ | | | | | | | | | 1 | | 12 | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| J11 | 包含層 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 6 | | | | |
| J11 | 包含層＊ | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | 1 | | | | | | | | | |
| J12 | 包含層＊ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 12 | | | | | | | | |
| J13 | SK39 | 23 | | | | 4 | | | | | | | | | | | | | 23 | 66 | 15 | 24 | | | | | | 11 | | |
| J13 | SK39＊ | 17 | | | | 6 | 8 | | | | | | | | | | | | 20 | 123 | 1 | | 1 | | 1 | | | | | |
| J16 | 包含層＊ | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 21 | | 1 | | | | | | | | |
| J17 | ピット＊ | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| その他 | 包含層 | | | | | | | | | 6 | | 3 | | | | 9 | | 3 | 2 | 16 | | | | | | | | | | |
| 合計 | | 51 | 10 | 3 | 6 | 11 | 14 | 28 | 2 | 117 | 11 | 162 | 1 | 12 | 44 | 67 | 11 | 19 | 101 | 589 | 64 | 141 | 10 | 2 | 5 | 8 | 1 | 11 | 12 | |
| 採用数値 | | 51 | 10 | 3 | 6 | 11 | 14 | 28 | 117 | | 162 | | 12 | | 67 | | 19 | | 589 | | 141 | | 10 | 2 | 8 | | 11 | | 12 | |

| [illegible]古代末 | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 数値 | 10 | 3 | 6 | 28 | 117 | 162 | 12 | 67 | 19 | | 424 |
| 比率 | 2.4% | 0.7% | 1.4% | 6.6% | 27.6% | 38.2% | 2.8% | 15.8% | 4.5% | | |

| [illegible]中世前期 | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 数値 | 51 | 11 | 14 | 589 | 141 | 10 | 2 | 8 | 11 | 12 | | 849 |
| 比率 | 6.0% | 1.3% | 1.6% | 69.4% | 16.6% | 1.2% | 0.2% | 0.9% | 1.3% | 1.4% | | |

| [illegible]中世前期 | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 数値 | 51 | 11 | 14 | 28 | 117 | 162 | 589 | 141 | 10 | 2 | 8 | 11 | 12 | | 1156 |
| 比率 | 4.4% | 1.0% | 1.2% | 2.4% | 10.1% | 14.0% | 51.0% | 12.2% | 0.9% | 0.2% | 0.7% | 1.0% | 1.0% | | |

＜凡例＞

＊数値は、計測部位の１/12を１として集計している。

＊「遺構他」の項に「＊」があるものは、実測図を記載していないものである。

＊「採用数値」には、２箇所以上の計測部位があるもののうち、数値の高い方を採用している。

# Ⅶ　加和良１・２号墳 ～馬具と直弧文の後期古墳～

## １　調査の経過

加和良１・２号墳は、鈴鹿市三宅町字西条に所在する遺跡である。県営圃場整備事業（合川・下之庄地区）に伴い、昭和63年度に調査がなされた。発掘調査は昭和63年７月６日から同年９月22日にかけて実施された。最終調査面積は600㎡である。

## ２　調査区の立地と古墳群の状況

加和良１・２号墳は、加和良神社遺跡と同一低丘陵上に位置する。調査前に明瞭な墳丘が確認できたのがこの２基である。第Ⅵ章で見たとおり、加和良神社遺跡第２次調査で確認された、墳丘を喪失していた古墳を加和良３号墳としている。現在では３基の古墳群として認識しているが、墳丘を喪失した未確認古墳が他に存在している可能性は高い。

## ３　加和良１号墳

### a　墳丘

加和良１号墳は、低丘陵の頂部に形成された古墳である。調査前の状況で直径約16ｍの円墳と想定され、調査の結果、直径約16ｍ、墳丘高約２ｍの円墳と確認された。墳丘には葺石・円筒埴輪などの構造物は確認されなかった。

### b　埋葬施設

埋葬施設は４基確認されたが、別にもう１基存在していた可能性もある。４基はいずれも東西方向を主軸としている。

**埋葬施設１**　長さ約5.3ｍ、幅約1.3ｍの長方形の墓壙内に、長さ約4.5ｍ、幅約80㎝の割竹形木棺を納める。棺は、墓壙内に安置後、周囲を黄褐色系粘土で固めている。粘土の検出状況が示す棺の形態は、両小口が内側へ窄むものである。棺の幅は東側の方が広いため、東枕で埋葬されたものと考えられる。

副葬品は、棺内・墓壙内棺外・墓壙上面の３ヶ所に分かれる。棺内からは、刀子５本が見られた。これらは、棺の東側に寄っている。最東部には２本の刀子が見られ、うち１本には鹿角装把部に直弧文が施されたものである。

墓壙内棺外の副葬品は、東側に集中させている。棺を固めた粘土が周囲に見られることから、棺小口の凹みに埋納されたと考えられる。棺外副葬品には、馬具１揃、須恵器蓋杯７組、須恵器高杯１個、須恵器提瓶１個、土師器ミニチュア台付甕２個が見られる。馬具は、賽の目状に置かれた４個の須恵器蓋杯の中央下から出土している。

墓壙上面の副葬品には、須恵器蓋杯がある。この蓋杯は２組であるが、杯蓋・一組の蓋杯・杯身という状態で３者が並べ置かれていた。

なお、埋葬施設１で用いられた蓋杯は、墓壙内の５組が陶邑系の精緻なもの、墓壙内の２組と墓壙上面の２組が在地産のものである。

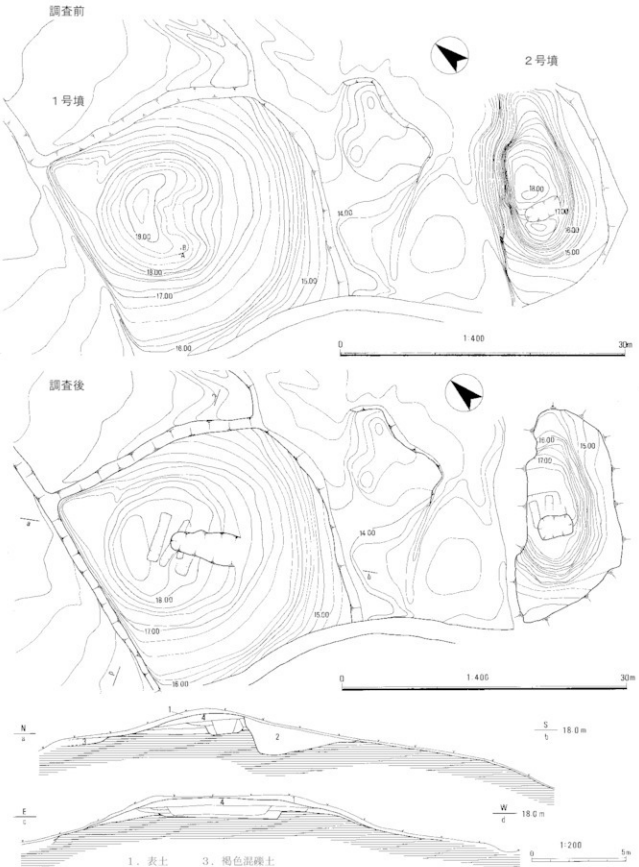
**埋葬施設２**　埋葬施設１の南に隣接している。中央部が撹乱・破壊されていることもあり、墓壙・棺ともに明確ではないが、墓壙は長さ約5.5ｍ、幅約1.3ｍで、棺は長さ約4.3ｍ、幅約70㎝と考えられる。墓壙内には粘土が見られるため、埋葬施設１と同様、棺の周囲を粘土で固めていたものと思われる。

副葬品は、棺外墓壙内の西部東寄りに置かれた一群の鉄鏃がある。

**埋葬施設３**　埋葬施設２の南に隣接している。この埋葬施設も撹乱が激しく、墓壙・棺ともに明確ではないが、墓壙は長さ2.5ｍ以上、幅約1.4ｍで、棺は長さ1.8ｍ以上、幅約90㎝と考えられる。墓壙内には粘土が見られるため、埋葬施設１と同様、棺の周囲を粘土で固めていたものと思われる。

副葬品には、棺内のものとして鉄刀１本、刀子６本、玉類がある。また、鉄鏃も数点出土している。玉類は、鉄刀の周囲から出土している。鉄鏃と刀子の出土位置は明確ではない。

**埋葬施設４**　埋葬施設２・３を破壊して構築されている、長さ1.2ｍ以上、幅約70ｍの小形の墓壙であ




第Ⅶ－１図　加和良１・２号墳墳丘測量図および断面図

る。墓壙内からは粘土塊が出土しているため、埋葬施設として取り扱っておく。出土遺物は無い。

**埋葬施設３南西部の須恵器群**　埋葬施設３の南西墓壙外から、須恵器がまとまって出土している。この須恵器は埋葬施設３に伴う一群である可能性もあるが、状況から見て、別の埋葬施設がこの西部に存在していた可能性の方が高いであろう。須恵器は、身と蓋がセットになった状態のものが４組、杯身が５点、杯蓋が４点あるため、全体として９組の蓋杯であった可能性が高い。

## 4　加和良２号墳

### a　墳丘

加和良２号墳は、１号墳と同一丘陵尾根で、それよりもやや低い位置に隣接して形成された古墳である。調査以前に大きく破壊されており、調査時には東西約８m、南北約13mの範囲が残存していたに過ぎず、墳丘規模は不明である。墳丘には葺石・円筒埴輪などの構造物は確認されなかった。

### b　埋葬施設

埋葬施設は２基確認された。いずれも東西方向を主軸としている。この２基の埋葬施設は、調査段階では墓壙を共有するものと認識されている。

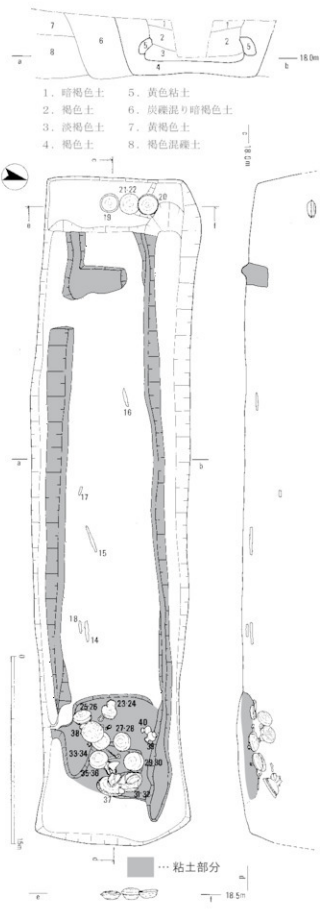
**埋葬施設１**　長さ1.2m以上、幅約90cmの棺痕跡が検出されている。棺の主軸は東西方向である。棺内の東寄りに、須恵器杯蓋が２点出土している。

**埋葬施設２**　長さ約2.8m、幅約80cmの棺痕跡が検出されている。棺の主軸は東西方向である。棺内から、玉類が出土しているが、その他の副葬品は見られない。

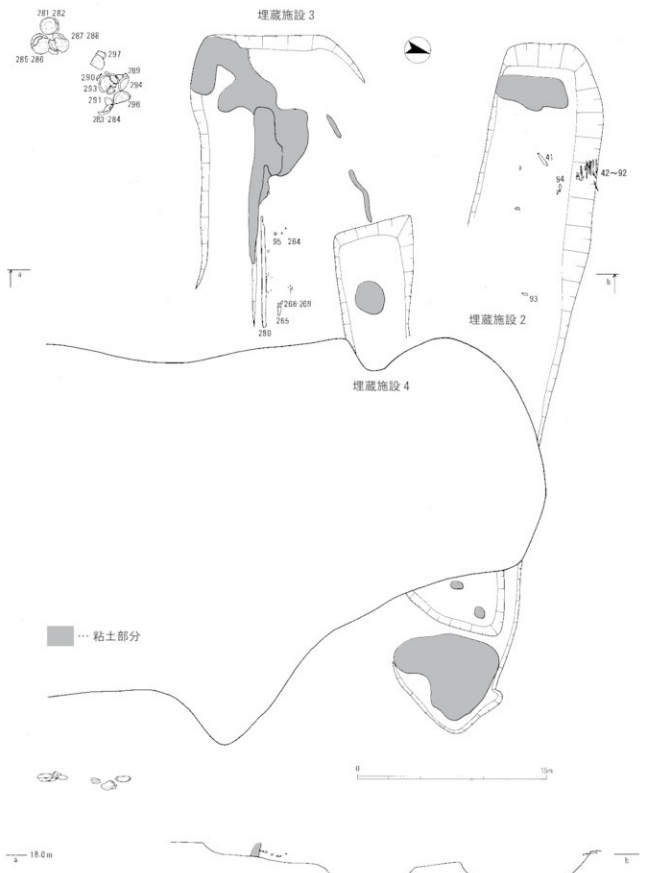
## 5　出土した遺物

### a　１号墳埋葬施設１出土遺物

**馬具**（１～13）　１～13は、墓壙内棺外から出土した馬具一式である。１～９は「鉄製楕円形鏡板付轡」とされるもの。１・５は左右の鏡板で、本体は一枚板で作られている。表面に金銅張りや漆の塗布は見られない。外縁部には、タガネによる点刻が裏面からなされ、表面には地金が円形浮文のように浮かび上がっている。この点刻は鏡板中央横方向にも施されている。




第Ⅶ－２図　加和良１号墳埋葬施設１　実測図（１：30）




第Ⅶ－３図　加和良１号墳埋葬施設２～４　平面・立面図（１：30）

2・4は1・5の鏡板の立聞に開けられた上部の方形孔に接続される金具一式。立聞には「の」の字状に曲げられた遊環が通り、そこに6連の兵庫鎖が連結して鉤金具に至る。2は1の鏡板に、4は5の鏡板に接続する。鉤金具の残りは悪いが、4では笠鋲3ヶ所と2個1対の環状留金具が2ヶ所見られる。3は衝。衝先環は欠損しているが、1・5の鏡板の衝留金具に直接連結されていたと考えられる。

6・7は引手。それぞれが左右に付くと考えられる。8・9は引手壺。引手と引手壺との間には遊環状のものがあったかも知れないが、明確ではない。

10・11は鉸具、12・13は辻金具。いずれも鉤金具から繋がるベルトと一体となる部品であろう。

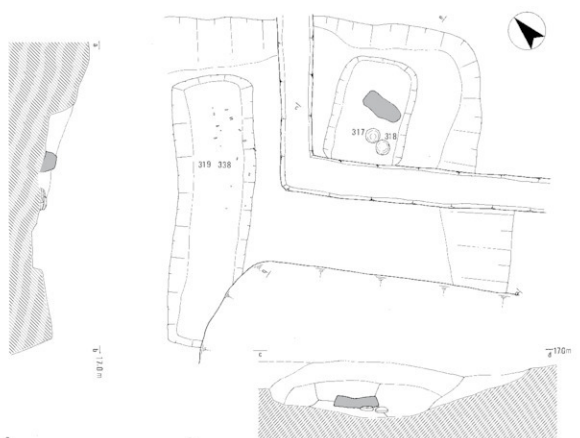
**刀子類**（14～18）　刀子類は、いずれも把部を鹿角装とするものである。14は最も大形のもので、把部には直弧文があしらわれ、全体をベンガラで赤彩されている。鞘は木製と考えられ、外面にはその圧痕が残る。15・16にも鹿角製把部が確認でき、17は鞘にも鹿角が用いられている。18は茎部に繊維状のもので巻き上げた痕跡が残る。

**土器類**（19～40）須恵器・土師器がある。19～22は墓壙上面に置かれていた一群。21・22はセットで出土したもので、19・20は閉けられた状態であったもの。この4点は、墓壙内棺外から出土した23～26の4点と同じ調整手法を持ち、近隣の地域窯産と考えられる。それに対し、27～36は精緻で丁寧な作りのものであり、陶邑窯産かそれと直接関係した窯から持ち込まれたものと考えられる。37は須恵器高杯、38は須恵器提瓶である。39・40は外面がベンガラで赤彩された土師器高杯。これらの土器類は、田辺昭三氏による陶邑編年（以下、「田辺編年」[9]）のMT15型式併行か、あるいはTK10型式でも古い頃に併行するものと考えられる。

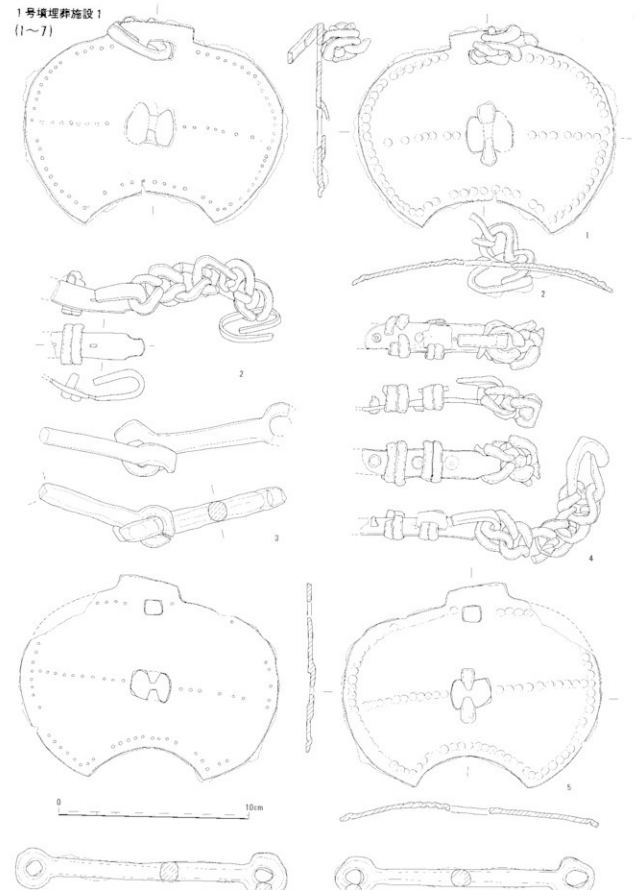
**b　1号墳埋葬施設2出土遺物**

**刀子**（41・42）　41は小形の刀子。把部は鹿角製である。42は刀子の一部と考えられるもの。

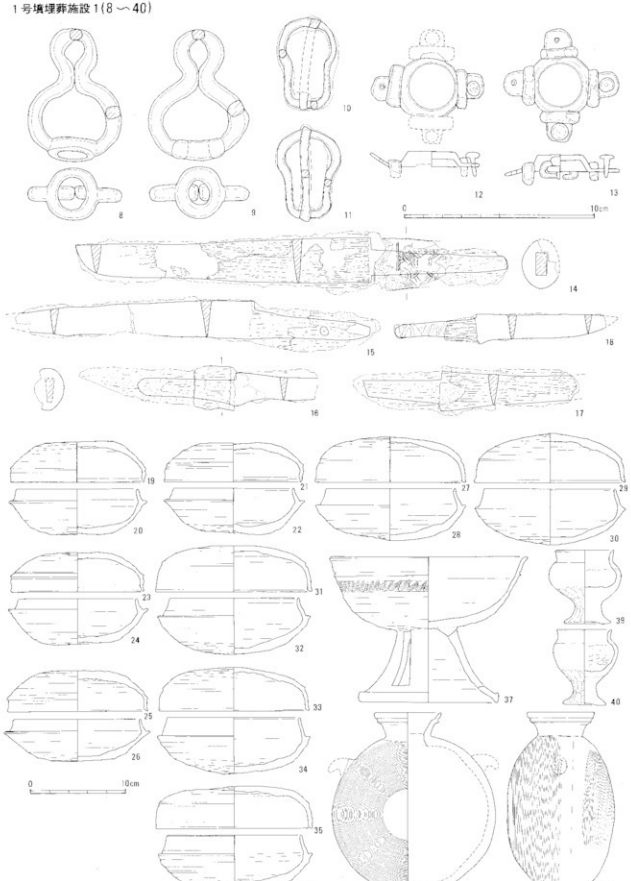
**鉄鏃**（43～94）　52本分を図示したが、実際にはもう数本存在する可能性がある。多くは刃部が柳葉ないしは長三角形を呈する長頸鏃で、2本のみ平造のものがある。刃部は片丸造を中心に、一部鏑造りが



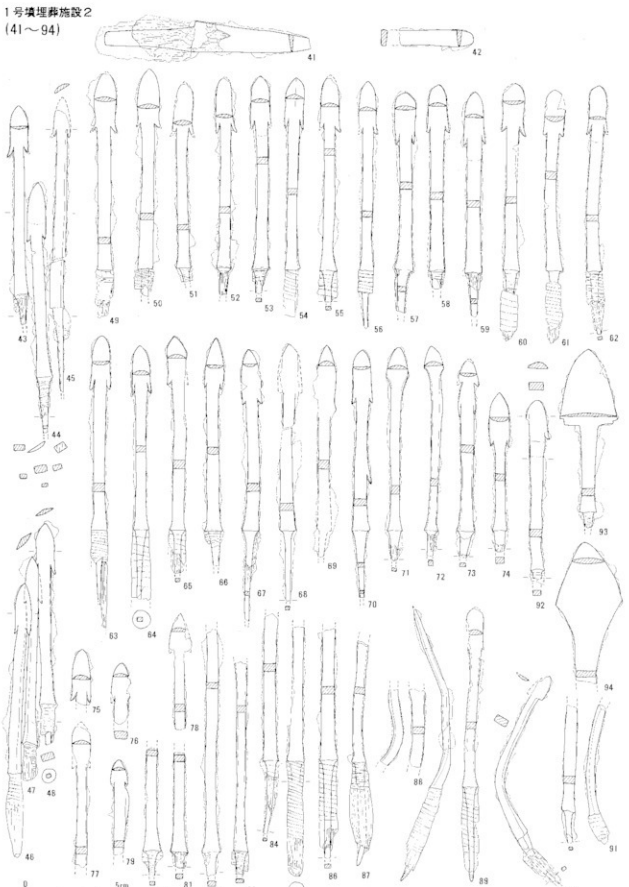

第Ⅶ－4図　加和良2号墳埋葬施設1・2 実測図（1：40）




第Ⅶ－５図　加和良１号墳出土遺物（１）馬具類（１：２）

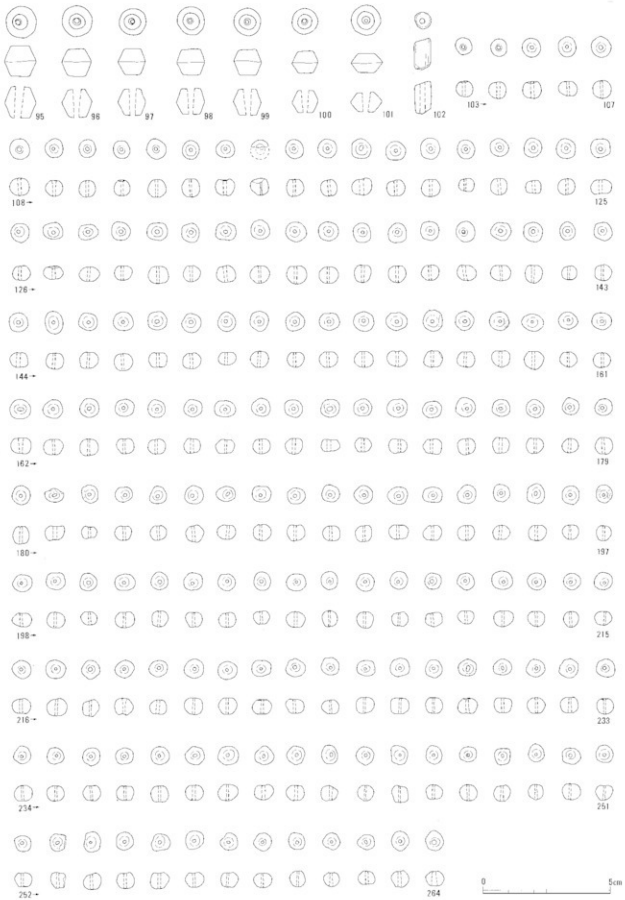



第Ⅶ－６図　加和良１号墳出土遺物（２）馬具・小刀・土器（８～17は１：２，他は１：４）

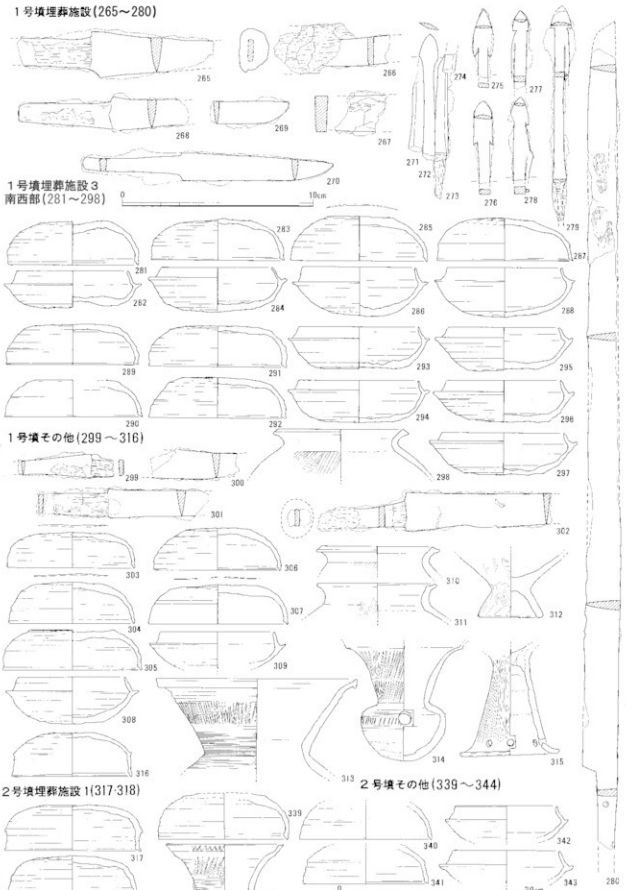



第Ⅶ－７図　加和良１号墳出土遺物（３）鉄鏃ほか（１：２）

1号墳埋葬施設3(95～264)




第Ⅶ－8図　加和良1号墳出土遺物（4）玉類（2：3）




第Ⅶ－９図　加和良１・２号墳出土遺物（265～279，299～302は１：２，他は１：４）

混じる。長頸鏃には、頸部に逆刺を有するもの（70・73）もある。また、副葬段階で意図的に折り曲げたと思われるもの（88～91）も見られる。

**c　1号墳埋葬施設3出土遺物**

**刀子類**（265～270）　刀子は5点分あるが、破損したものが多い。266は把部が鹿角製である。

**鉄鏃**（270～279）　いずれも長頸鏃で、破損した状態のものが多い。277・278・279は、頸部に逆刺を有するものである。

**刀**（280）　平造の直刀で、切先と茎尻を欠損する。残存長は85.2cmである。（伊藤）

**算盤玉**（95～101）　いわゆる「切子玉」にみられる截頭角錐の稜は認めがたく、截頭円錐形の底面を合わせた形状から、これらを算盤玉としたい。ただし、截頭円錐形とは言いながらも、水晶の六方晶系結晶体の稜がかろうじて認められ、この稜線を除くための横方向の研磨痕跡が明瞭に観察できることから、研磨工程で胴部の縦方向の稜線を明瞭に残しながら、六角錐の稜線を除いた算盤玉を製作したものである。結晶体の基部から算盤玉として截頭円錐形に製作するのではなく、六方晶体へ成長した六角錐の結晶体部分を玉材として利用したものと思われ、7個体の透明度は101の1点を除き極めて高い。101のみは結晶体基部に近い、透明度の低い部分を材として使用したものとみられる。孔内と節理面の亀裂には赤色顔料が付着・浸透したものが観察できる。このことは、算盤玉が一顆として有機質製繊維で連ねらていたことが推測でき、この繊維に顔料が染みて孔内に浸透・沈着したものであろう。また、98には水晶結晶化の過程で歪みを生じた、いわゆる「虹入り水晶」の特徴を観察できる。

さらに、水晶の比重を簡易計測によって算出したところ、7点中6点までが3.0gを超える数値を示した。孔内に若干の泥土が付着することを考慮しても、比重標準値2.66gからするとやや大きい値を示した。

**管玉**（102）　102はガラス製管玉である。極めて特徴的な失透橙色をしており、1点しか出土していない。蛍光X線分析により、発色主成分は酸化銅であることがわかった。酸化アルミニウム値が高く、ソーダ石灰ガラスと思われる。側面には気泡が横方向に筋状に認められることから、引き伸ばし技法による管切で製作し、端部の角を取るために加熱処理をしたために、孔面は不整形になっている。孔内には赤色顔料の付着が認められることから、有機質の繊維により顆として連ねられた玉孔内に、顔料が繊維を伝って染み込み沈着したものと思われる。

**土製練玉**（103～264）　土製練玉は162個体ある。いずれも黒褐色で、直刀付近から出土する。側面形状は臼状に仕上げるものが多いが、数点は断面形状が方形に近い個体や、孔面に面を持たない丸玉に穿孔したような個体も認められる。（大川）

**d　1号墳埋葬施設3南西部出土遺物**

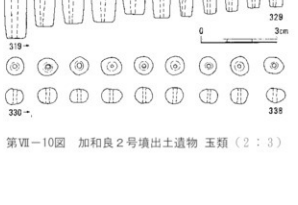
281～298は、埋葬施設3の墓壙外南西部からまとまって出土した土器類である。須恵器の蓋杯類と土師器甕がある。須恵器は粗雑な作りのもので、埋葬施設1出土土器よりもやや小振りのものが多い。田辺編年のＴＫ10型式に併行するものであろう。298は台付甕である

**e　1号墳出土のその他の遺物**

299～316は、調査中に出土したもので、どの埋葬施設に帰属するものか分からないものである。299～302は刀子。302には鹿角装の把部が付く。303～309は須恵器蓋杯。時期的には田辺編年のＴＫ10型式からＴＫ43型式にかけてのものがある。310～311は土師器台付甕で、概ね前述の須恵器に併行する時期のもの。313は須恵器壺・314は須恵器鉢。315は弥生時代後期に相当する高杯の脚部である。315は須恵器杯蓋で、田辺編年のＴＫ23型式に相当する。

**f　2号墳埋葬施設1出土遺物**

317・318は埋葬施設1出土で、ともに須恵器杯蓋。




第Ⅶ－10図　加和良2号墳出土遺物 玉類（2：3）

田辺編年のＴＫ10型式からＴＫ43型式にかけてのものである。（伊藤）

**ｆ　２号墳埋葬施設２出土遺物**

**管玉**（319～329）　いずれも碧玉製である。形状は、やや中膨らみのものもあるが、基本的に柱状で、側面・孔面とも丁寧に研磨されている。色調は、濃緑と灰緑のものがあり、濃緑のものには縞がみられるものもある。穿孔は片面穿孔であり、325には穿孔に失敗し対面に達しない穿孔痕跡が見られる。この管玉の孔内にも赤色顔料が認められ、有機質の繊維により一顆として有機質製繊維で連ねていたことが推測でき、この繊維に浸透した顔料が孔内に沈着したものと考えられる。

**土製練玉**（330～338）　９個体が出土している。１号墳埋葬施設３と同じく、側面の形状が臼状で孔面に面を持つもの、面を持たない丸玉状のものと、断面形状が方形に近い個体がみられる。（大川）

**ｇ　２号墳出土のその他の遺物**

339～344は２号墳調査中に出土したもので、いずれも須恵器である。344は甕か。田辺編年のＭＴ85型式に併行する。

## 5　調査のまとめ

加和良１・２号墳は、発掘調査の結果、６世紀前半から後葉にかけて形成された古墳であることが判明した。とくに１号墳では４回以上の追葬が確認された。

１号墳で確認された埋葬施設のなかで、最も注目できるのは埋葬施設１である。ここからは、楕円形鏡板を伴う轡と直弧文の施された鹿角装刀子が出土している。楕円形鏡板は、三重県内では鎌切３号墳（津市）、奥小波田１号墳についで３例目であり[3]、全国でも70例ほどの出土が知られている[4]。中ノ川流域で馬具の出土ははじめてであり、貴重な事例といえる。ただし、本書で報告する長法寺１号墳や石薬師古墳群[5]からは、精緻な馬具の表現が見られる埴輪が出土しているし、宮ノ前遺跡からは６世紀前葉頃の馬の下顎骨が出土している[6]。今回報告する馬具を含め、古墳時代後期の鈴鹿川・中ノ川流域では、馬がかなり普及しており、重視されていたと考えられるのではないだろうか。

また、馬具を副葬する埋葬施設１が、武器類を一切伴わないことと、直弧文を施した鹿角装刀子を伴っていることは注目すべき要素である。埋葬施設２・３からは武具類が出土しているため、古墳全体としてはとくに違和感はないものの、被葬者単位での役割分担や性質の違いを想起させる状況である。

須恵器の状況も興味深い。加和良１号墳では、当地の徳居産と考えられるものと、陶邑（大阪府）産ないしはそれに近いものとの２種類が見られ、それぞれが使い分けされている状況が確認できた。須恵器生産地近隣でこのような現象の見られる要因については、今後注目して分析していく必要がある。

（伊藤）

＜註＞

(1)田辺昭三『須恵器大成』（角川書店　1981年）

(2)蛍光Ｘ線分析は、奈良大学文化財学科保存科学研究室において実施した。このときの分析条件は以下のとおりで、簡易定量分析によるデータにもとづく。

**化学組織（wt%）**

| | | |
|---|---|---|
| $SiO_2$ | 二酸化ケイ素 | 58.98 |
| $Al_2O_3$ | 酸化アルミニウム | 14.03 |
| $Fe_2O_3$ | 酸化鉄 | 5.60 |
| $TiO_2$ | 酸化チタン | 1.25 |
| CaO | 酸化カルシウム | 4.23 |
| MgO | 酸化マグネシウム | 0.87 |
| $Na_2O$ | 酸化ナトリウム | 1.40 |
| $K_2O$ | 酸化カリウム | 2.15 |
| Pbo | 酸化鉛 | 0.13 |
| MnO | 酸化マンガン | 0.94 |
| CuO | 酸化銅 | 10.42 |
| | | 100.00 |

使用機器　エネルギー分散型蛍光Ｘ線分析装置
　　EDAX EAGLEⅡ-XXLNR）EDAX INC.
分析条件　Ｘ線管球：クロム
　　管 電 圧：25kv
　　放射領域：100μm
　　測定時間：200秒

(3)山中由紀子「三重県内出土の古墳時代馬具集成」（『三重県史研究』20　2005年）

(4)白澤崇「鉄製楕円形鏡板付轡とその馬装」（『石ノ形古墳』静岡県袋井市教育委員会　1999年）

(5)三重県埋蔵文化財センター『石薬師東古墳群・石薬師東遺跡発掘調査報告』（2000年）

(6)三重県埋蔵文化財センター『河曲の遺跡』（2004年）

## 第Ⅶ－１表　加和良１号墳出土鉄製品観察表

（埋葬施設1）刀剣類

| No. | 遺物名 | 登録No. | 取上No. | 全長(cm) | 刃部(cm) 幅 | 刃部(cm) 厚さ | 関形状 | 茎尻 | 鞘材 | 把材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 14 | 鹿角装刀子 | [illegible] | 3 | 22.8 | 2.1 | 0.7 | 両角関 | 隅切 | 木芯 | 鹿角 | 赤彩(ベンガラ)直弧文 |
| 15 | 鹿角装刀子 | 047−19 | 4 | 19.2 | 1.8 | 0.6 | 背:角関 | 一文字 中細茎 | 木芯 | 木芯+鹿角 | 目釘孔1 |
| 16 | 鹿角装刀子 | 047−21 | 1 | 12.5 | 1.2 | 0.5 | 背:角関 | 刃上がり栗 | 鹿角 | 鹿角 | |
| 17 | 鹿角装刀子 | 046−18 | 2 | 12.0 | 1.5 | 0.5 | 両角関 | 刃上がり栗 | 木芯 | 鹿角 | |
| 18 | 刀子 | 046−12 | 5 | 12.4 | 1.2 | 0.4 | 背:角関 | 栗 | | 木芯 | 把:下地樺皮巻あり |

（埋葬施設2）刀剣類

| No. | 遺物名 | 登録No. | 取上No. | 全長(cm) | 刃部(cm) 幅 | 刃部(cm) 厚さ | 関形状 | 茎尻 | 鞘材 | 把材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 41 | 鹿角装刀子 | 046−11 | 7 | 11.0 | 1.3 | 0.4 | 背:角関 刃:無関 | 栗 | 鹿角 | 木芯+鹿角 | |
| 42 | 刀子 | 051−06 | | 3.9 | 0.9 | 0.3 | | | | | 関～茎片か? |

（埋葬施設3）刀剣類

| No. | 遺物名 | 登録No. | 取上No. | 全長(cm) | 刃部(cm) 幅 | 刃部(cm) 厚さ | 関形状 | 茎尻 | 鞘材 | 把材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 265 | 鹿角装刀子 | 047−22 | 1 | 10.2 | 1.9 | 0.6 | 背:角関 刃:撫関 | | | 木芯 | |
| 266 | 鹿角装刀子 | 044−15 | | 6.0 | 1.5 | 0.5 | — | — | 木芯+鹿角 | 鹿角 | |
| 267 | 刀子 | 044−14 | | 2.5 | 1.8 | 0.7 | | | 木芯 | | |
| 268 | 鹿角装刀子 | 047−24 | 2 | 10.2 | 1.5 | 0.5 | 背:角関 刃:無関 | 一文字 | | 鹿角 | |
| 269 | 刀子 | 052−03 | 2 | 2.7 | 1.2 | 0.3 | | | | | 047-24と同一個体か |
| 270 | 鹿角装刀子 | 047−23 | | 13.3 | 1.3 | 0.4 | 両角関 | 栗 | | | |
| 280 | 直刀 | 049−10 | | 84.9 | 3.7 | 0.7 | 背:無 刃:斜角関 | | 木芯 | 木芯 | 目釘孔1 |

（墳丘　南）刀剣類

| No. | 遺物名 | 登録No. | 取上No. | 全長(cm) | 刃部(cm) 幅 | 刃部(cm) 厚さ | 関形状 | 茎尻 | 鞘材 | 把材 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 299 | 鹿角装刀子 | 052−04 | | 5.0 | 0.9 | 0.7 | 両角関 | | 鹿角 | 木芯 | |
| 300 | 刀子 | 052−05 | | 4.5 | 1.4 | 0.3 | | | 鹿角 | | |
| 301 | 刀子 | 052−06 | | 7.7 | 1.5 | 0.4 | 両角関 | | 皮革か? | 木芯 | |
| 302 | 鹿角装刀子 | 052−07 | | 11.7 | 1.8 | 0.4 | 両角関 | | 鹿角か? | 木芯+鹿角 | |

（凡例）
＊数値欄の「+」は、原形はその数値よりも長いことを示す。
＊刃部寸法は中央部について測定。
＊「厚さ」は背側を測定。
＊「鹿角」＝鹿角製

（埋葬施設2）鏃

| No. | 登録No. | 取上No. | 形式 | 全長(cm) | 鏃身長(cm) | 頸部長(cm) | 茎長(cm) | 鏃身形状 | 鏃身関 | 茎関 | 矢柄 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 43 | 046−10a | 15 | 長頸三角 | 11.7 | 2.5 | 7.8 | 1.5+ | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 口+木 | |
| 44 | 046−10b | 15 | 長頸三角 | 13.3 | 2.9 | 7.6 | 3.0+ | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 口+木 | 3本銹着 |
| 45 | 046−10c | 15 | 長頸三角 | 15.1 | 1.4+ | 9.4 | 4.5+ | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 口+木 | |
| 46 | 045−4左 | 5 | 長頸三角 | 14.7 | 2.7 | 7.9 | 4.4 | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 木+口 | |
| 47 | 045−4中 | 5 | 長頸三角 | 11.9 | 2.4 | 12.7 | 1.9+ | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 木+口 | 3本銹着 |
| 48 | 045−4右 | 5 | 長頸三角 | 11.8 | 2.7 | 7.4 | 2.1+ | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 木+口 | |
| 49 | 045−05 | 20 | 長頸三角 | 13.1 | 3.1 | 7.7 | 2.6+ | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 木+口 | 片方逆刺欠損 |
| 50 | 045−06 | 18 | 長頸三角 | 12.1 | 3.1 | 7.8 | 1.5 | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 木+口 | |
| 51 | 045−03 | 6 | 長頸三角 | 10.5 | 2.7 | 7.4 | 0.8+ | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 木+口 | |
| 52 | 045−01 | 3 | 長頸三角 | 11.5 | 2.9 | 7.7 | 1.4+ | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 木+口 | |
| 53 | 048−34 | 西 | 長頸三角 | 11.6 | 2.8 | 7.9 | 1.3+ | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 口+木 | |
| 54 | 046−13 | 21 | 長頸三角 | 12.7 | 2.7 | 8.0 | 2.5+ | 鎬造 | 逆刺 | 台形 | 口 | 鎬あり |
| 55 | 050−06 | ベルト東 | 長頸三角 | 11.8 | 2.8+ | 7.8 | 1.7+ | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 口+木 | 矢柄に赤色顔料付着 |
| 56 | 045−08 | 16 | 長頸三角 | 13.1 | 2.8 | 7.7 | 3.1+ | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 木+口 | |
| 57 | 047−27 | 22 | 長頸三角 | 11.4 | 2.6 | 7.1 | 2.3+ | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 口+木 | |
| 58 | 048−37 | 西 | 長頸三角 | 10.7 | 2.5 | 7.6 | 0.9+ | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 口+木 | |
| 59 | 047−26 | | 長頸三角 | 11.9 | 2.8 | 7.1 | 2.4+ | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 口+木 | |
| 60 | 049−08 | 4 | 長頸三角 | 13.7 | 2.8 | 7.6 | 4.0+ | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 口+木 | |
| 61 | 049−09 | 4 | 長頸三角 | 13.5 | 2.3 | 7.3 | 3.9+ | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 口+木 | 矢柄に赤色顔料付着 |
| 62 | 047−20 | 14 | 長頸三角 | 13.2 | 2.5 | 7.9 | 3.4 | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 口+木 | |
| 63 | 045−07 | 17 | 長頸三角 | 15.5 | 2.8 | 8.0 | 3.7+ | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 木+口 | |
| 64 | 048−38 | 西 | 長頸三角 | 13.6 | 2.6 | 7.7 | 3.7 | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 口 | |
| 65 | 050−02 | 11 | 長頸三角 | 12.5 | 2.6 | 7.9 | 2.2+ | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 口+木 | 矢柄に赤色顔料付着 |
| 66 | 046−16 | 23 | 長頸三角 | 12.1 | 2.7 | 7.8 | 1.8+ | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 口+木 | |
| 67 | 050−04 | 西 | 長頸三角 | 14.4 | 2.9 | 6.9 | 4.8 | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 木 | |
| 68 | 050−05 | ベルト西 | 長頸三角 | 13.7 | 2.6 | 7.3 | 3.7+ | 片丸造 | 角 | 台形 | 木 | 鏃身関両方欠損 |
| 69 | 050−07 | | 長頸三角か? | 11.3 | 1.6+ | 6.0+ | 1.5+ | 片丸造 | | 台形 | 口+木 | |
| 70 | 046−14 | 17 | 長頸三角 | 13.2 | 2.8 | 7.2 | 3.6+ | 片丸造 | 逆刺+片側二段逆刺 | 台形 | 木 | 頸部にベンガラ付着 |
| 71 | 049−07 | | 長頸三角 | 11.4 | 1.6 | 8.1 | 1.6+ | 片丸造 | 撫 | 台形 | 口+木 | |
| 72 | 049−05 | 3 | 長頸三角 | 11.2 | 1.2 | 8.7 | 1.4+ | 片丸造 | 撫 | 台形 | 口+木 | |
| 73 | 047−25 | | 長頸三角 | 10.4 | 1.2+ | 7.9 | 1.4+ | 片丸造 | 逆刺+二段逆刺 | 台形 | 口+木 | |
| 74 | 046−15 | 19 | 長頸三角 | 8.5 | 2.9 | 4.8 | 1.2 | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 口+木 | |
| 75 | 048−36 | 4 | 長頸三角 | 3.0 | 2.8 | 0.7+ | | 片丸造 | 逆刺 | | | |
| 76 | 051−08 | 13 | 長頸三角 | 3.3 | 2.1+ | 1.5+ | | 片丸造 | 逆刺? | | | 逆刺欠損 |
| 77 | 049−03 | 3 | 長頸三角 | 7.5 | 1.5+ | 5.4 | | 片丸造 | | | | 逆刺欠損 |
| 78 | 051−02 | 15 | 長頸三角 | 6.2 | 1.9 | 4.2 | | 片丸造 | 角? | | | 鎬造? |
| 79 | 048−28 | | 長頸三角 | 5.0 | 1.3 | 3.8+ | | 片丸造 | 逆刺+片側二段逆刺 | 台形 | | 二段目の片側逆刺不明瞭 |
| 80 | 051−03 | | 長頸 | 6.8 | | 5.5+ | 1.3+ | | | 台形 | 口+木+樺 | |
| 81 | 051−04 | ベルト東 | 長頸 | 6.2 | | 5.3+ | 0.9+ | | | 台形 | 木 | |
| 82 | 050−01 | 4 | 長頸 | 13.1 | | 11.5+ | 1.2+ | | | 台形 | 口+木 | |
| 83 | 049−04 | 3 | 長頸 | 11.2 | | 9.9+ | 1.3+ | | | 台形 | 口+木 | |
| 84 | 049−06 | 6 | 長頸 | 11.7 | | 7.6+ | 3.9+ | | | | 口+木 | 矢柄に赤色顔料付着 |
| 85 | 050−03 | 12 | 長頸 | 13.2 | | 7.1+ | 5.6 | | | 台形 | 口+木 | 矢柄に赤色顔料付着 |
| 86 | 050−08 | | 長頸三角 | 12.1 | | 6.9+ | 5.2+ | | | 台形 | 口+木 | |
| 87 | 049−02 | 3 | 長頸 | 11.9 | | 6.5 | 5.5 | | | 台形 | 口+木 | 折曲鏃 |
| 88 | 051−05 | 1 | 長頸 | 4.1 | | 4.1+ | | | | | | 折曲鏃頸部 |
| 89 | 049−01 | 4 | 長頸三角 | 14.5 | 0.8 | 7.4 | 5 | 片丸造 | 逆刺 | 台形 | 口+木 | 折曲鏃　矢柄に赤色顔料 |
| 90 | 048−35 | 2+西 | 長頸三角 | 12.2 | 1.3 | 8.3 | 2.9 | 片丸造 | 両角 | 台形 | 口+木 | 折曲鏃 |
| 91 | 051−07 | | 長頸 | 7.3 | | 5.6+ | 1.7+ | | | 台形 | 口+木+樺 | 折曲鏃頸部～茎 |
| 92 | 051−01 | | 長頸三角 | 9.8 | 2 | 7.1 | 0.5+ | 片丸造 | 逆刺? | 台形 | 口 | 補修鏃か? |
| 93 | 045−02 | 1 | 三角形 | 9.4 | 4.0 | 4.7 | 0.8+ | 平造 | 二段角? | 台形 | 木+口 | |
| 94 | 045−09 | 2 | 圭頭 | 7.6 | 3.3 | 4.3 | | 平造 | — | 台形 | | |

（埋葬施設3）

| No. | 登録No. | 取上No. | 形式 | 全長(cm) | 鏃身長(cm) | 頸部長(cm) | 茎長(cm) | 鏃身形状 | 鏃身関 | 茎関 | 矢柄 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 271 | 048−30② | | 長頸 | 3.7 | | 3.7+ | | | | | | |
| 272 | 048−30③ | | 長頸三角 | 6.7 | 1.3 | 5.3+ | | 片丸造 | 撫 | | | 6本銹着 |
| 273 | 048−30⑤ | | 長頸 | 7.8 | | 5.2+ | 2.5+ | | | | 口+木 | |
| 274 | 048−30⑥ | | 長頸 | 1.0 | | 1.0+ | | | | | | |
| 275 | 052−02 | | 長頸三角 | 3.6 | 2.5 | 1.5+ | | 片丸造 | 逆刺 | | | 逆刺一方欠損 |
| 276 | 052−01 | 西 | 長頸三角 | 4.4 | 2.3 | 2.3+ | | 片丸造 | 逆刺 | | | |
| 277 | 048−32 | | 長頸三角 | 4.2 | 1.2 | 3.1 | | 片丸造 | 角+片側二段逆刺 | | | |
| 278 | 048−30① | | 長頸三角 | 4.4 | 1.4 | 3.0+ | | 片丸造 | 逆刺+片側二段逆刺 | | | 6本銹着 |
| 279 | 048−31 | | 長頸三角 | 10.5 | 0.9+ | 7.9 | 2.2+ | 片丸造 | 角+片側二段逆刺 | 台形 | 口+木 | |

（凡例）
＊数値欄の「+」は、原形はその数値よりも長いことを示す。　＊「樺」＝茎に螺旋状の樹皮巻が施されている。
＊「口」＝樹皮による口巻きが残存　＊「形式」は杉山秀宏氏の分類に基づく。
＊「木」＝縦方向繊維の木質が残存

（埋葬施設1）馬具

| No. | 遺物名 | 登録No. | 取上No. | 全長(cm) | 幅(cm) | その他の計測値(cm) | その他の計測値(cm) | その他の計測値(cm) | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 楕円形鏡板 | 041-01 | | 14.0 | 11.5 | | | | 鉤金具2(044−13)を伴う |
| 2 | 兵庫鎖 | 044-13 | | 8.8 | 2.4 | 鉤金具幅1.3 | 鋲 1箇所 | 責金具0.4×3連×1箇所 | 兵庫鎖6連 |
| 3 | 銜 | 042-03 | 8 | 13.1 | | 環外径 2.3 | | | 2連 |
| 4 | 兵庫鎖 | 044-12 | 8 | 16.8 | 2.4 | 鉤金具幅1.4 | 鋲頭径0.8×3箇所 | 責金具0.4×3連×1箇所 | 兵庫鎖6連 |
| 12 | 辻金具 | 043-04 | 21 | 5.9 | 3.3 | 責金具幅4.0～6.0 | | 鋲頭径0.7 | 2爪欠損　責金具2箇所・鋲1箇所残存 |
| 5 | 楕円形鏡板 | 042-02 | 8 | 13.8 | 10.9 | | | | 鉤金具4(044−12)を伴う |
| 13 | 辻金具 | 043-05 | 7 | 6.1 | 6.0 | 責金具幅5.0～6.0 | | 鋲頭径0.9 | 責金具4箇所・鋲2箇所残存 |
| 7 | 引手金具 | 043-10 | 8-1 | 13.6 | | 環外径 2.3 | 軸0.85×1.0 | | |
| 6 | 引手金具 | 043-11 | 8-2 | 14.2 | | 環外径 2.2 | 軸1.0×0.95 | | |
| 8 | 引手壺 | 043-06 | | 7.0 | 4.9 | 壺幅 2.8 | | | |
| 9 | 引手壺 | 043-07 | 8 | 6.9 | 5.3 | 壺幅 2.8 | | | |
| 10 | 絞具 | 043-09 | 20 | 4.9 | 3.3 | | | | 舌 欠失 |
| 11 | 絞具 | 043-08 | 6 | 5.2 | 3.5 | 舌 幅0.4×長5.0 | | | |

（凡例）　＊表枠の都合上、本文中「帯状留金具」を「責金具」と表記。

## 第Ⅶ－２表　加和良１・２号墳出土玉類観察表

加和良１号墳　埋葬施設３　　土製練玉

| No. | 登録番号 | 出土位置 | 色調 | 外径mm | 最大径mm | 厚mm | 孔径mm | 重量 g | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 103 | 019-09 | | 黒 | 5.00 | 7.20 | 6.10 | 1.80 | 0.31 | |
| 104 | 019-10 | 鉄刀下 | 黒 | 4.80 | 7.20 | 6.40 | 1.10 | 0.33 | №1 |
| 105 | 019-11 | 鉄刀下 | 黒 | 5.30 | 7.20 | 6.50 | 1.20 | 0.39 | №2 |
| 106 | 019-12 | 鉄刀下 | 黒 | 5.10 | 7.60 | 6.20 | 1.30 | 0.34 | №3 |
| 107 | 019-13 | 鉄刀下 | 黒 | 4.80 | 7.60 | 6.60 | 1.30 | 0.38 | №4 |
| 108 | 019-14 | 鉄刀下 | 黒 | 4.90 | 7.80 | 6.70 | 1.40 | 0.39 | №5 |
| 109 | 019-15 | 鉄刀下 | 黒 | 4.00 | 7.30 | 6.50 | 1.30 | 0.29 | №6 |
| 110 | 019-16 | 鉄刀下 | 黒褐 | 4.20 | 7.10 | 6.10 | 1.30 | 0.28 | №7 |
| 111 | 019-17 | 鉄刀下 | 黒褐 | 4.10 | 7.00 | 6.30 | 1.00 | 0.31 | №8 |
| 112 | 019-18 | 鉄刀下 | 黒褐 | 4.20 | 7.30 | 6.70 | 1.40 | 0.39 | №9 |
| 113 | 019-19 | 鉄刀下 | 黒 | 4.80 | 7.20 | 6.40 | 1.30 | 0.32 | №10 |
| 114 | 019-20 | 鉄刀周辺 | 黒 | 5.20 | 7.20 | 6.10 | 1.20 | 0.28 | |
| 115 | 019-21 | 鉄刀周辺 | 黒 | - | - | 5.90 | - | 0.11 | 1/2個体欠損 |
| 116 | 019-22 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.20 | 7.00 | 6.80 | 1.40 | 0.37 | №11 |
| 117 | 019-23 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.50 | 7.30 | 6.50 | 1.40 | 0.33 | №12 |
| 118 | 019-24 | 鉄刀周辺 | 黒 | 5.20 | 7.70 | 6.10 | 1.80 | 0.35 | №13 |
| 119 | 019-25 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.80 | 7.40 | 6.30 | 1.30 | 0.32 | №14 |
| 120 | 020-26 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.20 | 7.90 | 6.30 | 1.40 | 0.37 | №15 |
| 121 | 020-27 | 鉄刀周辺 | 褐灰 | 3.90 | 6.80 | 5.20 | 1.30 | 0.25 | №16 |
| 122 | 020-28 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.80 | 7.50 | 6.00 | 1.30 | 0.31 | №17 |
| 123 | 020-29 | 鉄刀周辺 | 褐灰 | 4.20 | 7.40 | 5.30 | 1.40 | 0.28 | №18 |
| 124 | 020-30 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.20 | 7.50 | 6.10 | 1.40 | 0.34 | №19 |
| 125 | 020-31 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.20 | 6.50 | 5.90 | 1.40 | 0.27 | №20 |
| 126 | 020-32 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.80 | 6.80 | 6.20 | 1.40 | 0.27 | №21 |
| 127 | 020-33 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 5.20 | 7.40 | 5.10 | 1.50 | 0.27 | №22 |
| 128 | 020-34 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 6.10 | 7.40 | 5.90 | 1.30 | 0.26 | №23 |
| 129 | 020-35 | 鉄刀周辺 | 黒 | 4.20 | 7.20 | 6.30 | 1.30 | 0.31 | №24 |
| 130 | 020-36 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.90 | 7.00 | 6.30 | 1.30 | 0.35 | №25 |
| 131 | 020-37 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.80 | 7.10 | 5.80 | 1.30 | 0.27 | №26 |
| 132 | 020-38 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.80 | 7.80 | 6.40 | 1.30 | 0.35 | №27 |
| 133 | 020-39 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.80 | 7.60 | 6.50 | 1.40 | 0.37 | №28 |
| 134 | 020-40 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.80 | 7.50 | 6.60 | 1.30 | 0.35 | №29 |
| 135 | 020-41 | 鉄刀周辺 | 黒 | 3.80 | 7.30 | 6.80 | 1.30 | 0.35 | №30 |
| 136 | 020-42 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.10 | 7.20 | 6.10 | 1.20 | 0.35 | №31 |
| 137 | 020-43 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.70 | 7.30 | 6.50 | 1.30 | 0.35 | №32 |
| 138 | 020-44 | 鉄刀周辺 | 黒 | 4.00 | 6.80 | 5.80 | 1.20 | 0.27 | №33 |
| 139 | 020-45 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.00 | 7.50 | 6.40 | 1.40 | 0.34 | №34 |
| 140 | 020-46 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.20 | 7.10 | 6.10 | 1.40 | 0.31 | №35 |
| 141 | 020-47 | 鉄刀周辺 | 黒 | 3.90 | 7.50 | 6.80 | 1.40 | 0.36 | №36 |
| 142 | 020-48 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.80 | 6.50 | 5.40 | 1.20 | 0.25 | №37 |
| 143 | 020-49 | 鉄刀周辺 | 黒 | 3.40 | 7.00 | 6.40 | 1.30 | 0.27 | №38 |
| 144 | 021-50 | 鉄刀周辺 | 黒 | 3.80 | 7.50 | 6.30 | 1.40 | 0.30 | №39 |
| 145 | 021-51 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 5.00 | 7.4-8.0 | 6.40 | 1.30 | 0.37 | №40 |
| 146 | 021-52 | 鉄刀周辺 | 黒 | 4.10 | 7.10 | 6.40 | 1.20 | 0.31 | №41 |
| 147 | 021-53 | 鉄刀周辺 | 黒 | 4.20 | 7.80 | 6.50 | 1.40 | 0.39 | №42 |
| 148 | 021-54 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.20 | 7.10 | 5.80 | 1.40 | 0.29 | №43 |
| 149 | 021-55 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.00 | 7.20 | 6.40 | 1.50 | 0.33 | №44 |
| 150 | 021-56 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.40 | 7.30 | 5.00 | 1.20 | 0.29 | №45 |
| 151 | 021-57 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.80 | 7.30 | 6.50 | 1.30 | 0.35 | №46 |
| 152 | 021-58 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.80 | 7.40 | 6.10 | 1.40 | 0.32 | №47 |
| 153 | 021-59 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.10 | 7.70 | 5.80 | 1.40 | 0.34 | №48 |
| 154 | 021-60 | 鉄刀周辺 | 黒 | 3.90 | 7.40 | 6.30 | 1.30 | 0.35 | №49 |
| 155 | 021-61 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.20 | 7.70 | 6.50 | 1.30 | 0.36 | №50 |
| 156 | 021-62 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.30 | 7.80 | 6.10 | 1.30 | 0.37 | №51 |
| 157 | 021-63 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.80 | 6.90 | 6.00 | 1.50 | 0.27 | №52 |
| 158 | 021-64 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.90 | 6.80 | 6.20 | 1.20 | 0.31 | №53 |
| 159 | 021-65 | 鉄刀周辺 | 黒 | 4.20 | 7.5-8.3 | 7.00 | 1.20 | 0.42 | №54 |
| 160 | 021-66 | | 黒褐 | 3.90 | 6.90 | 6.10 | 1.30 | 0.29 | №55 |
| 161 | 021-67 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.10 | 6.80 | 6.00 | 1.40 | 0.30 | №56 |
| 162 | 021-68 | 鉄刀周辺 | 黒 | 4.90 | 7.60 | 6.40 | 1.7-2.6 | 0.38 | №57 |
| 163 | 021-69 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.70 | 7.30 | 6.00 | 1.40 | 0.34 | №58 |
| 164 | 021-70 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.80 | 7.10 | 6.60 | 1.30 | 0.32 | №59 |
| 165 | 021-71 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.80 | 7.10 | 6.20 | 1.30 | 0.33 | №60 |
| 166 | 021-72 | 鉄刀周辺 | 褐灰 | 3.80 | 6.60 | 5.80 | 1.20 | 0.25 | №61 |
| 167 | 021-73 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.80 | 6.80 | 6.10 | 1.30 | 0.26 | №62 |
| 168 | 022-74 | 鉄刀周辺 | 褐灰 | 3.90 | 6.60 | 5.90 | 1.30 | 0.33 | №63 |
| 169 | 022-75 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.80 | 7.00 | 6.50 | 1.20 | 0.34 | №64 |
| 170 | 022-76 | 鉄刀周辺 | 黒 | 3.90 | 7.10 | 6.50 | 1.20 | 0.29 | №65 |
| 171 | 022-77 | 鉄刀周辺 | 褐灰 | 3.80 | 7.00 | 5.40 | 1.70 | 0.30 | №66 |
| 172 | 022-78 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.80 | 6.90 | 6.00 | 1.30 | 0.31 | №67 |
| 173 | 022-79 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.70 | 7.30 | 6.30 | 1.40 | 0.34 | №68 |
| 174 | 022-80 | 鉄刀周辺 | 褐灰 | 3.80 | 7.10 | 6.10 | 1.30 | 0.36 | №69 |
| 175 | 022-81 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.30 | 7.40 | 6.40 | 1.40 | 0.36 | №70 |
| 176 | 022-82 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.90 | 6.60 | 5.90 | 1.30 | 0.26 | №71 |
| 177 | 022-83 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.00 | 7.00 | 6.00 | 1.40 | 0.29 | №72 |
| 178 | 022-84 | 鉄刀周辺 | 黒 | 2.80 | 6.50 | 5.80 | 1.40 | 0.26 | №73 |
| 179 | 022-85 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.60 | 7.00 | 6.10 | 1.20 | 0.32 | №74 |
| 180 | 022-86 | 鉄刀周辺 | 黒 | 3.90 | 7.80 | 6.80 | 1.40 | 0.40 | №75 |
| 181 | 022-87 | 鉄刀周辺 | 褐灰 | 4.00 | 7.50 | 5.60 | 1.50 | 0.23 | №76 |
| 182 | 022-88 | 鉄刀周辺 | 黒 | 3.40 | 6.60 | 5.20 | 1.40 | 0.25 | №77 |
| 183 | 022-89 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.00 | 6.7-7.5 | 5.70 | 1.30 | 0.29 | №78 |
| 184 | 022-90 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.20 | 6.80 | 5.90 | 1.20 | 0.26 | №79 |
| 185 | 022-91 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.90 | 7.20 | 6.50 | 1.30 | 0.33 | №80 |
| 186 | 022-92 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.80 | 6.80 | 6.00 | 1.2-1.7 | 0.33 | №81 |
| 187 | 022-93 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.30 | 6.80 | 6.50 | 1.40 | 0.33 | №82 |
| 188 | 022-94 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.80 | 7.30 | 6.20 | 1.30 | 0.38 | №83 |
| 189 | 022-95 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.20 | 6.80 | 6.00 | 1.40 | 0.28 | №84 |
| 190 | 022-96 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.70 | 7.40 | 6.20 | 1.40 | 0.31 | №85 |
| 191 | 022-97 | 鉄刀周辺 | 黒 | 3.90 | 6.80 | 6.00 | 1.30 | 0.30 | №86 |
| 192 | 023-98 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.20 | 6.70 | 5.90 | 1.30 | 0.31 | №87 |
| 193 | 023-99 | 鉄刀周辺 | 黒 | 3.30 | 7.40 | 5.90 | 1.20 | 0.29 | №88 |
| 194 | 023-100 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.20 | 7.10 | 5.70 | 1.40 | 0.30 | №89 |
| 195 | 023-101 | 鉄刀周辺 | 褐灰 | 3.90 | 8.00 | 6.20 | 1.60 | 0.38 | №90 |
| 196 | 023-102 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.80 | 6.90 | 5.90 | 1.30 | 0.29 | №91 |
| 197 | 023-103 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 2.80 | 7.50 | 6.40 | 1.40 | 0.33 | №92 |
| 198 | 023-104 | 鉄刀周辺 | 黒 | 3.80 | 7.20 | 6.10 | 1.30 | 0.34 | №93 |
| 199 | 023-105 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.00 | 7.90 | 6.10 | 1.40 | 0.34 | №94 |
| 200 | 023-106 | 鉄刀周辺 | 黒 | 3.80 | 6.80 | 6.00 | 1.30 | 0.29 | №95 |
| 201 | 023-107 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.00 | 7.3-8.2 | 6.00 | 1.40 | 0.39 | №96 |
| 202 | 023-108 | 鉄刀周辺 | 黒 | 3.50 | 7.30 | 6.60 | 1.40 | 0.32 | №97 |
| 203 | 023-109 | 鉄刀周辺 | 黒 | 3.40 | 7.30 | 6.30 | 1.40 | 0.38 | №98 |
| 204 | 023-110 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.60 | 7.10 | 5.90 | 1.30 | 0.28 | №99 |
| 205 | 023-111 | 鉄刀周辺 | 黒 | 3.70 | 6.80 | 5.20 | 1.40 | 0.24 | №100 |
| 206 | 023-112 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 6.00 | 6.8-7.7 | 3.20 | 1.40 | 0.32 | №101 |
| 207 | 023-113 | 鉄刀周辺 | 黒 | 2.80 | 6.60 | 6.30 | 1.20 | 0.27 | №102 |
| 208 | 023-114 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.60 | 7.40 | 6.10 | 1.40 | 0.36 | №103 |
| 209 | 023-115 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.30 | 7.30 | 5.50 | 1.30 | 0.32 | №104 |
| 210 | 023-116 | 鉄刀周辺 | 黒 | 3.30 | 6.80 | 5.90 | 1.30 | 0.28 | №105 |
| 211 | 023-117 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.50 | 7.10 | 5.30 | 1.40 | 0.29 | №106 |
| 212 | 023-118 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.20 | 7.50 | 6.90 | 1.30 | 0.40 | №107 |
| 213 | 023-119 | 鉄刀周辺 | 黒 | 3.80 | 7.00 | 6.10 | 1.40 | 0.29 | №108 |
| 214 | 023-120 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.30 | 7.20 | 6.00 | 1.30 | 0.30 | №109 |
| 215 | 023-121 | 鉄刀周辺 | 黒 | 3.90 | 7.10 | 5.70 | 1.30 | 0.32 | №110 |
| 216 | 024-122 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.00 | 7.80 | 6.20 | 1.50 | 0.27 | №111 |
| 217 | 024-123 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.80 | 8.10 | 7.10 | 1.10 | 0.39 | №112 |
| 218 | 024-124 | 鉄刀周辺 | 黒 | 3.00 | 7.50 | 6.70 | 1.50 | 0.28 | №113 |
| 219 | 024-125 | 鉄刀周辺 | 黒 | 3.00 | 7.80 | 6.20 | 1.40 | 0.31 | №114 |
| 220 | 024-126 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 2.80 | 6.00 | 5.40 | 1.50 | 0.27 | №115 |
| 221 | 024-127 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.50 | 7.50 | 5.90 | 1.40 | 0.33 | №116 |
| 222 | 024-128 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.10 | 7.20 | 6.40 | 1.30 | 0.35 | №117 |
| 223 | 024-129 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.50 | 6.70 | 5.60 | 1.40 | 0.33 | №118 |
| 224 | 024-130 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.20 | 7.50 | 5.20 | 1.40 | 0.33 | №119 |
| 225 | 024-131 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.20 | 6.80 | 6.30 | 1.40 | 0.32 | №120 |
| 226 | 024-132 | 鉄刀周辺 | 褐灰 | 6.40 | 6.9-7.8 | 3.30 | 1.30 | 0.34 | №121 |
| 227 | 024-133 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 6.20 | 6.8-7.8 | 3.20 | 1.40 | 0.35 | №122 |
| 228 | 024-134 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.30 | 7.30 | 6.20 | 1.50 | 0.34 | №123 |
| 229 | 024-135 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.20 | 7.50 | 5.80 | 1.6-2.3 | 0.34 | №124 |
| 230 | 024-136 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.80 | 7.50 | 5.90 | 1.4-1.8 | 0.31 | №125 |
| 231 | 024-137 | 鉄刀周辺 | 黒 | 3.80 | 7.20 | 6.20 | 1.40 | 0.33 | №126 |
| 232 | 024-138 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.30 | 7.40 | 6.10 | 1.40 | 0.33 | №127 |
| 233 | 024-139 | 鉄刀周辺 | 黒 | 3.20 | 7.00 | 6.30 | 1.40 | 0.34 | №128 |
| 234 | 024-140 | 鉄刀周辺 | 褐灰 | 3.40 | 7.30 | 5.90 | 1.30 | 0.32 | №129 |
| 235 | 024-141 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.00 | 6.50 | 5.80 | 1.40 | 0.28 | №130 |
| 236 | 024-142 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.80 | 7.20 | 6.00 | 1.40 | 0.32 | №131 |
| 237 | 024-143 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.20 | 6.70 | 5.70 | 1.30 | 0.26 | №132 |
| 238 | 024-144 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.50 | 7.80 | 6.30 | 1.40 | 0.38 | №133 |
| 239 | 024-145 | 鉄刀周辺 | 褐灰 | 3.50 | 7.20 | 5.90 | 1.50 | 0.34 | №134 |
| 240 | 024-146 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 4.30 | 7.30 | 6.60 | 1.40 | 0.40 | №135 |
| 241 | 024-147 | 鉄刀周辺 | 黒褐 | 3.20 | 7.50 | 5.90 | 1.3-1.7 | 0.33 | №136 |
| 242 | 025-148 | | 黒褐 | 3.80 | 6.90 | 5.80 | 1.40 | 0.28 | №137 |
| 243 | 025-149 | | 黒褐 | 3.30 | 7.30 | 5.70 | 1.50 | 0.28 | №138 |
| 244 | 025-150 | | 黒 | 3.00 | 7.00 | 6.20 | 1.30 | 0.29 | №139 |
| 245 | 025-151 | | 黒褐 | 4.50 | 7.50 | 6.20 | 1.40 | 0.38 | №140 |
| 246 | 025-152 | | 黒褐 | 3.40 | 6.70 | 5.70 | 1.40 | 0.26 | №141 |
| 247 | 025-153 | | 黒 | 3.20 | 6.70 | 6.40 | 1.40 | 0.31 | №142 |
| 248 | 025-154 | | 黒 | 2.80 | 7.10 | 5.70 | 1.50 | 0.29 | №143 |
| 249 | 025-155 | | 黒褐 | 3.30 | 7.10 | 6.30 | 1.30 | 0.30 | №144 |
| 250 | 025-156 | | 黒 | 3.20 | 6.80 | 6.00 | 1.40 | 0.30 | №145 |
| 251 | 025-157 | | 黒褐 | 4.20 | 6.70 | 5.50 | 1.50 | 0.24 | №146 |
| 252 | 025-158 | | 黒 | 3.10 | 6.90 | 5.80 | 1.30 | 0.26 | №147 |
| 253 | 025-159 | | 褐灰 | 3.80 | 6.70 | 5.70 | 1.40 | 0.26 | №148 |
| 254 | 025-160 | | 褐灰 | 3.80 | 8.00 | 6.30 | 1.30 | 0.39 | №149 |
| 255 | 025-161 | | 褐灰 | 3.90 | 7.40 | 6.30 | 1.30 | 0.32 | №150 |
| 256 | 025-162 | | 黒褐 | 3.30 | 7.10 | 5.90 | 1.50 | 0.34 | №151 |
| 257 | 025-163 | | 黒 | 3.70 | 7.10 | 5.70 | 1.40 | 0.30 | №152 |
| 258 | 025-164 | | 黒 | 3.80 | 6.60 | 5.70 | 1.30 | 0.26 | №153 |
| 259 | 025-165 | | 黒 | 3.10 | 7.00 | 6.20 | 1.30 | 0.32 | №154 |
| 260 | 025-166 | | 黒褐 | 3.20 | 7.10 | 6.00 | 1.50 | 0.32 | №155 |
| 261 | 025-167 | | 黒 | 3.40 | 6.50 | 5.60 | 1.30 | 0.26 | №156 |
| 262 | 025-168 | | 褐灰 | 3.60 | 6.50 | 5.30 | 1.50 | 0.25 | №157 |
| 263 | 025-169 | | 黒褐 | 3.20 | 7.30 | 6.30 | 1.50 | 0.34 | №158 |
| 264 | 025-170 | | 黒褐 | 3.60 | 7.50 | 6.10 | 1.80 | 0.33 | №159 |

加和良1号墳　埋葬施設３　算盤玉・管玉

| № | 管理No. | 遺構 | 色調 | 外径 mm | 最大径mm | 厚mm | 孔径mm | 重量 g | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 95 | 19-03 | 埋葬施設３ | 無色透明 | 7.3-7.3 | 12.1 | 11.4 | 2.9-1.8 | 2.25 | [illegible] |
| 96 | 19-07 | 埋葬施設３ | 無色透明 | 7.0-7.6 | 11.7 | 10.2 | 3.2-2.0 | 1.86 | [illegible] |
| 97 | 19-01 | 埋葬施設３ | 無色透明 | 6.6-6.4 | 10.7 | 10.1 | 2.8-1.8 | 1.47 | [illegible] |
| 98 | 19-04 | 埋葬施設３ | 無色透明 | 7.7-7.4 | 11.2 | 9.8 | 3.1-1.4 | 1.75 | [illegible] |
| 99 | 19-05 | 埋葬施設３ | 無色透明 | 7.4-7.6 | 10.9 | 9.9 | 3.3-1.6 | 1.51 | [illegible] |
| 100 | 19-02 | 埋葬施設３ | 無色透明 | 7.1-6.9 | 10.2 | 8.2 | 2.8-1.8 | 1.21 | [illegible] |
| 101 | 19-06 | 埋葬施設３ | 無色透明 | 7.6-7.3 | 11.8 | 7.8 | 3.8-1.4 | 1.51 | [illegible] |
| 102 | 19-08 | 埋葬施設３ | 橙不透明 | 6.70 | | 11.8 | 2.5 | 0.90 | [illegible] |

加和良2号墳　　埋葬施設２　土製練玉

| № | 管理No. | 遺構 | 色調 | 外径 mm | 最大径mm | 厚mm | 孔径mm | 重量 g | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 330 | 028-12 | [illegible] | 黒 | 2.9 | 7.5 | 6.1 | 2.00 | 0.26 | №11 |
| 331 | 028-13 | [illegible] | 黒褐 | 3.2 | 7.8 | 6.3 | 1.90 | 0.28 | №12 |
| 332 | 028-14 | [illegible] | 黒 | 3.2 | 7.6 | 5.9 | 1.80 | 0.30 | №13 |
| 333 | 028-15 | [illegible] | 黒褐 | 4.0 | 8.1 | 6.0 | 1.50 | 0.32 | №16 |
| 334 | 028-16 | [illegible] | 黒 | 3.3 | 7.5 | 6.5 | 1.80 | 0.31 | №17 |
| 335 | 028-17 | [illegible] | 黒褐 | 3.4 | 7.1 | 6.5 | 1.60 | 0.30 | №18 |
| 336 | 028-18 | [illegible] | 黒褐 | 2.8 | 6.9 | 6.0 | 1.20 | 0.27 | №19 |
| 337 | 028-19 | [illegible] | 黒 | 3.7 | 7.0 | 6.0 | 1.50 | 0.27 | 第2主体 |
| 338 | 028-20 | [illegible] | 黒 | 3.7 | 7.0 | 6.0 | 2.00 | 0.23 | 第2主体西側 |

加和良２号墳　埋葬施設２　管玉

| № | 管理No. | 遺構 | 色調 | 外径 mm | 最大径mm | 厚mm | 孔径mm | 重量 g | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 319 | 28-07 | [illegible] | 濃緑 | 7.8 | 8.0 | 28.2 | 3.6-1.8 | 3.32 | 碧玉 |
| 320 | 28-01 | [illegible] | 灰緑 | 7.5 | 7.5 | 23.0 | 2.8-0.85 | 2.53 | 碧玉 |
| 321 | 28-08 | [illegible] | 濃緑 | 7.0 | 7.5 | 22.5 | 3.3-1.2 | 2.85 | 碧玉 |
| 322 | 28-05 | [illegible] | 濃緑 | 8.1 | 8.7 | 21.1 | 3.1-0.9 | 3.05 | 碧玉 |
| 323 | 28-06 | [illegible] | 暗灰緑 | 8.1 | 8.2 | 18.1 | 3.3-1.8 | 1.96 | 碧玉 |
| 324 | 28-02 | [illegible] | 灰緑 | 6.2 | 6.8 | 19.5 | 2.3-1.9 | 1.54 | 碧玉 |
| 325 | 28-11 | [illegible] | [illegible] | 4.8 | 5.1 | 1.9 | 2.3/1.1 | 0.86 | 碧玉 |
| 326 | 28-04 | [illegible] | 濃緑 | 5.2 | 4.8 | 18.2 | 2.2-0.8 | 0.95 | 碧玉 |
| 327 | 28-03 | [illegible] | 濃緑 | 4.3 | 4.8 | 17.0 | 2.4-0.9 | 0.74 | 碧玉 |
| 328 | 28-09 | [illegible] | 濃緑 | 4.8 | 5.1 | 16.1 | 2.0-0.7 | 0.70 | 碧玉 |
| 329 | 28-10 | [illegible] | 濃緑 | 4.9 | 5.1 | 14.8 | 2.4-1.2 | 0.76 | 碧玉 |

# Ⅷ　徳居門田遺跡 ～酒井神社北麓の遺跡～

## 1　調査の経過

徳居門田遺跡（門田遺跡）は、鈴鹿市徳居町字門田に所在する遺跡である。県営圃場整備事業（合川・下之庄地区）に伴い、昭和63年９月26日から同年９月27日にかけて、230㎡が調査された。

## 2　調査区の状況

徳居門田遺跡は、中ノ川に向かって北に派生する丘尾根の北端部に位置し、標高は約12mである。圃場整備前は水田として利用されていた。

発掘調査は、対象地に梯子状の調査溝を設定して実施された。その結果、発掘調査区内での遺構は検出されなかった。

## 3　出土した遺物

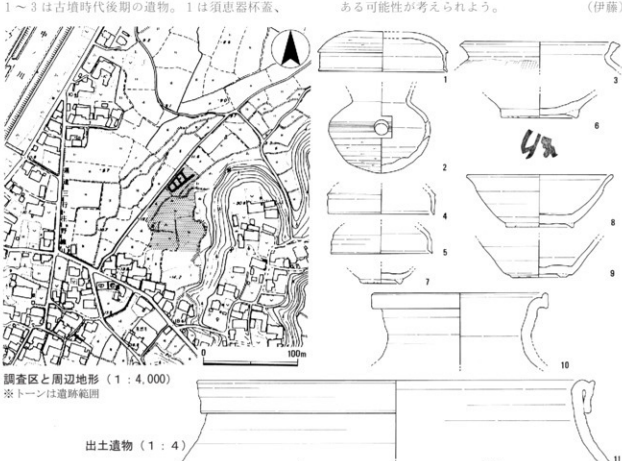
１～３は古墳時代後期の遺物。１は須恵器杯蓋、２は須恵器甕。３は土師器台付甕の口縁部。４・５は飛鳥時代頃の須恵器で、いずれも杯蓋である。

６は平安時代末期頃の灰釉陶器椀で、底部に花押状の墨書がある。内面には墨痕があり、転用硯と考えられる。７～９は陶器椀（山茶椀）類で、12世紀後葉から13世紀中葉にかけてのもの。６の内面には漆が付着しており、漆の容器として用いられたと見られる。

10・11は知多半島（常滑）産の壺甕類。10は13世紀代、11は14世紀代頃のものである。

## 5　調査のまとめ

徳居門田遺跡では、明確な遺構は検出されなかったが、出土遺物は古墳時代後期から中世におよぶものがあり、比較的時期幅の広い遺跡といえる。調査区の南部や、あるいは東部の丘陵上に良好な遺跡がある可能性が考えられよう。　（伊藤）




第Ⅷ－１図　徳居門田遺跡関係図

# Ⅸ　中ノ川中流域の遺跡動向 ～まとめに代えて～

本書では、大小合わせて6遺跡の資料を報告してきた。今後はこの資料をも用いながら、中ノ川流域全体のより詳しい状況を考察していく必要がある。そこでこの章では、今回報告した遺跡を中心に、当地の遺跡動向を総覧し、まとめに代えたい。

## 1　時期別の遺跡動向

今回報告した遺跡を中心に、発掘調査で確認された時代を簡単に図示したのが第Ⅸ－1図である。判断は、目立つもの・やや目立つもの・少し見られるもの・見られないもの、の4区分としたが、遺物点数などのデータ的根拠には基づいていない。しかし、おおまかな動向はこれで充分把握できるものと考える。この図をもとに、当地の遺跡動向を見ておこう。

**弥生時代以前**　縄文時代後期の遺構・遺物が、加和良神社遺跡（第1次）で確認されている。加和良神社遺跡は中ノ川北岸にあたる低丘陵上である。この時期の遺跡は、このような低丘陵上で小規模な形成に止まっていると今のところは考えられる。

弥生時代では、前期の動向は明確でなく、中期には寺門遺跡で遺物が出土するものの、遺構は確認されていない。後期に至ると、その後半期に寺門遺跡で周溝墓と考えられる遺構が見られる。寺門遺跡は中ノ川北岸の低地部にあたる。弥生時代後期後半頃から河川寄り低地部での遺跡形成が本格化するといういう現象も、例えば河曲中部低地遺跡群[11]や雲出島貫遺跡[12]などでも確認できる現象である。

**古墳時代の集落**　寺門遺跡で前期後半から中期頃の集落が確認された。また、桑名垣内遺跡で後期頃の竪穴住居がある。寺門遺跡の状況は、弥生時代後期後半頃からの継続と評価できるものであろう。

古墳時代後期の当地域は、南東部に徳居窯跡群が形成される時期にあたる。したがって、その工人集団と集落との関係は極めて重要である。しかし、今回報告した調査区内では、この時期のとくに大規模な集落跡は確認できなかった。発掘調査地以外に広がっている可能性もあるものの、古墳時代集落が大規模に展開する状況は、当地域では見られないと考えるのが今のところ妥当であろう。そのため、徳居窯跡群を形成した集団の居住地は中ノ川中流域ではなく、別の地域と考えることができる。

**古墳群**　長法寺1号墳と加和良1～3号墳の合計4基を報告した。長法寺1号墳は6世紀前半頃に相当する円墳で、淡輪技法を有する円筒埴輪や、馬・人物などの形象埴輪を有している。淡輪技法の円筒埴輪は、中ノ川流域や鈴鹿川流域で集中的に観察できるもので、当地域の大きな特徴となっている[13]。

加和良1号墳からは、楕円形鏡板付轡が出土しており、極めて貴重な資料である。直弧文を施した鹿角装刀子を含め、通常の古墳とは異なった副葬品が見られることも特徴である。小規模墳ながら、独特の地域社会がこの時期の当地に形成されていたことを想定させる。当地に「ミヤケ」という地名が残っていることと、何らかの関係があるのかも知れない。

**飛鳥・奈良時代の集落**　飛鳥時代に相当する竪穴住居は、桑名垣内遺跡や加和良神社遺跡で確認できる。これらは小規模な竪穴住居集落で、古墳時代後期から続く傾向とみてよいであろう。

**平安時代の規則的配列建物群**　平安時代になると、当地域の遺跡形成が急激に変化している。その代表が桑名垣内遺跡である。ここでは平安時代の規則的に配列された建物群が確認された。構成される建物群も多く、何らかの公的機関が存在していた可能性がある。先述の「ミヤケ」地名とも関係するのであろうか。今後の検討深化が必要である。

## 2　中世集落の動向

今回報告したなかで、最も多いのがこの時期の集落遺跡である。この時期の動向を第Ⅸ－2図から見ておく。これは、灰釉陶器・山茶椀類・古瀬戸・大窯製品といった尾張産陶器類の出土状況から第Ⅸ－1図と同じ方法で見たものである。この時期は、桑名垣内遺跡を初期のピークとし、その後は加和良神社遺跡・橋門遺跡・長法寺西垣内遺跡の順にその中

心が移行する状況が見て取れる。しかし、古瀬戸中期併行期には急激に減少し、古瀬戸後期併行は長法寺西垣内遺跡や橋門遺跡でわずかに見られる程度である。そして、瀬戸大窯期の遺物はほとんど見られなくなっている。

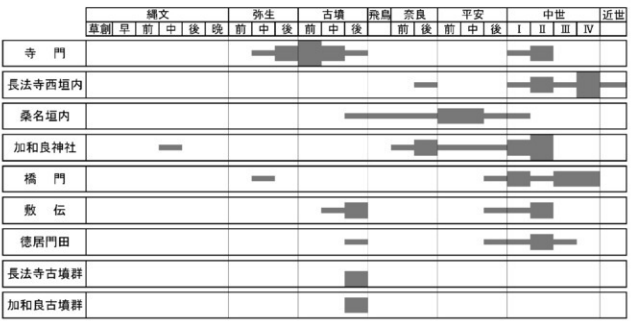
中ノ川流域の状況としては、古代末期頃に拠点となる遺跡から分化するかたちで集落地が広がっていることが明確に確認できた。

なお、中世集落の多くは12～13世紀代に集中し、14世紀代や16世紀代の状況はよく分からない。これは中ノ川流域に限ったことではなく、旧伊勢国内の他地域でも見られる基本的なあり方である。これが何を意味するのかは今のところ不明とせざるを得ないが、当地域を含めた伊勢地域全体の問題として今後も検討を加える必要がある。

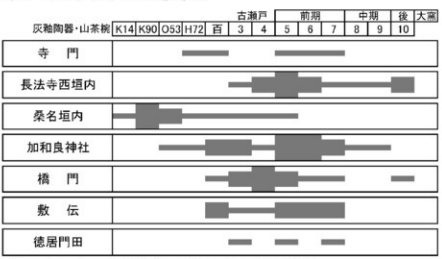
以上、簡単ではあるが、中ノ川中流域の遺跡動向を見てきた。中ノ川流域のようにまとまった調査資料のある地域はそれほど多くない。当地域を考古学的に検討することは、他の地域のモデルケースともなる重要な作業であると考える。今後、より詳細な検討を加えていくべきであろう。　　（伊藤）

＜註＞

(1)三重県埋蔵文化財センター『河曲の遺跡』(2004年)
(2)三重県埋蔵文化財センター『鳴抜』Ⅲ (2001年) ほか
(3)鈴木敏則「伊勢の淡輪円筒埴輪」(『Miehistory』vol. 3 三重歴史文化研究会　1991年)




第Ⅸ―1図　中ノ川中流域の遺跡変遷




第Ⅸ―2図　中ノ川中流域における古代・中世遺跡の変遷

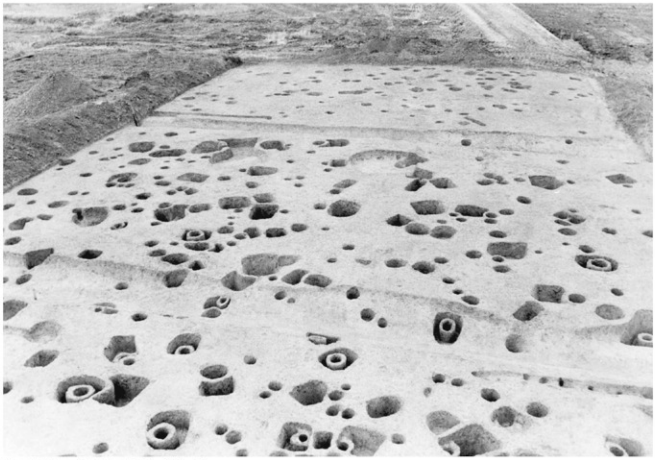
北部竪穴住居跡群（南から）

竪穴住居ＳＨ1付近（西から）

中央部ＳＫ９付近（北から）

北部ＳＢ60付近（西から）

第１次調査　A地区（東から）



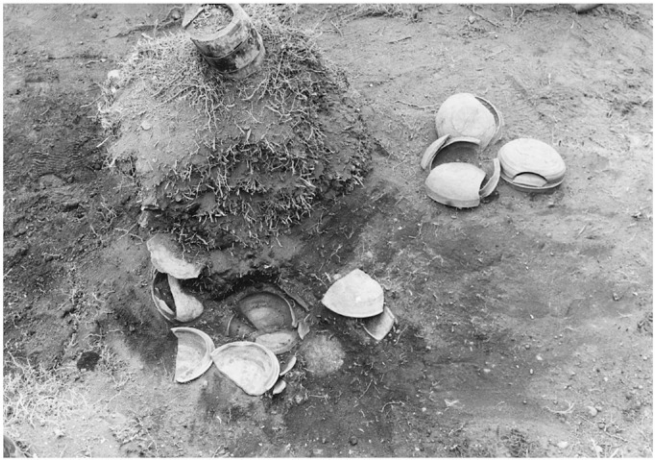
第１次調査　A地区中央部分（東から）

第１次調査区（北から）

第２次調査区（西から）

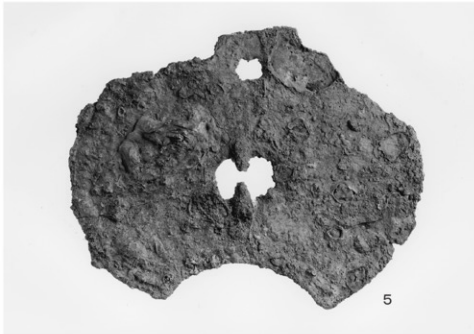
埋葬施設全景（東から）

埋葬施設1　馬具と須恵器（東から）



1号墳墳丘南西部出土の須恵器（北から）

2号墳埋葬施設（西から）




楕円形鏡板

楕円形鏡板

辻金具

小刀（把部直弧文）

# 報告書抄録

| | |
|---|---|
| ふりがな | すずかしなかのがわちゅうりゅういきのこうこしりょう |
| 書名 | 鈴鹿市中ノ川中流域の考古資料 |
| シリーズ名 | 研究紀要 |
| シリーズ番号 | 15－2 |
| 編著者名 | 伊藤裕偉・大川操 |
| 編集機関 | 三重県埋蔵文化財センター |
| 住所 | 〒515-0325　三重県多気郡明和町竹川503　　TEL 0596（52）7031 |
| 発行年月日 | ２００６年３月28日 |

| ふりがな<br>所収遺跡名 | ふりがな<br>所在地 | 市町村コード | 遺跡番号 | 北緯<br>° ′ ″ | 東経<br>° ′ ″ | 調査期間 | 面積<br>㎡ | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| てらかど<br>寺門遺跡 | すずかしみやけちょう<br>鈴鹿市三宅町<br>こでら<br>字寺門 | 24207 | 722 | 34°49′19″ | 136°30′02″ | 19850527～<br>19850726 | 1,400 | 昭和60～63年度県営農業基盤整備事業（合川・下之庄地区） |
| ちょうほうじにしのいと<br>長法寺西垣内遺跡<br>長法寺１号墳 | すずかしちょうほうじちょう<br>鈴鹿市長法寺町<br>字西垣内 | | 924<br>279 | 34°49′31″ | 136°30′05″ | 198709～<br>198801 | 4,000 | |
| くわなかいと<br>桑名垣内遺跡 | すずかしちょうほうじちょう<br>鈴鹿市長法寺町<br>字桑名垣内 | | 925 | 34°49′32″ | 136°30′10″ | 198711・12<br>198805・06 | 2,400 | |
| かわら<br>加和良神社遺跡<br>加和良３号墳 | すずかしみやけちょう<br>鈴鹿市三宅町<br>字西条 | | 572 | 34°49′28″ | 136°30′21″ | 198712<br>198806～08 | 2,470 | |
| 加和良１号墳<br>加和良２号墳 | | | 570<br>571 | 34°49′26″ | 136°30′25″ | 198807～09 | 600 | |
| とくいもんでんいせき<br>徳居門田遺跡 | すずかしとくいちょう<br>鈴鹿市徳居町<br>もんでん<br>字門田 | | 928 | 34°49′13″ | 136°30′52″ | 198809 | 230 | |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 寺門遺跡 | 集落跡 | 古墳前期 | 竪穴住居 | 土師器 | 土師器良好 |
| 長法寺西垣内遺跡 | 集落跡 | 中世 | 掘立柱建物中・井戸・溝 | 土師器・陶器 | 中世の鍛造集落 |
| 長法寺１号墳 | 古墳 | 古墳後期 | 周溝 | 円筒埴輪・形象埴輪 | 淡輪系円筒埴輪 |
| 桑名垣内遺跡 | 集落跡 | 平安以降 | 掘立柱建物 | 土師器・須恵器 | 官衙風配置の建物群 |
| 加和良神社遺跡 | 集落跡 | 奈良以降 | 竪穴住居・掘立柱建物 | 土師器・須恵器 | 中世前期の陶器硯 |
| 加和良古墳群 | 古墳 | 古墳後期 | 古墳 | 楕円形鏡板付轡・須恵器 | 直弧文入り鹿角装刀子 |
| 徳居門田遺跡 | 集落跡 | 古墳以降 | | 土師器・須恵器 | |

# 鈴鹿市中ノ川中流域の考古資料

研究紀要　第15－２号
２００６（平成18）年３月28日

編集・発行　三重県埋蔵文化財センター
印　　刷　東海印刷株式会社